

# 認知症に関する市民意識調査

## 報 告 書

平成29年3月

生 駒 市



# 目 次

<b>I. 調査実施概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査目的 .....	1
2. 調査設計 .....	1
3. 調査票の回収結果 .....	1
4. 報告書のみかた .....	2
5. 回答者の属性 .....	4
<b>II. 調査結果</b> .....	<b>7</b>
<b>1. 認知症に対するイメージについて</b> .....	<b>7</b>
(1) 認知症の人と接した経験および経験の内容 .....	7
(2) 認知症の初期症状だと思うこと .....	12
(3) 認知症は病気だと思うか .....	15
(4) 認知症の治療に関するイメージ .....	17
(5) 認知症の人が偏見を持ってみられると思うか .....	19
(6) 周囲の対応により進行の変化があると思うか .....	22
(7) 「予防できる認知症」の認知状況 .....	25
(8) 「治る可能性のある認知症」の認知状況 .....	28
(9) 「若年性認知症」の認知状況 .....	31
(10) 認知症に関する情報の入手先 .....	34
(11) 認知症に関する講演会や催しへの参加経験 .....	36
<b>2. 自身や家族が認知症になったときの生活について</b> .....	<b>39</b>
(1) 認知症になった場合を考えた経験および考えた内容 .....	39
(2) 自身・家族が認知症になった場合に知られてもよいか .....	43
(3) 認知症の疑いがあるときにまず相談する先 .....	46
(4) 自身に対する介護意向 .....	51
(5) 家族に対する介護意向 .....	55
(6) 介護を続けるために必要な支援 .....	59
<b>3. 認知症の人やその家族を支える仕組みについて</b> .....	<b>62</b>
(1) 地域住民の協力の必要性 .....	62
(2) 近所の認知症の人への対応 .....	65
(3) 認知症カフェの利用意向 .....	73
(4) 知っている相談機関や制度 .....	75
(5) 認知症サポーターの認知状況および養成講座の受講意向 .....	77
(6) 「認知症初期集中支援チーム」の利用意向 .....	81
(7) 認知症の人の見守り活動への協力意向 .....	83
(8) 認知症の人にとって暮らしやすい地域とは .....	86
<b>参考資料</b> .....	<b>87</b>
調査票 .....	87



# I. 調査実施概要

---

## 1. 調査目的

認知症になっても本人、家族とともに住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるまちを目指し、認知症についての正しい理解の啓発、早期発見・対応、地域での見守り、支援体制の充実、権利擁護等様々な視点から支援を行う体制づくりに取り組む際の参考とするため、地域で認知症の高齢者の方やその家族を支える上での課題を明らかにし、今後の地域づくり・支援体制づくりに役立てることを目的とする。

## 2. 調査設計

### (1) 調査の対象者

○生駒市在住の20歳以上（平成28年11月1日現在）の男女 3,000人

### (2) 調査対象者の抽出方法

○平成28年11月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出

### (3) 調査方法および調査期間

○郵送配布・回収（お礼状兼督促1回あり）、無記名方式

○平成28年12月12日（月）～12月27日（火）

### (4) 調査項目

○認知症に対するイメージについて

○自身や家族が認知症になったときの生活について

○認知症の人やその家族を支える仕組みについて

○回答者属性

（なお、日常生活圏域・性・年代については、予め調査票に数字を印字して把握）

## 3. 調査票の回収結果

○配布件数 3,000件

○有効回答数（率） 1,812件（60.4%）

## 4. 報告書のみかた

### (1) 調査結果の精度

- 本調査は、調査対象となる母集団（生駒市在住の20歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の回答比率等から母集団の回答比率等を推測する、いわゆる「標本調査」である。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。
- 標本誤差は、次式で統計学的に得られる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(100 - P)}{n}}$$

N=97,127 [母集団=生駒市の20歳以上人口]  
 n=1,812 [標本数]  
 P=回答の比率 (%)

- 今回調査の標本誤差は、以下のとおり。

表 1 今回調査の標本誤差

回答の比率	90%	80%	70%	60%	50%
	10%	20%	30%	40%	
誤差	±1.37	±1.82	±2.09	±2.23	±2.28

(この表の計算式の信頼度は95%である)

※表1の見方:ある設問で、全体の回答が『50%』であった場合、50%を中心に±2.28、つまり、真の値は『47.72%~52.28%』の間にあると推定してよいが、その推定が正しい確率は95%である。

### (2) 地域区分

- 本調査における地域区分は、「生駒市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画」に基づく10の日常生活圏域である。

表 2 生駒市の日常生活圏域の区域

圏域	区域
1	生駒北中学校区 光明中学校区（一部）
2	鹿ノ台中学校区
3	上中学校区
4	光明中学校区（一部） 生駒中学校区（一部）
5	生駒中学校区（一部） 光明中学校区（一部）
6	生駒中学校区（一部）
7	緑ヶ丘中学校区
8	大瀬中学校区（一部）
9	生駒南中学校区
10	大瀬中学校区（一部）

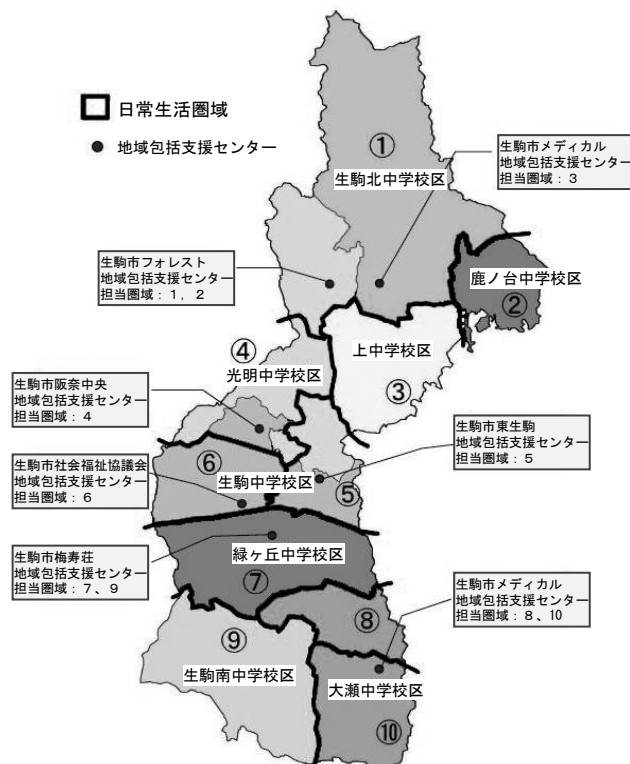


図 1 生駒市の日常生活圏域図

### (3) 報告書記載事項について

- 比率はすべて、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（副問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。また、2つ以上の選択肢を集約した場合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『思う』など）は、該当選択肢の回答数の合計から割合を算出しているため、グラフに示した選択肢ごとに算出した割合の合計と一致しない場合がある。
- 図表中の「N」は集計対象者数（あるいは、分類別の該当対象者数）を示し、各選択肢の回答比率は「N」を集計母数として算出した。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- 図表中の「不明・無回答」は、回答の判別が著しく困難であったもの、あるいは回答が示されていないものである。ただし、日常生活圏域・性・年代の「不明」については、返送時に調査票印字の数字が判別困難となっていたものである。
- 属性別のクロス集計については、「その他」、「不明・無回答」を除いて示しているため、それぞれの「N」の合計が全体の「N」とは一致しない場合がある。

## 5. 回答者の属性

回答者の属性は、以下のとおりである。

### (1) 日常生活圏域

回答者の日常生活圏域(図2)は、「圏域7」が19.5%で最も多く、以下、「圏域3」が16.6%、「圏域5」が10.2%と続いている。

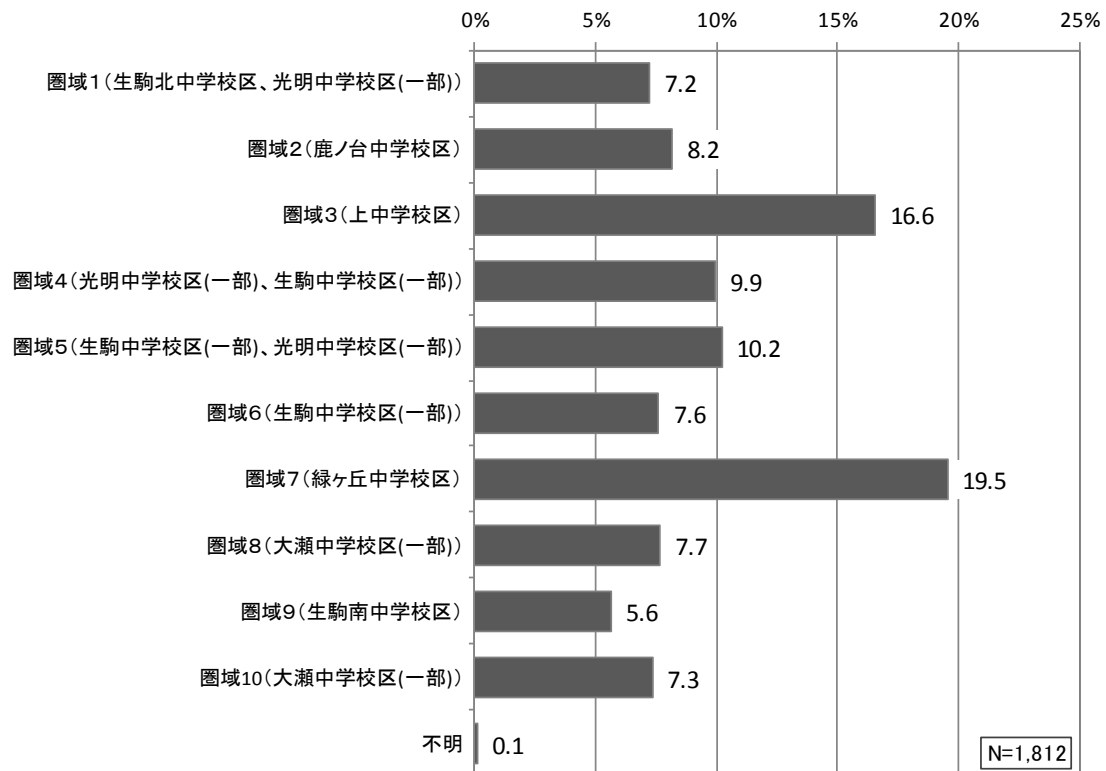


図2 回答者の日常生活圏域

### (2) 性別

回答者の性別(図3)は、「女性」が56.3%、「男性」が43.5%となっている。

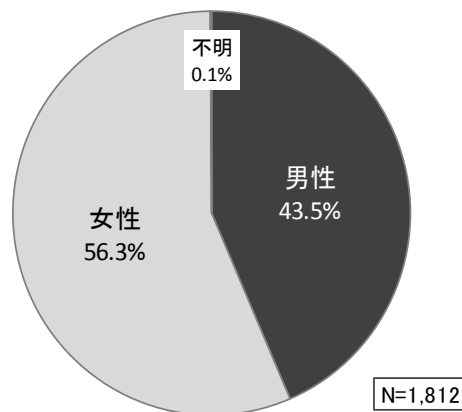


図3 回答者の性別



### (3) 年代

回答者の年代（図 4）は、「60歳代」が21.5%で最も多く、以下、「40歳代」が18.7%、「70歳代」が17.2%と続いている。

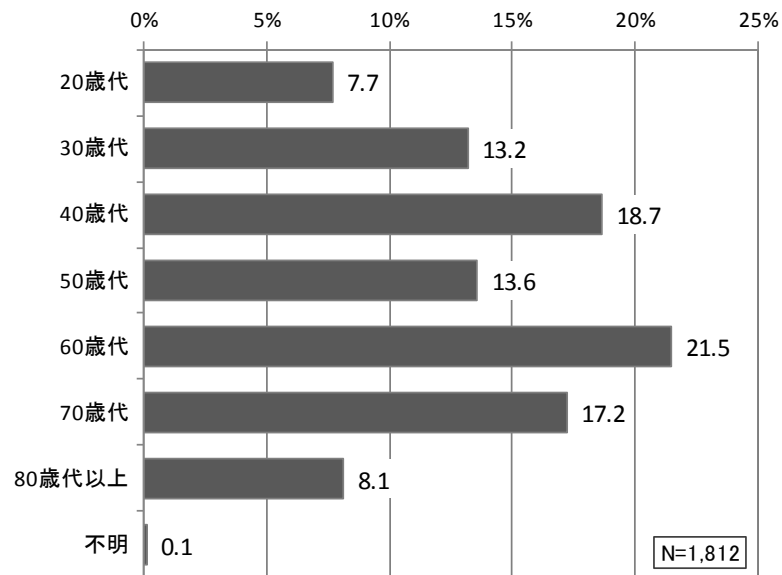


図 4 回答者の年代

### (4) 家族構成

回答者の世帯状況（同居）（図 5）は、「二世帯同居」が46.7%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が31.3%となっている。また、65歳以上の同居家族の有無は、「いる」が57.1%となっている。

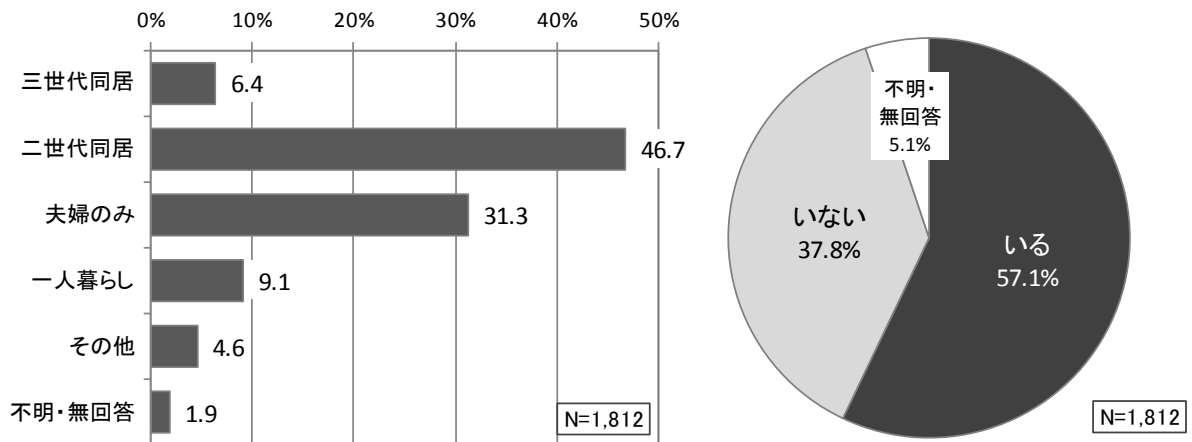


図 5 回答者の世帯状況（同居）および 65 歳以上の同居家族の有無（回答者自身も含む）

## (5) 職業

回答者の主な職業（図 6）は、「無職（専業主婦・主夫を含む）」が40.9%で最も多く、以下、「勤め人（会社員・公務員など）」が33.1%、「パート・アルバイト」が13.7%と続いている。

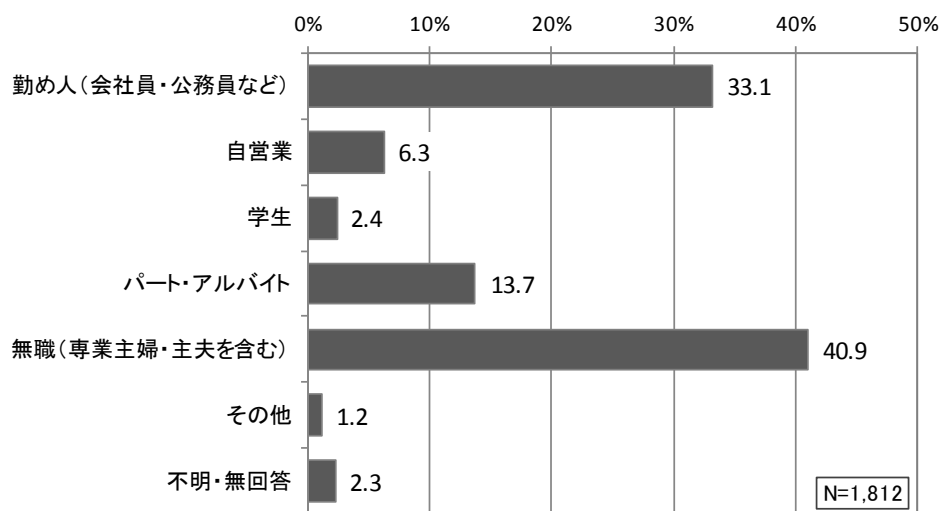


図 6 回答者の主な職業

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 認知症に対するイメージについて

#### (1) 認知症の人と接した経験および経験の内容

問1 あなたは今までに認知症の人と接したことがありますか。(○は1つ)

問1 副問 問1で「1. ある」と答えられた方のみにお聞きします。

経験したことがあるのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

○認知症の人と接した経験(図7)は、「ある」が58.4%と約6割を占めている。

○「ある」と回答した人が接した経験の内容は、「ご家族の中に認知症の人がいた」が29.7%で最も多く、以下、「今までに仕事を通じて、認知症の人と接したことがある」が24.4%、「ご親戚の中に認知症の人がいた」が20.3%と続いている。

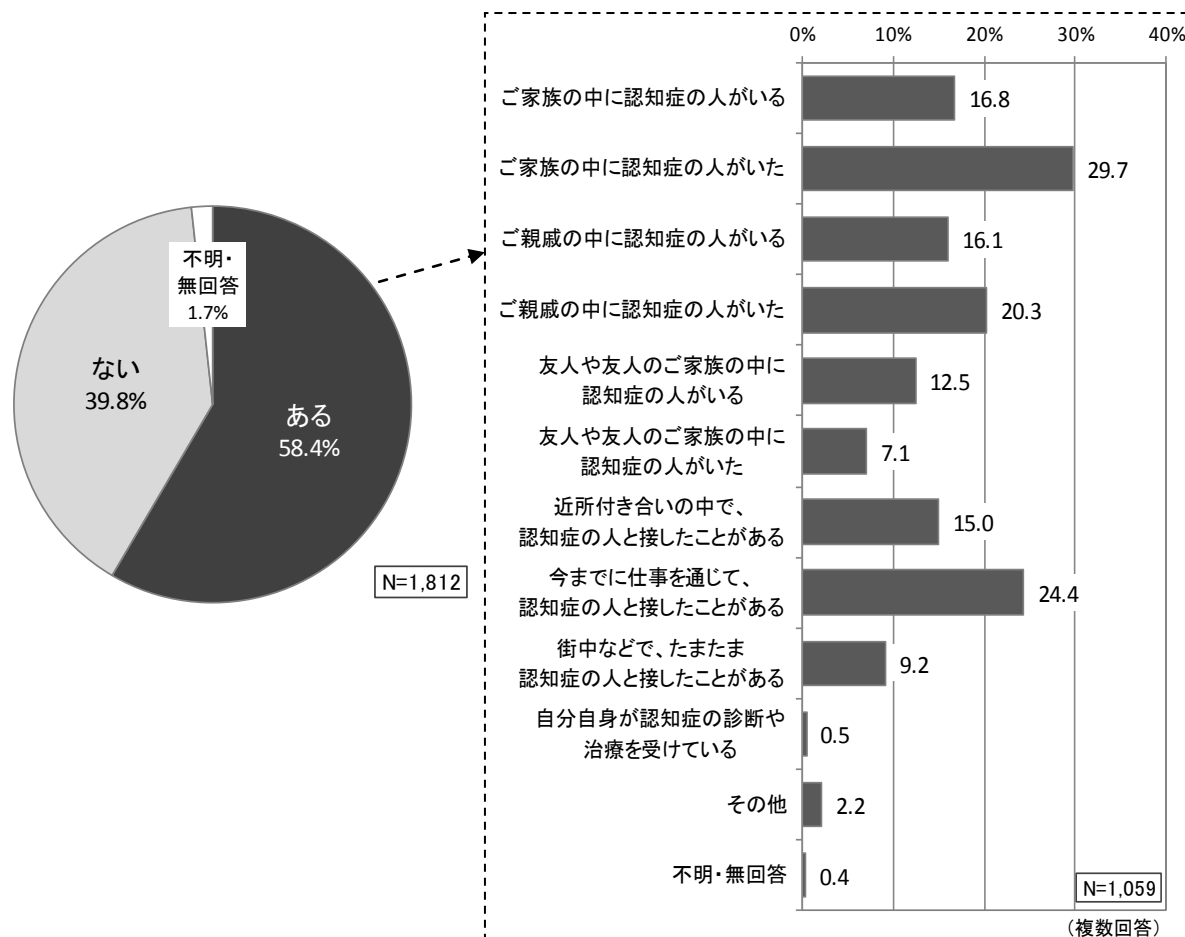


図7 認知症の人と接した経験および経験の内容

- 日常生活圏域別（図 8）に認知症の人と接した経験が「ある」と回答した割合をみると、圏域 9 が 66.7% で最も高く、以下、圏域 10 が 64.7%、圏域 4 が 62.2% と続いている。接した経験の内容（図 9）は、圏域 1 と圏域 6 では「今までに仕事を通じて、認知症の人と接したことがある」、その他の圏域では「ご家族の中に認知症の人がいた」が最も多くなっている。特に、圏域 4 と圏域 9 では「ご家族の中に認知症の人がいた」と回答した割合が 35% 以上となっており、他の圏域と比べて高い。
- 年代別に認知症の人と接した経験が「ある」と回答した割合をみると、30 歳代が 62.8% で最も高く、以下、60 歳代が 60.9%、70 歳代が 60.3% と続いている。経験の内容は、20～50 歳代では「今までに仕事を通じて、認知症の人と接したことがある」、60 歳代以上では「ご家族の中に認知症の人がいた」が最も多くなっている。
- 世帯構成別（図 10）に認知症の人と接した経験が「ある」と回答した割合をみると、三世帯同居が 64.7% で最も高く、次いで、夫婦のみが 59.8% となっている。
- 65 歳以上の同居家族の有無別に認知症の人と接した経験が「ある」と回答した割合をみると、65 歳以上の家族がいる人（59.0%）といない人（58.2%）の差はあまりみられない。

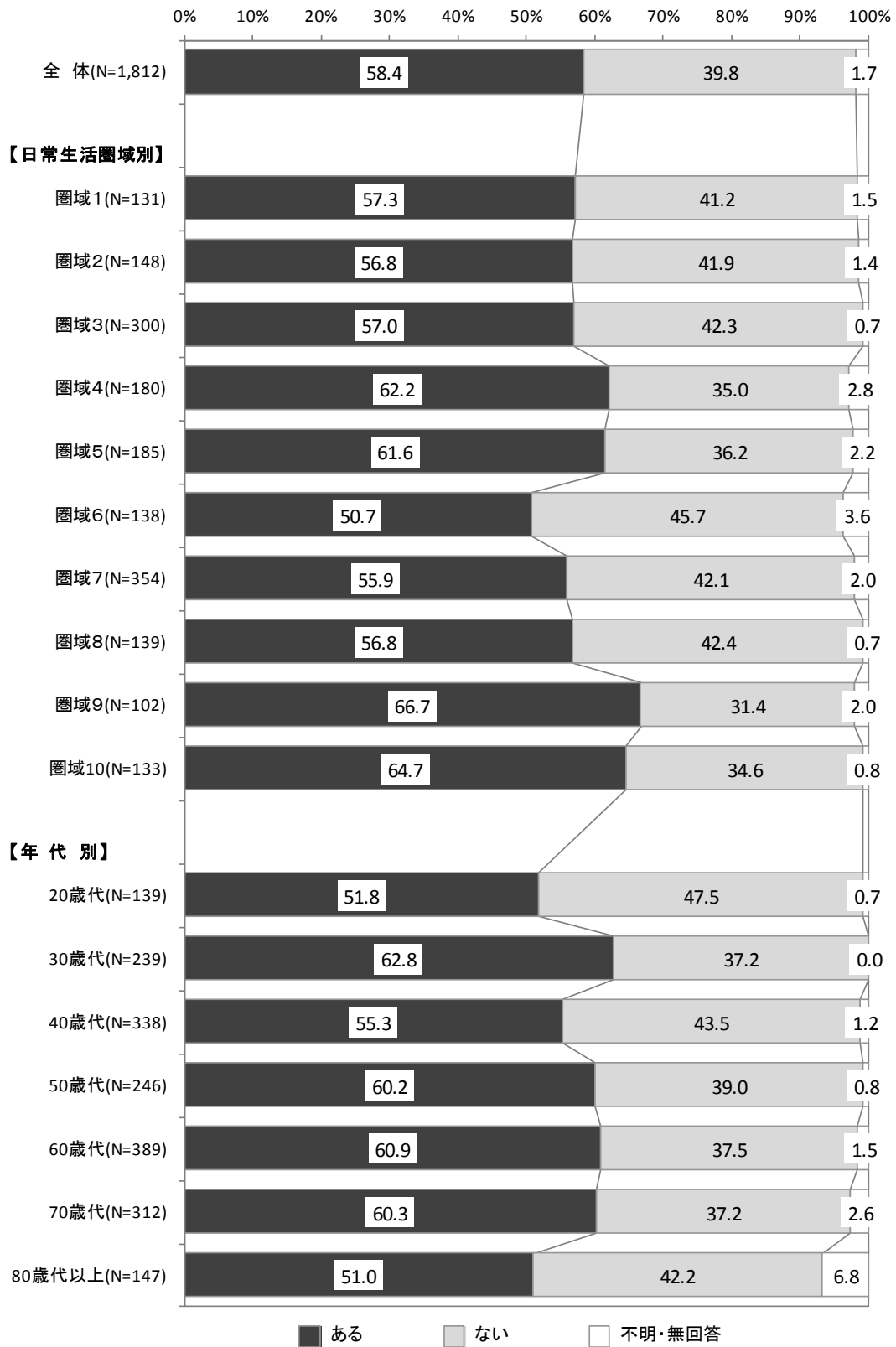


図 8 認知症の人と接した経験《日常生活圏域別・年代別》

単位：%

※太字は上位3つ(「不明・無回答」を除く)

(複数回答)	ご家族の人の中に	ご家族の人の中に	ご親戚の人の中に	ご親戚の人の中に	ご友人や友人の中に	ご友人や友人の中に	近所付き合いの中で、知り合いの人と接したことがある	今までに仕事を通じて、認知症の人と接したことがある	街中などで、たまたま認知症の人と接したことがある	診断や治療を受けている	自分自身が認知症	その他	不明・無回答
	16.8	29.7	16.1	20.3	12.5	7.1	15.0	24.4	9.2	0.5	2.2	0.4	
全体(N=1,059)	16.8	29.7	16.1	20.3	12.5	7.1	15.0	24.4	9.2	0.5	2.2	0.4	
日常生活圏域別	圏域1(N=75)	20.0	22.7	22.7	22.7	21.3	13.3	24.0	25.3	6.7	0.0	5.3	0.0
	圏域2(N=84)	16.7	27.4	16.7	20.2	6.0	6.0	19.0	23.8	8.3	1.2	1.2	0.0
	圏域3(N=171)	15.8	31.0	17.5	19.3	11.1	7.0	17.0	18.7	7.6	0.6	1.8	0.0
	圏域4(N=112)	11.6	36.6	15.2	24.1	14.3	8.0	13.4	28.6	16.1	0.0	1.8	0.0
	圏域5(N=114)	16.7	31.6	19.3	14.9	14.0	5.3	12.3	23.7	7.9	0.0	5.3	0.0
	圏域6(N=70)	21.4	20.0	12.9	15.7	17.1	12.9	14.3	27.1	8.6	1.4	1.4	1.4
	圏域7(N=198)	20.7	28.3	12.1	20.2	9.6	6.1	11.1	23.2	8.6	0.0	1.0	0.5
	圏域8(N=79)	15.2	29.1	17.7	27.8	10.1	5.1	12.7	27.8	7.6	0.0	1.3	0.0
	圏域9(N=68)	14.7	35.3	16.2	13.2	16.2	4.4	20.6	27.9	5.9	1.5	2.9	1.5
	圏域10(N=86)	12.8	32.6	14.0	25.6	11.6	5.8	12.8	25.6	14.0	1.2	1.2	0.0
年代別	20歳代(N=72)	12.5	25.0	18.1	13.9	9.7	4.2	16.7	27.8	11.1	0.0	8.3	0.0
	30歳代(N=150)	16.7	27.3	20.0	18.0	8.0	4.7	14.7	35.3	8.0	0.0	2.0	0.0
	40歳代(N=187)	11.8	29.9	13.4	25.1	6.4	4.8	10.7	31.0	8.0	0.0	0.5	0.0
	50歳代(N=148)	25.7	25.0	12.8	23.0	18.2	7.4	14.2	31.1	9.5	0.7	1.4	0.7
	60歳代(N=237)	19.0	32.1	17.3	21.1	13.9	6.3	13.9	19.0	11.8	0.0	3.0	0.4
	70歳代(N=188)	12.8	32.4	13.8	16.5	15.4	12.2	21.8	15.4	7.4	1.1	2.1	0.0
	80歳代以上(N=75)	18.7	34.7	21.3	21.3	16.0	9.3	13.3	9.3	8.0	2.7	0.0	1.3

図 9 認知症の人と接した経験の内容《日常生活圏域別・年代別》

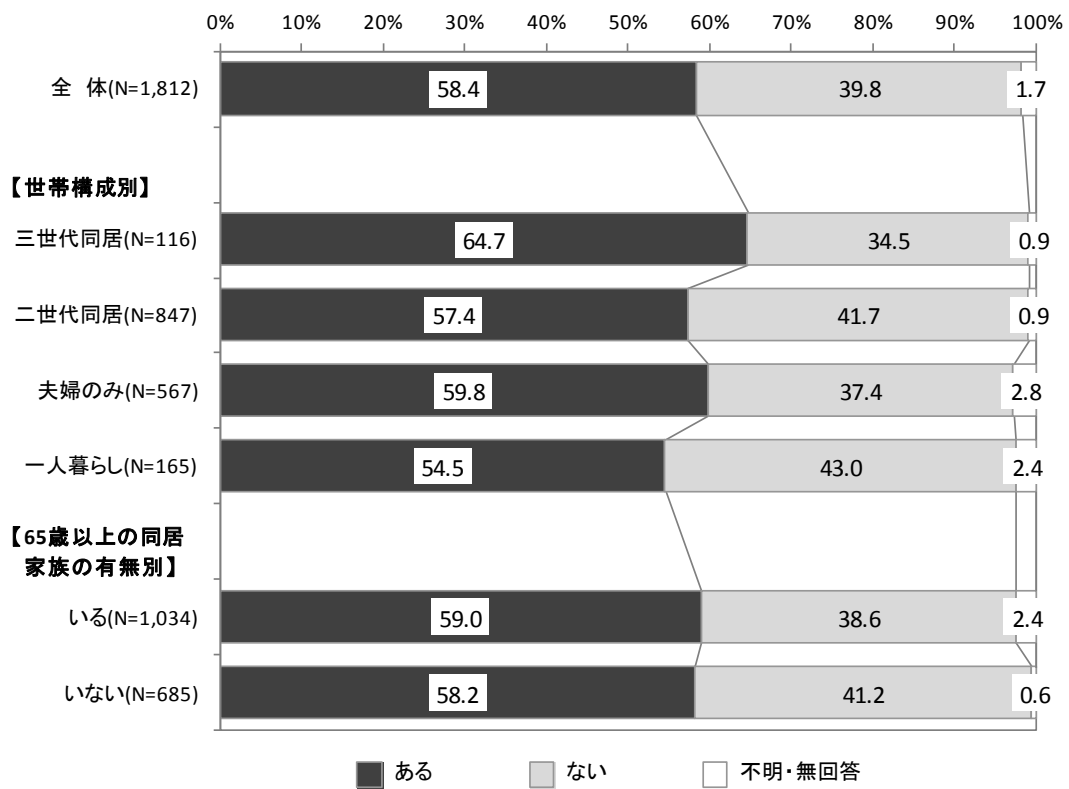


図 10 認知症の人と接した経験《世帯構成別・65歳以上の同居家族の有無別》

## (2) 認知症の初期症状だと思うこと

問2 あなたが認知症の初期症状だと思うのは、次のうちどれですか。(〇は3つまで)

- 認知症の初期症状だと思うこと(図 11)は、「同じことを何度も言う・聞く・する」が36.3%で最も多く、以下、「しまい忘れ、置忘れが増え、探し物が多くなる」が25.3%、「財布・通帳・衣類などを盗まれたと、人を疑う」が24.2%、「よく知っているはずの人の顔や名前を忘れる」が23.6%と続いている。
  
- 日常生活圏域別(図 12)にみると、すべての圏域で「同じことを何度も言う・聞く・する」が最も多くなっている。その他の項目で30%以上を占めているのは、圏域8で「財布・通帳・衣類などを盗まれたと、人を疑う」(33.8%)となっている。
  
- 年代別にみると、20～60歳代では「同じことを何度も言う・聞く・する」が最も多くなっており、特に、30歳代(51.0%)、20歳代(48.9%)ではその割合が高い。また、70歳代では「財布・通帳・衣類などを盗まれたと、人を疑う」、80歳代以上では「しまい忘れ、置忘れが増え、探し物が多くなる」が最も多くなっている。その他の項目で30%以上を占めているのは、20歳代で「よく知っているはずの人の顔や名前を忘れる」(30.9%)、30歳代で「しまい忘れ、置忘れが増え、探し物が多くなる」(32.2%)と「よく知っているはずの人の顔や名前を忘れる」(30.1%)となっている。



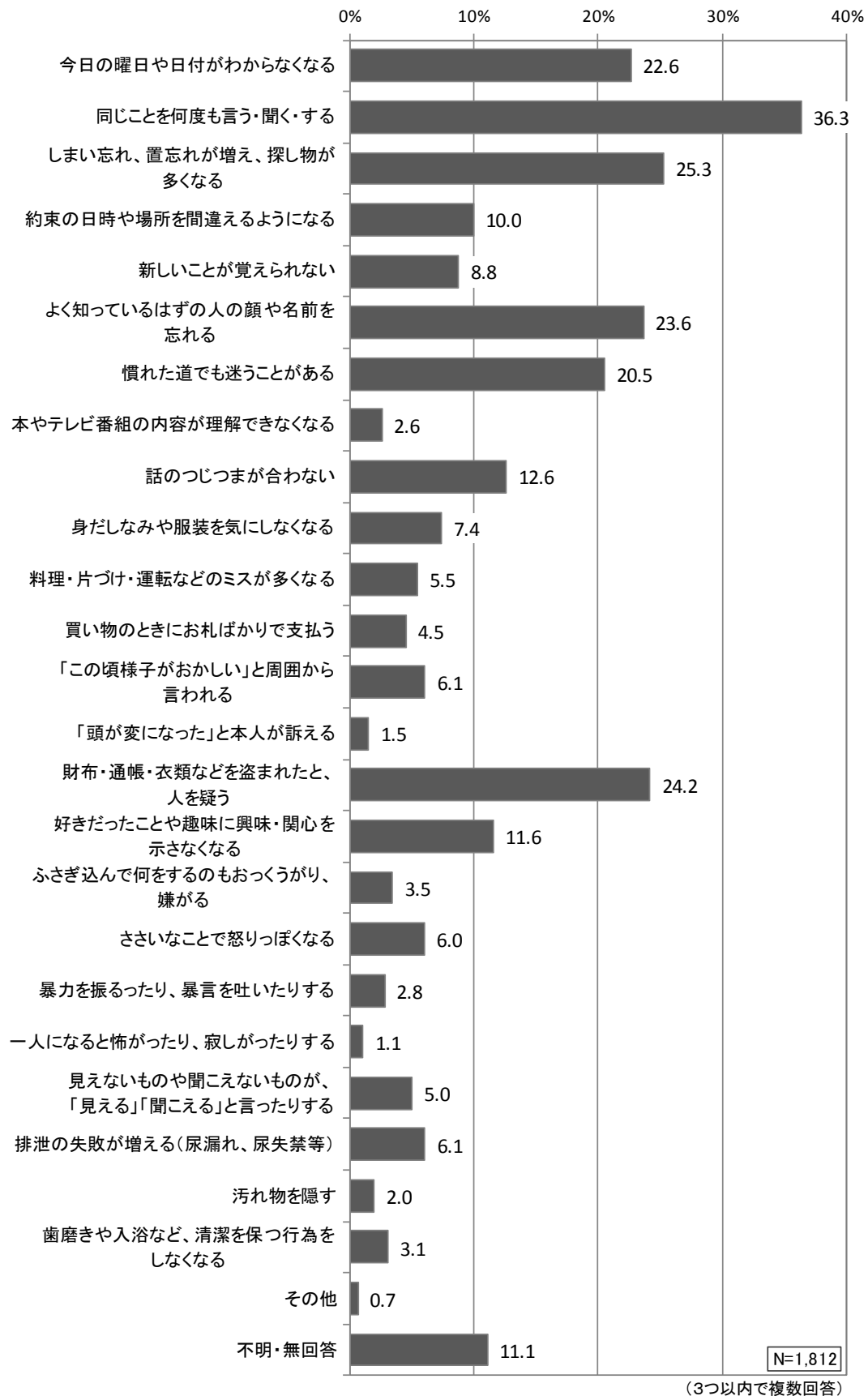


図 11 認知症の初期症状だと思うこと

単位：%

※太字は上位3つ

	(3つ以内で複数回答)	同じことを何度も言う・聞く・する	しまい忘れ、置忘れが増え、探し物が多くなる	財布・通帳・衣類などを盗まれたと、人を疑う	よく知っているはずの人の顔や名前を忘れる	曜日や日付がわからなくなる	慣れた道でも迷うことがある	話のつじつまが合わない	好きだったことや趣味に興味・関心を示さなくなる	約束の日時や場所を間違えるようになる
全体(N=1,812)	<b>36.3</b>	<b>25.3</b>	<b>24.2</b>	23.6	22.6	20.5	12.6	11.6	10.0	
日常生活圏域別	圏域1(N=131)	<b>37.4</b>	<b>27.5</b>	<b>24.4</b>	20.6	18.3	19.1	13.7	9.9	13.0
	圏域2(N=148)	<b>32.4</b>	<b>27.0</b>	<b>27.0</b>	24.3	18.9	18.2	10.8	12.8	8.8
	圏域3(N=300)	<b>38.0</b>	<b>24.7</b>	<b>25.3</b>	20.7	23.3	19.0	11.0	11.0	6.3
	圏域4(N=180)	<b>35.0</b>	20.0	<b>22.2</b>	<b>24.4</b>	20.0	<b>22.2</b>	15.0	12.2	11.7
	圏域5(N=185)	<b>41.6</b>	<b>23.2</b>	21.1	<b>25.4</b>	22.2	<b>23.2</b>	8.6	11.9	8.6
	圏域6(N=138)	<b>27.5</b>	23.9	20.3	<b>24.6</b>	<b>25.4</b>	21.7	15.9	15.2	11.6
	圏域7(N=354)	<b>35.6</b>	<b>28.5</b>	22.9	23.2	<b>25.1</b>	20.1	15.0	11.6	9.6
	圏域8(N=139)	<b>39.6</b>	24.5	<b>33.8</b>	<b>28.1</b>	26.6	23.7	8.6	10.1	10.8
	圏域9(N=102)	<b>35.3</b>	22.5	21.6	<b>23.5</b>	19.6	<b>23.5</b>	14.7	12.7	6.9
	圏域10(N=133)	<b>39.1</b>	<b>28.6</b>	<b>24.8</b>	<b>24.8</b>	22.6	16.5	12.8	9.0	17.3
年代別	20歳代(N=139)	<b>48.9</b>	<b>25.9</b>	15.8	<b>30.9</b>	25.2	18.7	15.1	11.5	8.6
	30歳代(N=239)	<b>51.0</b>	<b>32.2</b>	19.7	<b>30.1</b>	20.5	18.0	16.3	10.5	10.5
	40歳代(N=338)	<b>37.9</b>	24.6	<b>26.6</b>	<b>28.7</b>	20.4	24.0	16.0	11.8	8.0
	50歳代(N=246)	<b>33.3</b>	22.4	<b>28.0</b>	<b>24.8</b>	23.6	24.4	13.0	11.4	11.4
	60歳代(N=389)	<b>36.5</b>	23.9	<b>27.2</b>	18.0	23.9	<b>25.4</b>	10.8	13.9	10.0
	70歳代(N=312)	<b>24.0</b>	21.2	<b>24.4</b>	17.6	<b>23.7</b>	15.7	9.6	9.9	10.3
	80歳代以上(N=147)	<b>27.9</b>	<b>32.7</b>	19.0	20.4	<b>21.8</b>	9.5	7.5	10.9	12.2

図 12 認知症の初期症状だと思うこと（全体が 10.0%以上の項目のみ）《日常生活圏域別・年代別》

### (3) 認知症は病気だと思うか

#### 問3 認知症は病気だと思いますか。(〇は1つ)

※『思う』:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

※『思わない』:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

○認知症は病気だと思うか(図13)については、「そう思う」が45.6%で最も多く、「どちらかといえばそう思う」(33.2%)と合わせると、約8割が『思う』と回答している。

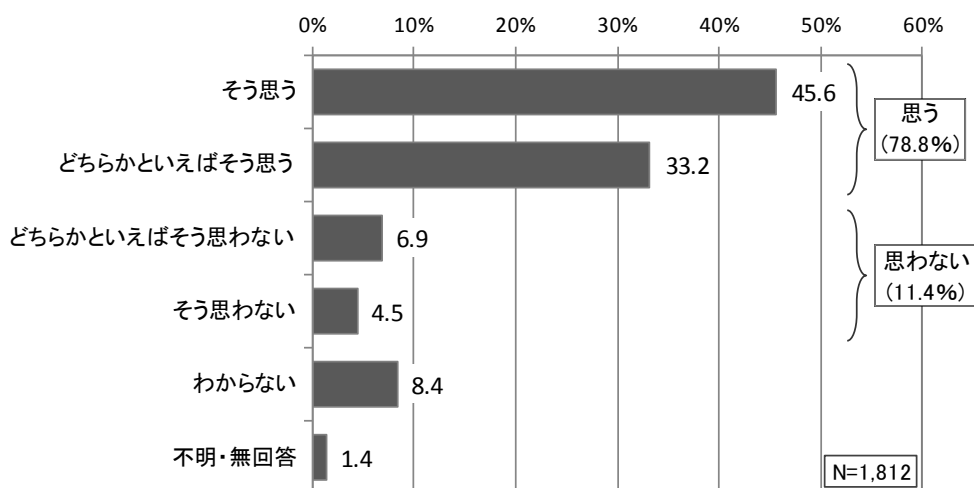


図13 認知症は病気だと思うか

○日常生活圏域別(図14)にみると、すべての圏域で『思う』が7割以上となっている。最もその割合が高いのは、圏域8で83.5%、以下、圏域4が82.2%、圏域3が80.7%、圏域10が80.5%と続いている。

○年代別にみると、すべての年代で『思う』が7割以上となっている。最もその割合が高いのは、30歳代で82.4%、以下、20歳代が80.6%、50歳代が80.5%、40歳代が80.2%と続いている。一方、最も低いのは80歳代以上(70.7%)となっている。



#### (4) 認知症の治療に関するイメージ

問4 認知症の治療に関して、あなたのイメージに最も近いものを選んでください。  
(○は1つ)

○認知症の治療に関するイメージ(図15)は、「治療すれば、進行を遅らせることができる」が80.8%で最も多くなっている。

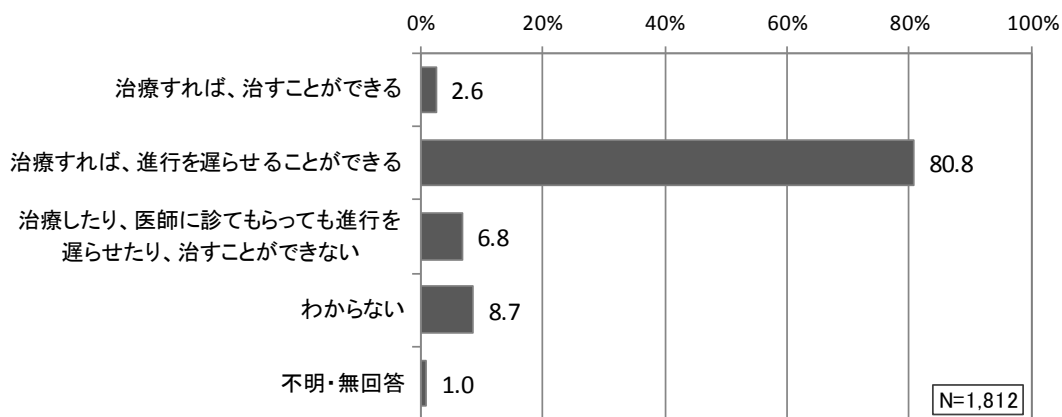


図15 認知症の治療に関するイメージ

○日常生活圏域別(図16)にみると、すべての圏域で「治療すれば、進行を遅らせることができる」が最も多く、特に、圏域4(85.0%)でその割合が高くなっている。

○年代別にみると、すべての年代で「治療すれば、進行を遅らせることができる」が最も多く、特に、30歳代(86.2%)でその割合が高くなっている。また、80歳代以上では、「わからない」(16.3%)や「治療したり、医師に診てもらっても進行を遅らせたり、治すことができない」(10.9%)と回答した割合が他の年代と比べて高くなっている。

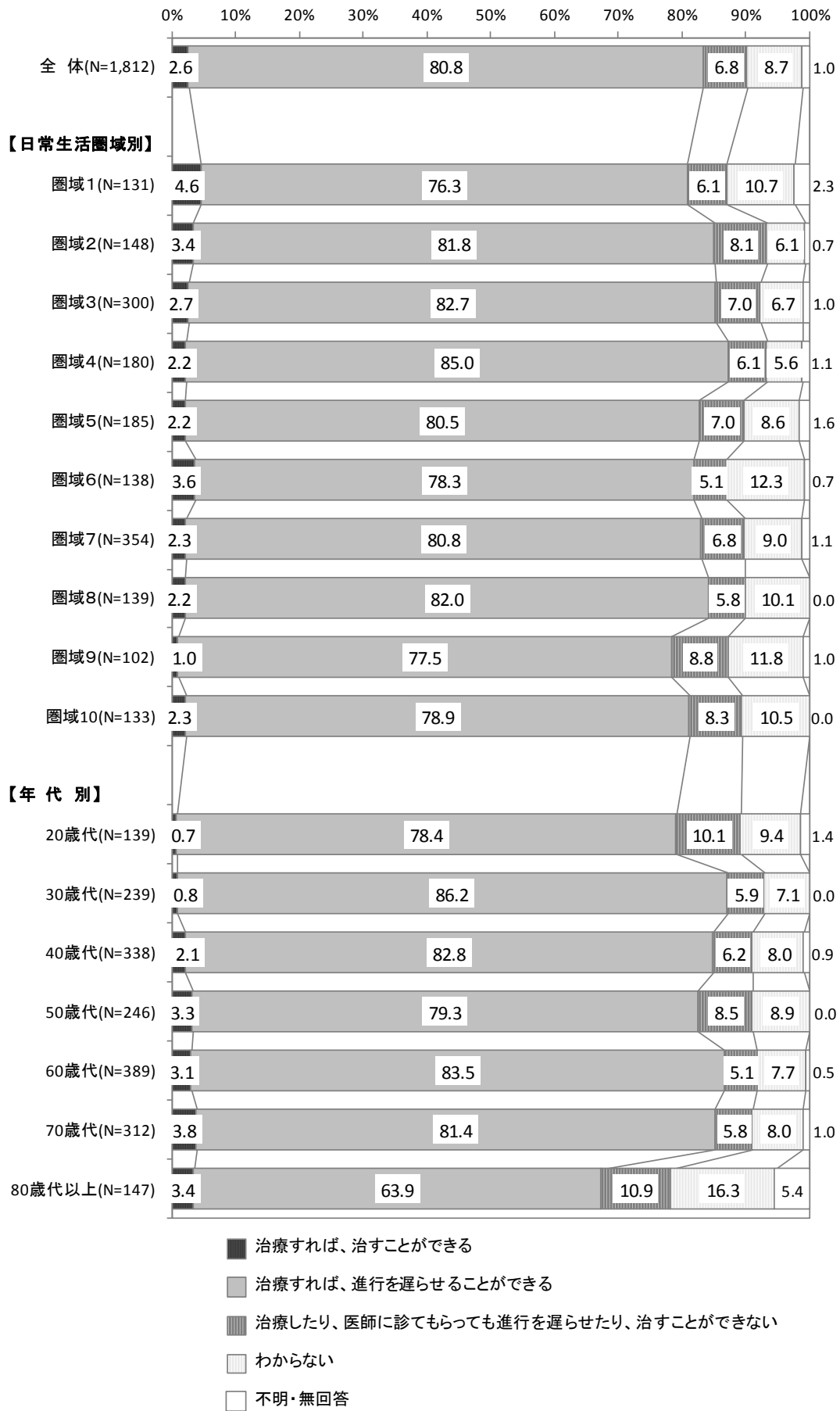


図 16 認知症の治療に関するイメージ《日常生活圏域別・年代別》

(5) 認知症の人が偏見を持ってみられると思うか

問5 認知症の人が偏見を持ってみられる傾向にあると思いますか。(○は1つ)

※『思う』:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計  
 ※『思わない』:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

○認知症の人が偏見を持ってみられると思うか(図17)は、「どちらかといえばそう思う」が47.7%で最も多く、「そう思う」(18.7%)と合わせると、約66%が『思う』と回答している。

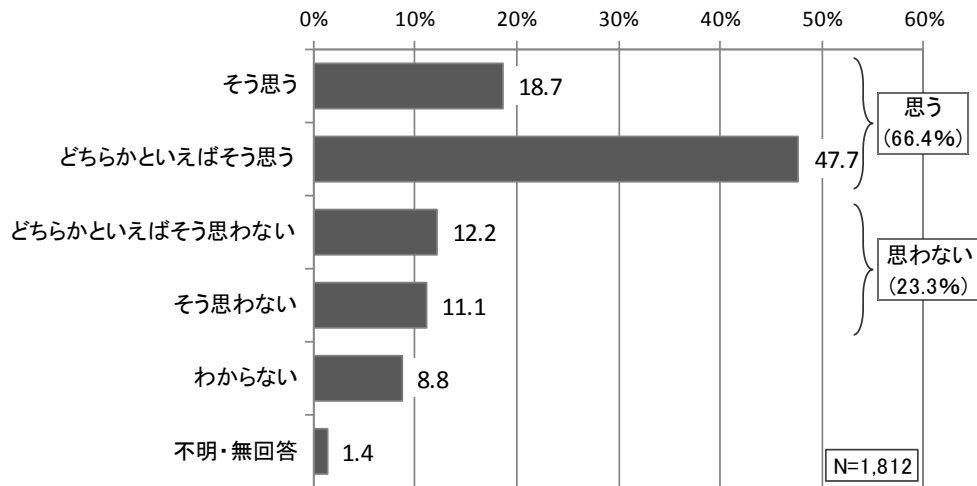


図17 認知症の人が偏見を持ってみられると思うか

○日常生活圏域別(図18)に『思う』割合をみると、最も高いのは圏域8で70.5%、以下、圏域2が69.6%、圏域9が67.6%と続いている。一方、最も低いのは圏域3(64.0%)となっている。

○年代別に『思う』割合をみると、最も高いのは20歳代で74.1%、以下、40歳代が74.0%、30歳代が70.3%と続いており、40歳代以下で7割以上となっている。一方、80歳代以上では46.3%にとどまっており、他の年代と比べてその割合が低い。

○認知症の人と接した経験別(図19)にみると、接した経験がない人よりもある人の方が、『思う』割合も『思わない』割合もやや高くなっている。経験がない人は、「わからない」と回答した割合(12.2%)が、ある人(6.2%)よりも6.0ポイント高くなっている。







(6) 周囲の対応により進行の変化があると思うか

問6 周囲の人の対応によっては、その症状や進行が変わると思いますか。(○は1つ)

※『思う』:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計  
 ※『思わない』:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

○周囲の対応により進行の変化があると思うか(図20)は、「そう思う」が42.3%で最も多く、「どちらかといえばそう思う」(38.0%)と合わせると、約8割が『思う』と回答している。

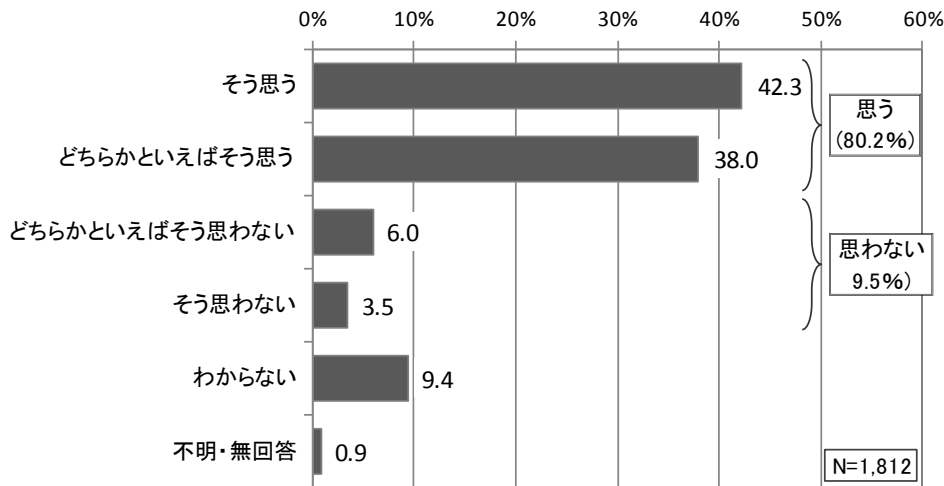


図20 周囲の対応により進行の変化があると思うか

○日常生活圏域別(図21)に『思う』割合をみると、最も高いのは圏域4で83.9%、以下、圏域8が82.0%、圏域5が81.6%と続いている。一方、最も低いのは圏域9(75.5%)となっている。

○年代別に『思う』割合をみると、最も高いのは60歳代で83.3%、以下、40歳代が82.5%、30歳代が82.0%となっている。一方、80歳代以上では65.3%となっており、他の年代と比べてその割合が低い。

○認知症の人と接した経験別(図22)に『思う』割合をみると、接した経験がない人(77.6%)よりもある人(83.3%)の方が5.7ポイント高くなっている。



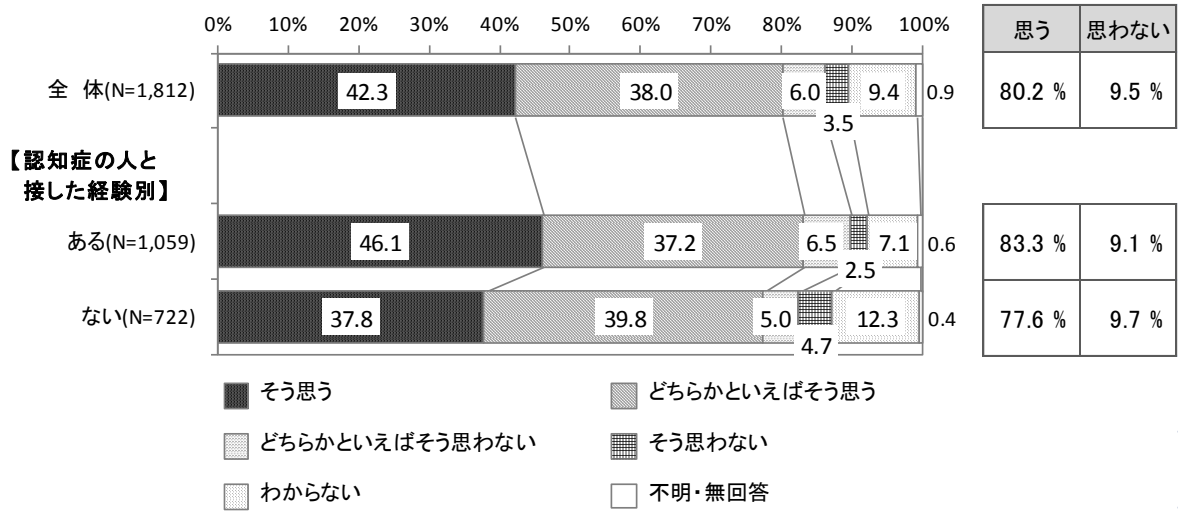


図 22 周囲の対応により進行の変化があると思うか《問1 認知症の人と接した経験別》

(7) 「予防できる認知症」の認知状況

問7 「予防できる認知症」があることをご存知ですか。(〇は1つ)

※『認知度』:「よく知っている」と「少し知っている」の合計

○「予防できる認知症」の認知状況(図23)は、「聞いたことはあるがあまり知らない」が43.5%で最も多くなっている。

○『認知度』(「よく知っている」と「少し知っている」の合計)は約35%となっている。

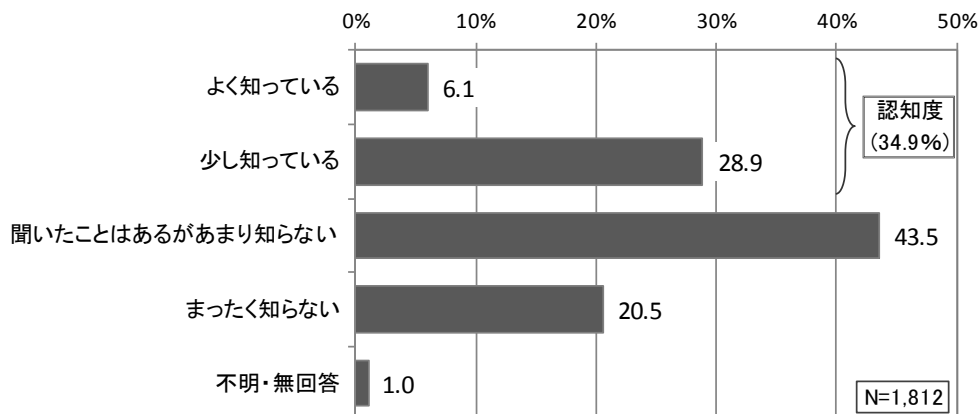


図23 「予防できる認知症」の認知状況

○日常生活圏域別(図24)にみると、すべての圏域で「聞いたことはあるがあまり知らない」が最も多くなっている。『認知度』は、圏域3が39.0%で最も高く、以下、圏域9が38.2%、圏域4が37.2%と続いている。一方、最も低いのは圏域6(31.9%)となっている。

○年代別にみると、すべての年代で「聞いたことはあるがあまり知らない」が最も多くなっている。『認知度』は、60歳代が42.2%で最も高く、以下、70歳代が38.1%、20歳代が37.4%と続いている。一方、80歳代以上(28.6%)と40歳代(29.9%)は3割未満にとどまっている。

○認知症の人と接した経験別(図25)に『認知度』をみると、接した経験がない人(22.7%)よりもある人(43.5%)の方が20.8ポイント高くなっている。また、認知症の人と接した経験がない人は、「まったく知らない」と回答した割合(28.9%)が、接した経験がある人(14.6%)よりも14.3ポイント高くなっている。

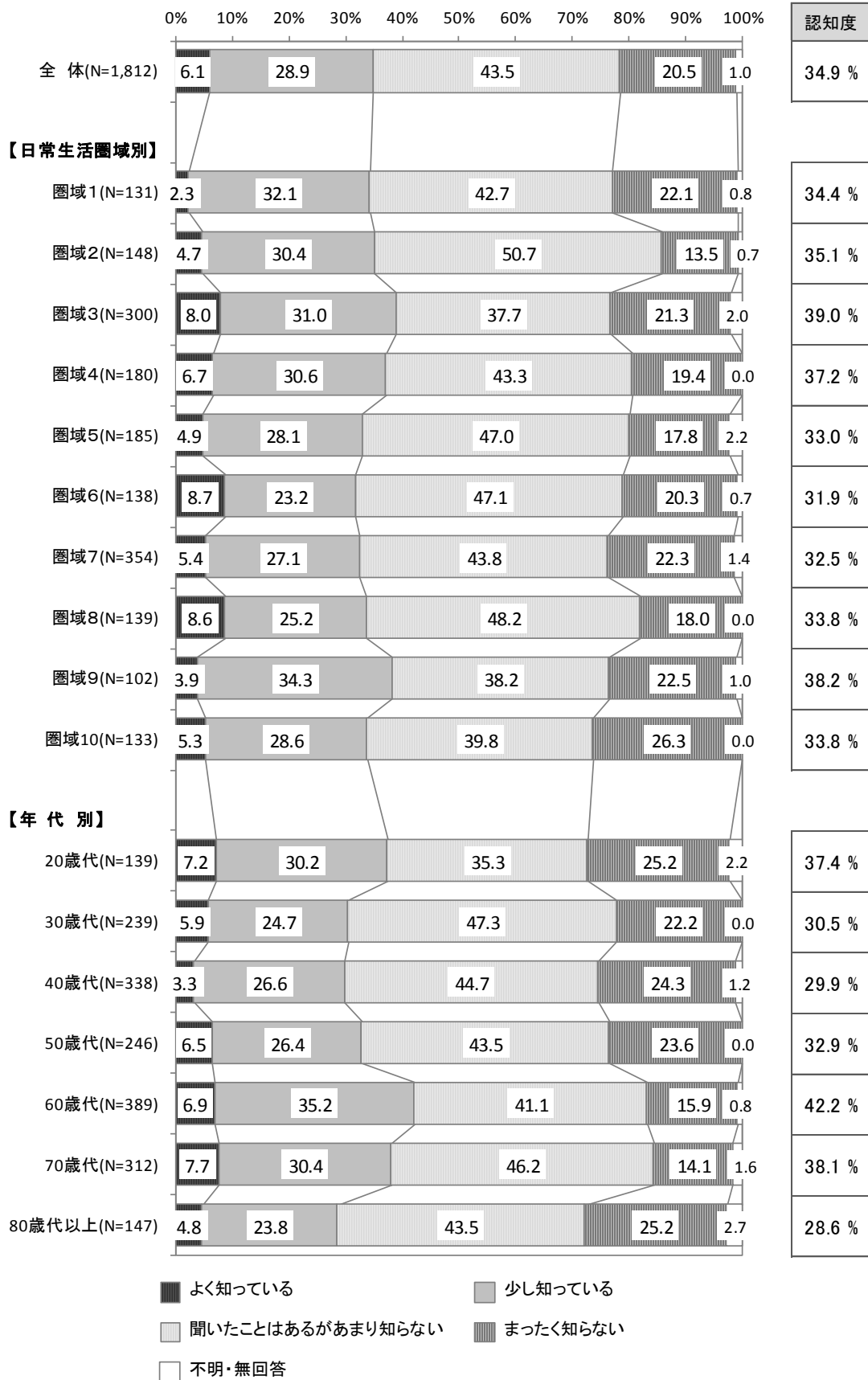


図 24 「予防できる認知症」の認知状況《日常生活圏域別・年代別》

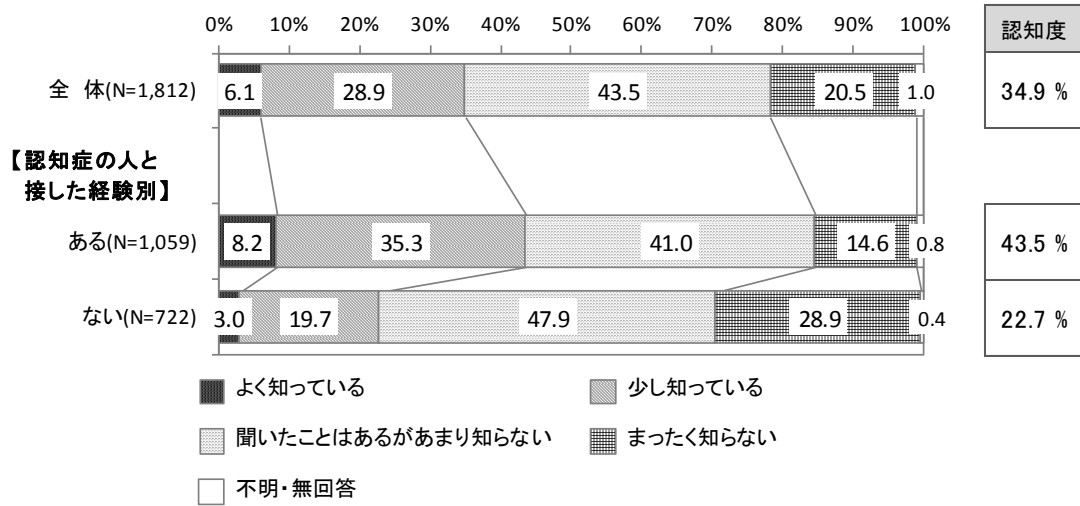


図 25 「予防できる認知症」の認知状況《問1 認知症の人と接した経験別》

(8) 「治る可能性のある認知症」の認知状況

問8 「治る可能性のある認知症」があることをご存知ですか。(○は1つ)

※『認知度』:「よく知っている」と「少し知っている」の合計

○「治る可能性のある認知症」の認知状況(図26)は、「聞いたことはあるがあまり知らない」が39.2%で最も多くなっている。

○『認知度』(「よく知っている」と「少し知っている」の合計)は約24%にとどまっている。

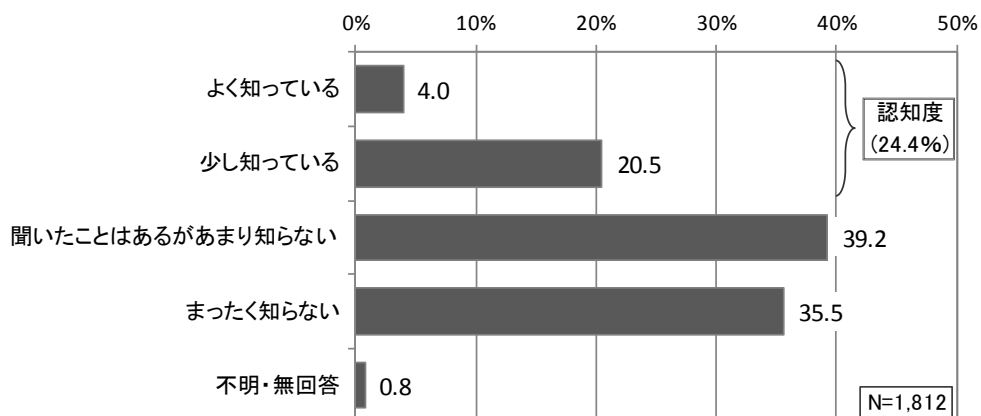


図26 「治る可能性のある認知症」の認知状況

○日常生活圏域別(図27)にみると、圏域6では「まったく知らない」と「聞いたことはあるがあまり知らない」が同率で多く、圏域3、圏域9では「まったく知らない」、その他の圏域では「聞いたことはあるがあまり知らない」が最も多くなっている。『認知度』は、圏域3が28.7%で最も高く、以下、圏域4が25.6%、圏域9が25.5%と続いている。一方、圏域1(18.3%)は2割未満にとどまっている。

○年代別にみると、20~40歳代では「まったく知らない」、50歳代以上では「聞いたことはあるがあまり知らない」が最も多くなっている。『認知度』は、60歳代が28.8%で最も高く、以下、20歳代が27.3%、70歳代が27.2%と続いている。一方、40歳代(17.8%)と80歳代以上(18.4%)は2割未満にとどまっている。

○認知症の人と接した経験別(図28)に『認知度』をみると、接した経験がない人(15.9%)よりもある人(30.7%)の方が14.8ポイント高くなっている。また、認知症の人と接した経験がない人は、「まったく知らない」と回答した割合(45.2%)が、ある人(29.1%)よりも16.1ポイント高くなっている。



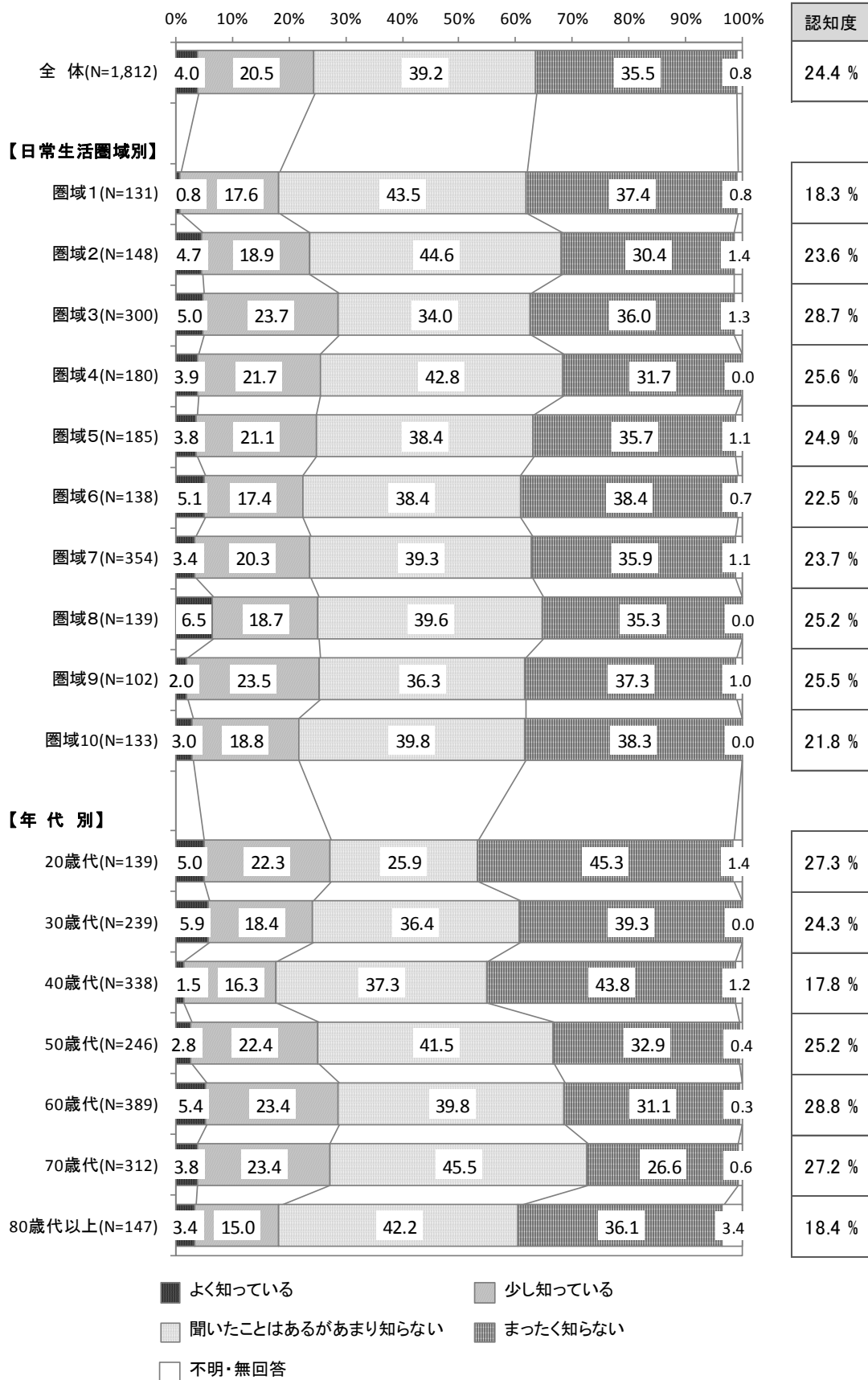


図 27 「治る可能性のある認知症」の認知状況《日常生活圏域別・年代別》

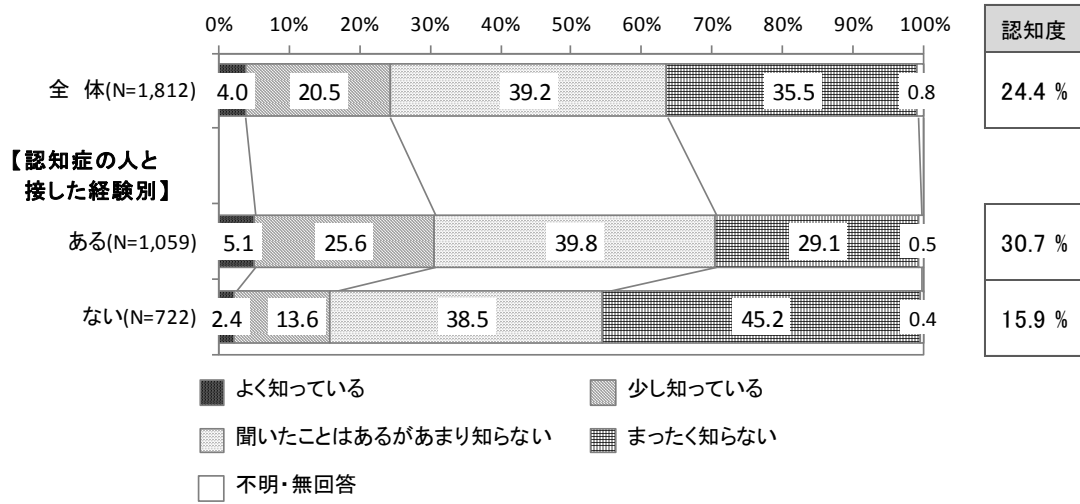


図 28 「治る可能性のある認知症」の認知状況《問1 認知症の人と接した経験別》

(9) 「若年性認知症」の認知状況

問9 65歳未満で発症する「若年性認知症」のことをご存知ですか。(○は1つ)

※『認知度』:「よく知っている」と「少し知っている」の合計

- 「若年性認知症」の認知状況(図29)は、「少し知っている」が45.0%で最も多く、「よく知っている」(18.8%)と合わせると、『認知度』は約64%となっている。
- 「若年性認知症」の『認知度』は、「予防できる認知症」(図23,『認知度:34.9%』)や「治る可能性のある認知症」(図26,『認知度:24.4%』)と比べて高くなっている。

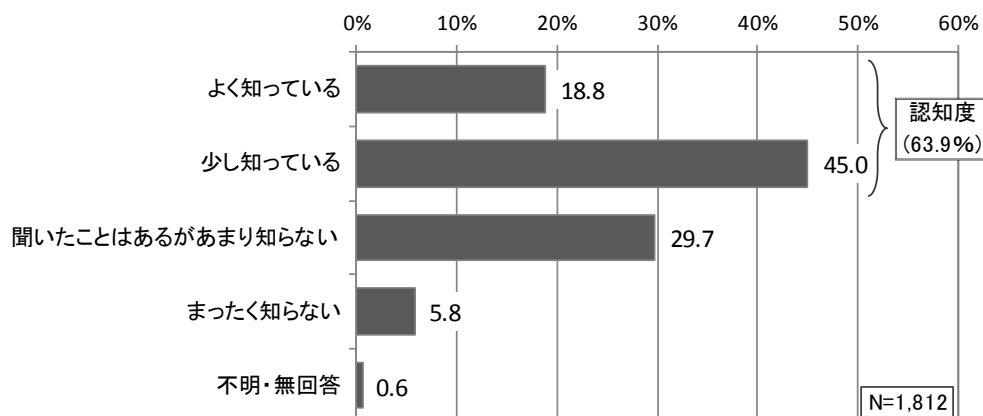


図29 「若年性認知症」の認知状況

- 日常生活圏域別(図30)にみると、すべての圏域で「少し知っている」が最も多くなっている。『認知度』は、圏域2が66.9%で最も高く、以下、圏域9が66.7%、圏域5が65.9%と続いている。一方、最も低いのは圏域1(59.5%)となっている。
- 年代別にみると、80歳代以上では「聞いたことはあるがあまり知らない」、その他の年代では「少し知っている」が最も多くなっている。『認知度』は、60歳代が69.4%で最も高く、以下、70歳代が67.0%、30歳代が64.0%と続いている。一方、80歳代以上では49.7%にとどまっており、他の年代と比べてその割合が低い。
- 認知症の人と接した経験別(図31)に『認知度』をみると、接した経験がない人(54.8%)よりもある人(70.9%)の方が16.1ポイント高くなっている。

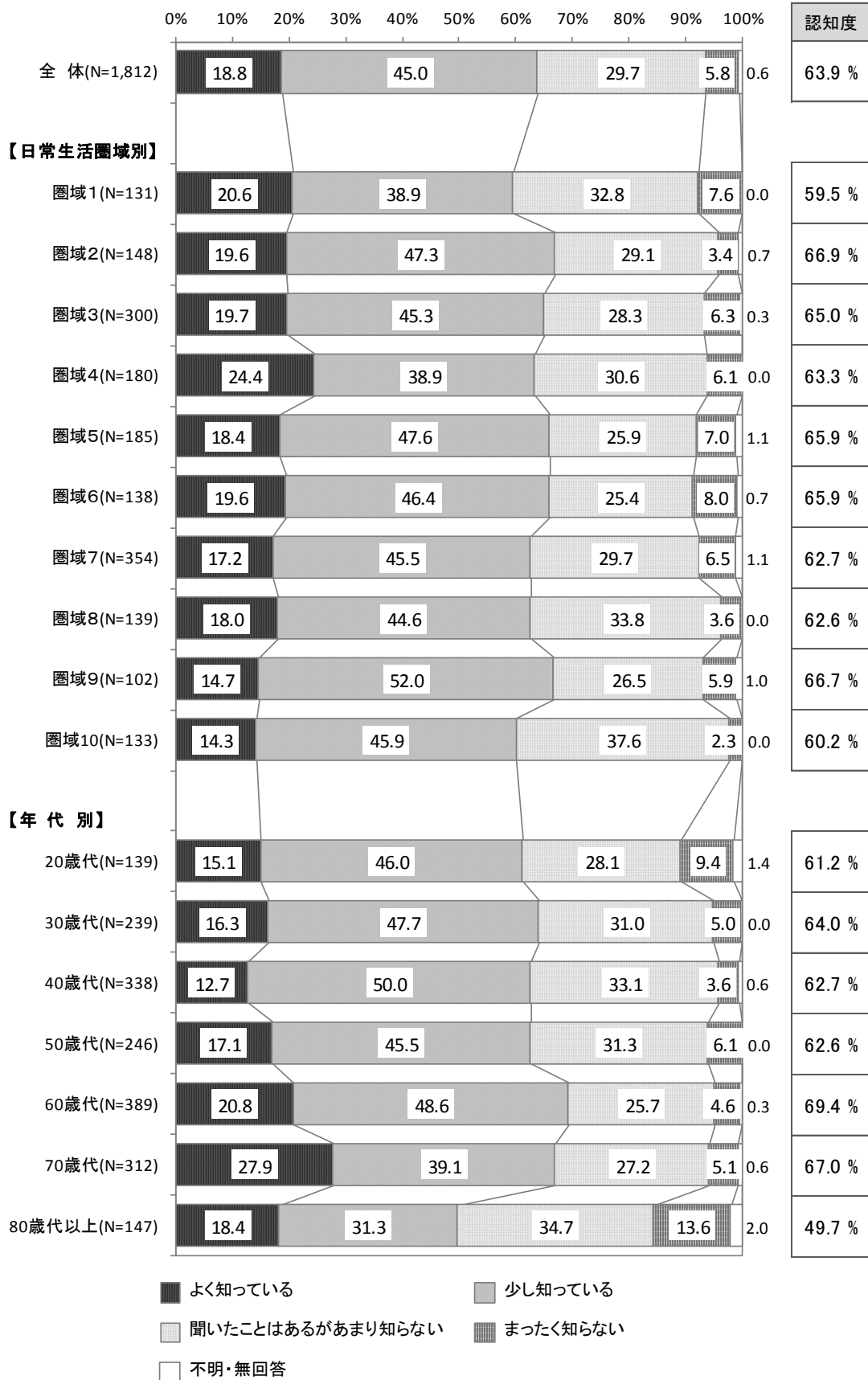


図 30 「若年性認知症」の認知状況《日常生活圏域別・年代別》

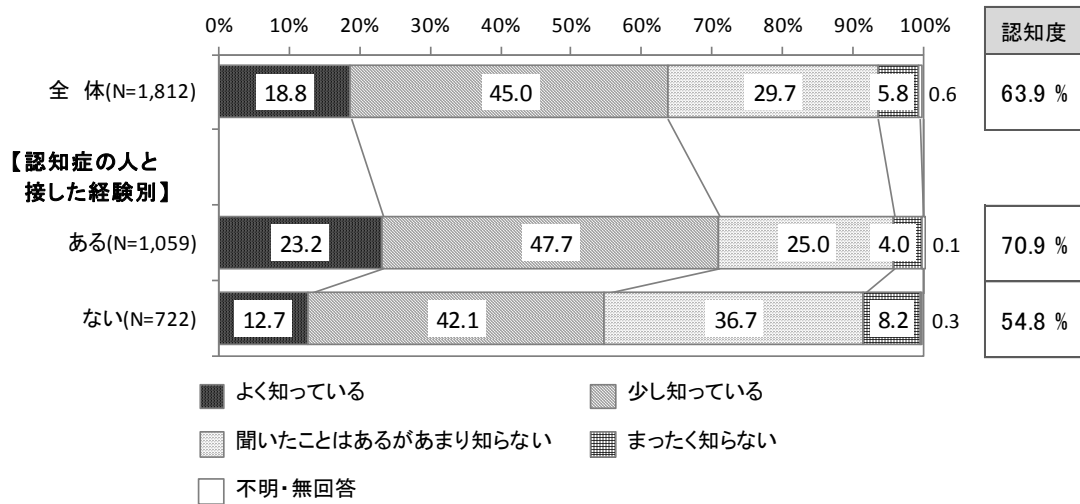


図 31 「若年性認知症」の認知状況《問1 認知症の人と接した経験別》

(10) 認知症に関する情報の入手先

問10 認知症の情報を何から得られていますか。(あてはまるものすべてに○)

○認知症に関する情報の入手先(図 32)は、「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が78.5%で最も多く、以下、「新聞や雑誌等の書物」が45.5%、「近隣の人や友人・知人からの話」が30.2%、「家族や親戚からの話」が29.9%と続いている。

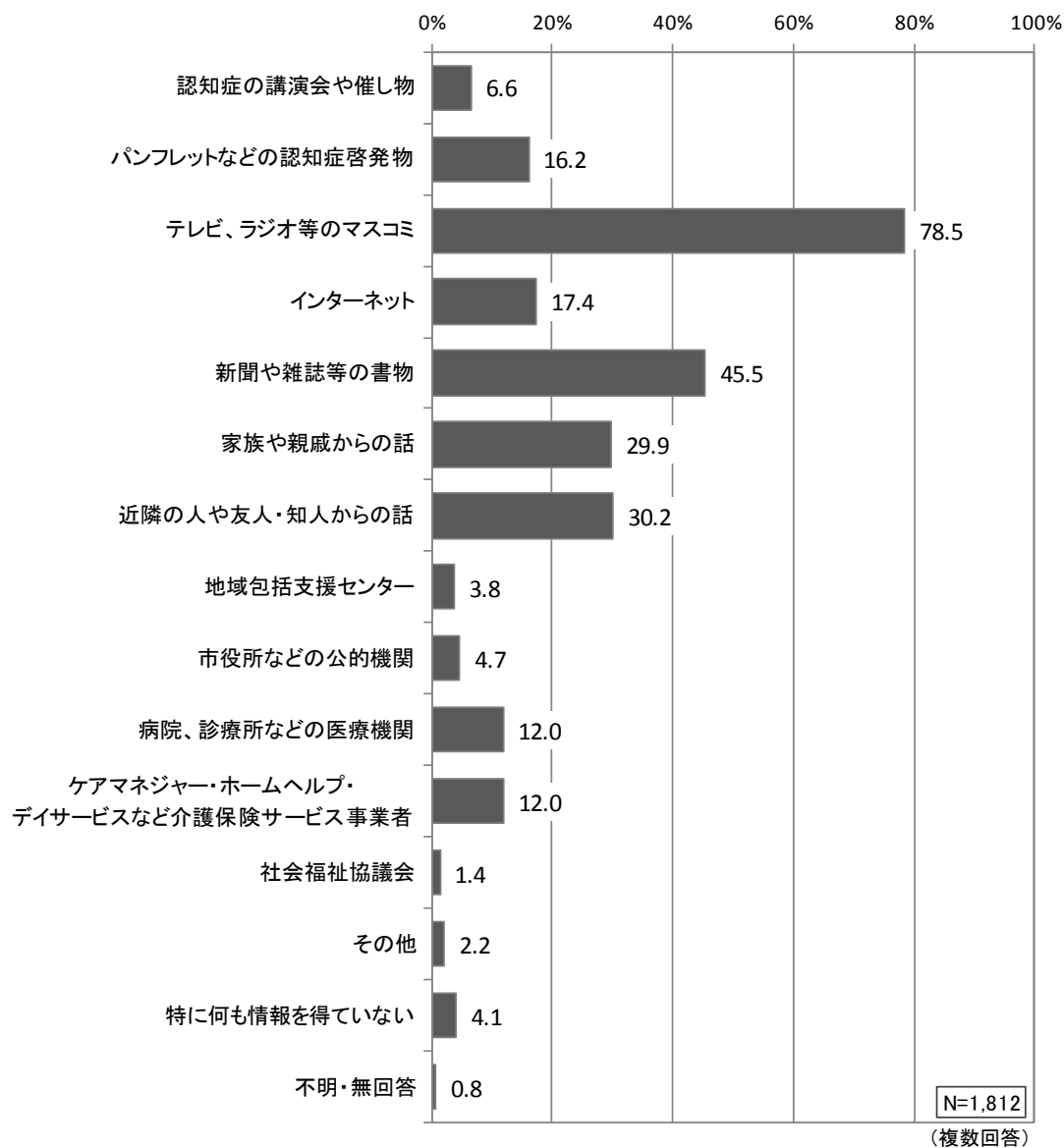


図 32 認知症に関する情報の入手先

○日常生活圏域別(図 33)にみると、すべての圏域で「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が最も多く、次いで「新聞や雑誌等の書物」となっている。

○年代別にみると、すべての年代で「テレビ、ラジオ等のマスコミ」が最も多く、次いで「新聞や雑誌等の書物」となっている。3番目に多いのは、20～40歳代では「家族や親戚からの話」、50歳代以上では「近隣の人や友人・知人からの話」となっている。

単位：%

※太字は上位3つ

(複数回答)	テレビ、ラジオ 等のマスコミ	新聞や雑誌等の 書物	友人・隣の人や 知人からの 話	家族や親戚から の話	インターネット	パンフレット などの 認知症啓発物	ケアマネ ジャー・ホーム ヘルプ・デイ サービスなど 介護保険 サービス事業者	病院、診療所 などの医療機関	
	全体(N=1,812)	<b>78.5</b>	<b>45.5</b>	<b>30.2</b>	29.9	17.4	16.2	12.0	12.0
日常生活圏域別	圏域1(N=131)	<b>77.9</b>	<b>39.7</b>	29.8	<b>32.8</b>	15.3	15.3	13.7	9.2
	圏域2(N=148)	<b>81.1</b>	<b>49.3</b>	<b>31.8</b>	23.6	20.3	20.9	13.5	10.8
	圏域3(N=300)	<b>81.3</b>	<b>47.3</b>	29.7	<b>30.3</b>	19.3	15.0	10.0	14.3
	圏域4(N=180)	<b>75.0</b>	<b>47.8</b>	<b>29.4</b>	<b>29.4</b>	17.8	15.6	16.1	18.9
	圏域5(N=185)	<b>77.3</b>	<b>42.7</b>	31.4	<b>36.2</b>	16.8	13.0	11.9	5.4
	圏域6(N=138)	<b>78.3</b>	<b>39.9</b>	<b>26.1</b>	24.6	18.8	15.2	10.1	8.7
	圏域7(N=354)	<b>76.0</b>	<b>46.6</b>	<b>32.2</b>	28.5	17.2	18.4	11.6	11.3
	圏域8(N=139)	<b>78.4</b>	<b>42.4</b>	<b>33.1</b>	30.9	13.7	19.4	12.2	14.4
	圏域9(N=102)	<b>79.4</b>	<b>39.2</b>	29.4	<b>33.3</b>	15.7	15.7	12.7	16.7
	圏域10(N=133)	<b>82.7</b>	<b>54.9</b>	26.3	<b>30.1</b>	17.3	12.0	10.5	9.8
年代別	20歳代(N=139)	<b>74.8</b>	<b>36.7</b>	24.5	<b>30.9</b>	25.2	15.8	7.2	12.2
	30歳代(N=239)	<b>74.9</b>	<b>38.5</b>	21.3	<b>37.2</b>	22.2	12.1	8.4	14.6
	40歳代(N=338)	<b>79.6</b>	<b>42.0</b>	27.5	<b>32.0</b>	21.9	11.2	9.8	10.1
	50歳代(N=246)	<b>82.9</b>	<b>45.1</b>	<b>35.0</b>	29.3	20.7	15.0	16.7	11.8
	60歳代(N=389)	<b>82.3</b>	<b>52.4</b>	<b>32.4</b>	28.5	15.7	19.8	12.3	9.3
	70歳代(N=312)	<b>77.6</b>	<b>51.6</b>	<b>35.3</b>	26.0	10.9	19.6	14.1	14.1
	80歳代以上(N=147)	<b>70.1</b>	<b>42.9</b>	<b>32.0</b>	25.2	5.4	19.7	15.0	15.0

図 33 認知症に関する情報の入手先（全体が 10.0%以上の項目のみ）《日常生活圏域別・年代別》

(11) 認知症に関する講演会や催しへの参加経験

問11 これまでに認知症に関する講演会や催し物に参加したことがありますか。(○は1つ)

※『参加度』:「1～2回参加した」と「3回以上参加した」の合計

○認知症に関する講演会や催し物への参加経験(図34)は、「参加したことがない」が86.2%で最も多くなっている。

○『参加度』(「1～2回参加した」と「3回以上参加した」の合計)は約13%にとどまっている。

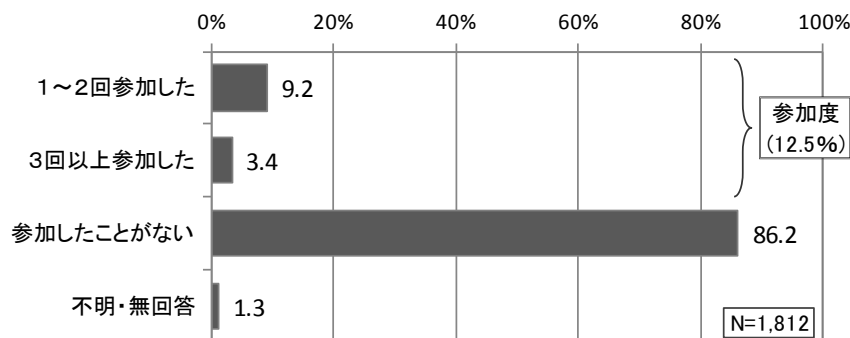


図34 認知症に関する講演会や催し物への参加経験

○日常生活圏域別(図35)にみると、すべての圏域で「参加したことがない」が最も多くなっている。『参加度』は、圏域1が16.8%で最も高く、以下、圏域2が16.2%、圏域6が15.2%と続いている。一方、圏域7(10.2%)、圏域5(10.3%)は低くなっている。

○年代別にみると、すべての年代で「参加したことがない」が最も多くなっている。『参加度』は、70歳代が19.2%で最も高く、以下、60歳代が15.2%、20歳代が11.5%と続いている。一方、40歳代(8.3%)と30歳代(9.2%)は1割未満にとどまっている。

○認知症の人と接した経験別(図36)に『参加度』をみると、接した経験がない人(4.8%)よりもある人(17.9%)の方が、13.1ポイント高くなっている。



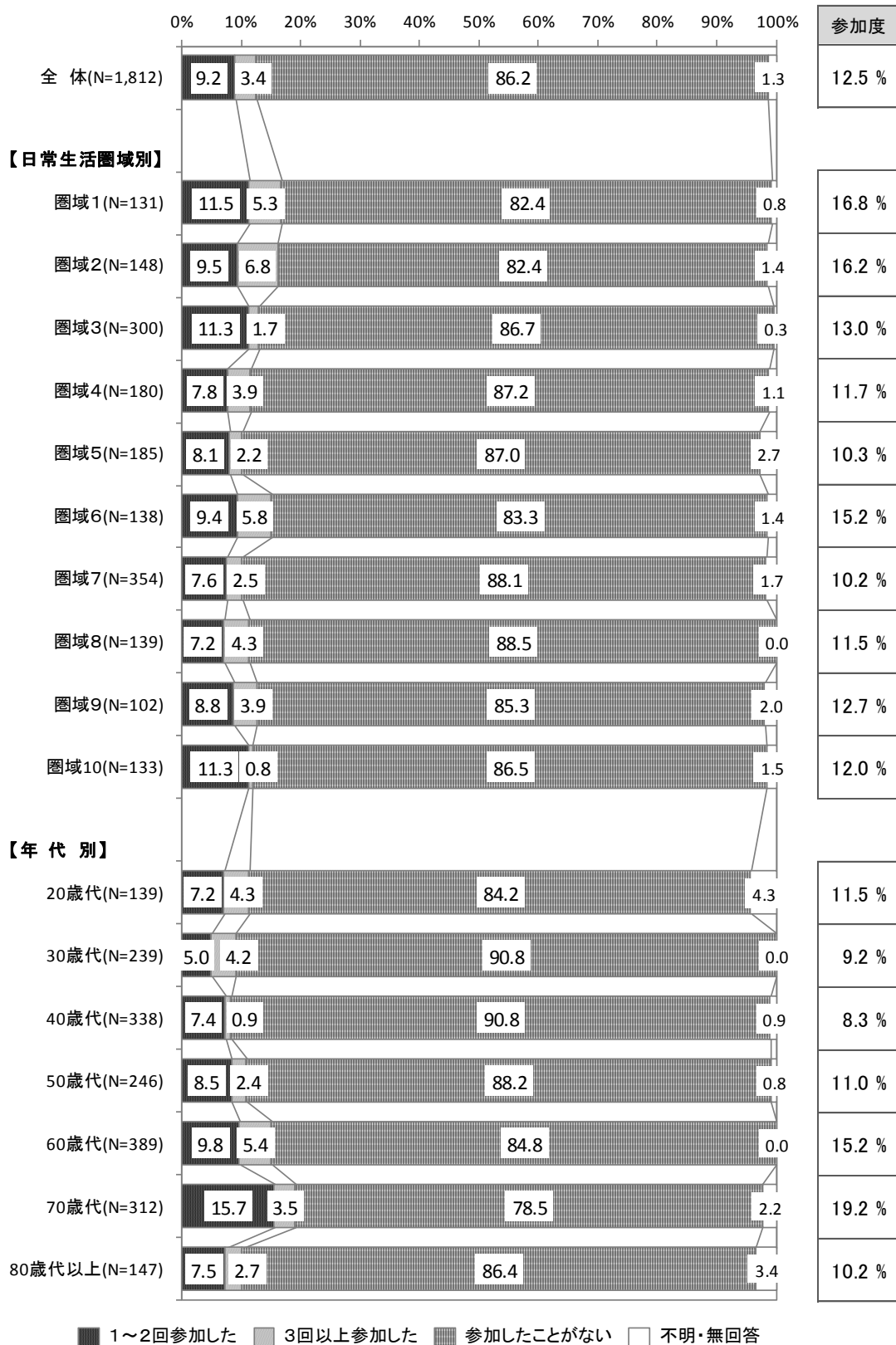


図 35 認知症に関する講演会や催しへの参加経験《日常生活圏域別・年代別》

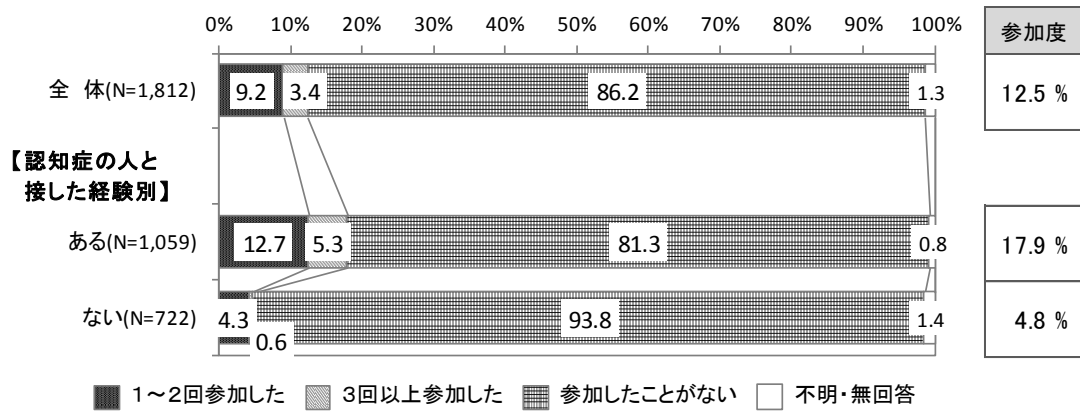


図 36 認知症に関する講演会や催しへの参加経験《問 1 認知症の人と接した経験別》

## 2. ご自身やご家族が認知症になったときの生活について

### (1) 認知症になった場合を考えた経験および考えた内容

問12 今までにあなたご自身やご家族が認知症になったときにどうしたらいいか、考えたことがありますか。(〇は1つ)

問12副問 問12で「1. 考えたことがある」と答えられた方のみにお聞きします。どのようなことを考えましたか。(あてはまるものすべてに〇)

○認知症になった場合を考えた経験(図37)は、「考えたことがある」が59.1%となっている。

○「考えたことがある」と回答した人が考えた内容は、「介護のこと」が90.8%で最も多く、以下、「認知症の進行のこと」が61.9%、「経済的なこと」が51.1%と続いている。

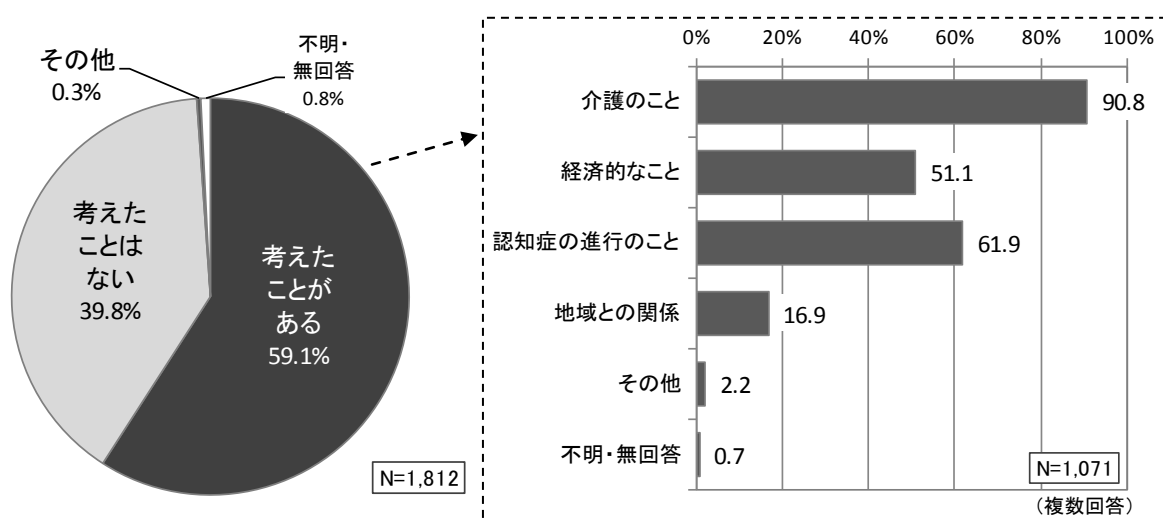


図37 認知症になった場合を考えた経験および考えた内容

○日常生活圏域別(図38)に「考えたことがある」と回答した割合をみると、すべての圏域で55%以上となっており、圏域5が61.6%で最も高く、以下、圏域7が61.3%、圏域4が61.1%と続いている。一方、最も低いのは圏域1(55.0%)となっている。考えた内容は、すべての圏域で「介護のこと」が最も多く、次いで、圏域5と圏域6では「経済的なこと」、その他の圏域では「認知症の進行のこと」となっている。また、圏域8では「地域との関係」と回答した割合が31.3%と他の圏域と比べて高い。

○年代別に「考えたことがある」と回答した割合をみると、70歳代が63.8%で最も高く、次いで、50歳代が63.0%となっている。一方、20歳代では51.8%にとどまっており、他の年代と比べてその割合が低い。考えた内容は、すべての年代で「介護のこと」が最も多く、次いで、30歳代では「経済的なこと」、その他の年代では「認知症の進行のこと」となっている。

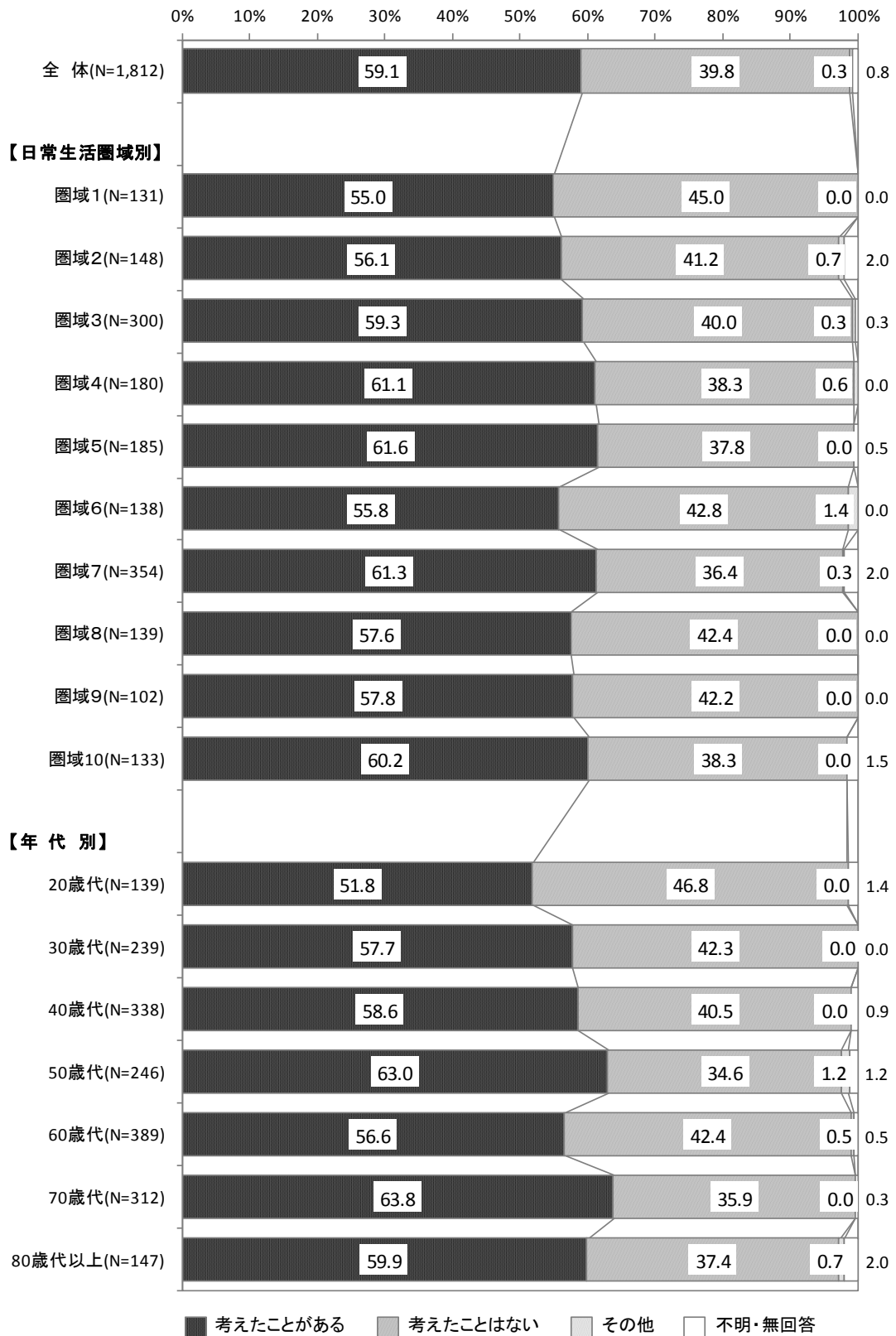


図 38 認知症になった場合を考えた経験《日常生活圏域別・年代別》

単位：%

※太字は最上位(「不明・無回答」を除く)

(複数回答)		介護のこと	経済的なこと	認知症の 進行のこと	地域との関係	その他	不明・無回答
全体(N=1,071)		<b>90.8</b>	51.1	61.9	16.9	2.2	0.7
日常生活圏域別	圏域1(N=72)	<b>88.9</b>	43.1	61.1	19.4	1.4	1.4
	圏域2(N=83)	<b>86.7</b>	43.4	71.1	18.1	2.4	0.0
	圏域3(N=178)	<b>92.7</b>	50.0	61.8	10.7	3.9	0.6
	圏域4(N=110)	<b>90.0</b>	47.3	67.3	19.1	4.5	0.0
	圏域5(N=114)	<b>92.1</b>	57.0	52.6	8.8	2.6	0.9
	圏域6(N=77)	<b>88.3</b>	59.7	57.1	22.1	2.6	2.6
	圏域7(N=217)	<b>92.2</b>	48.8	58.5	16.6	0.9	0.9
	圏域8(N=80)	<b>95.0</b>	55.0	68.8	31.3	1.3	1.3
	圏域9(N=59)	<b>86.4</b>	50.8	54.2	10.2	1.7	0.0
	圏域10(N=80)	<b>88.8</b>	60.0	71.3	22.5	0.0	0.0
年代別	20歳代(N=72)	<b>87.5</b>	52.8	61.1	13.9	1.4	0.0
	30歳代(N=138)	<b>92.0</b>	58.7	56.5	14.5	2.2	0.0
	40歳代(N=198)	<b>93.4</b>	54.0	58.6	15.7	1.5	1.0
	50歳代(N=155)	<b>95.5</b>	51.6	59.4	16.8	1.9	0.0
	60歳代(N=220)	<b>92.7</b>	49.1	65.5	19.5	2.7	0.9
	70歳代(N=199)	<b>85.4</b>	46.2	67.3	18.1	2.0	1.5
	80歳代以上(N=88)	<b>84.1</b>	46.6	61.4	17.0	4.5	1.1

図 39 認知症になった場合を考えた内容《日常生活圏域別・年代別》

○世帯構成別（図 40）に「考えたことがある」と回答した割合をみると、夫婦のみが63.1%で最も高く、以下、三世帯同居が62.1%、二世帯同居が57.7%と続いている。

○65歳以上の同居家族の有無別に「考えたことがある」と回答した割合をみると、65歳以上の家族がいる人（60.1%）といない人（58.4%）の差はあまりみられない。

○認知症の人と接した経験別に「考えたことがある」と回答した割合をみると、接した経験がない人（41.7%）よりもある人（71.0%）の方が29.3ポイント高くなっており、経験の有無で大きな差がある。

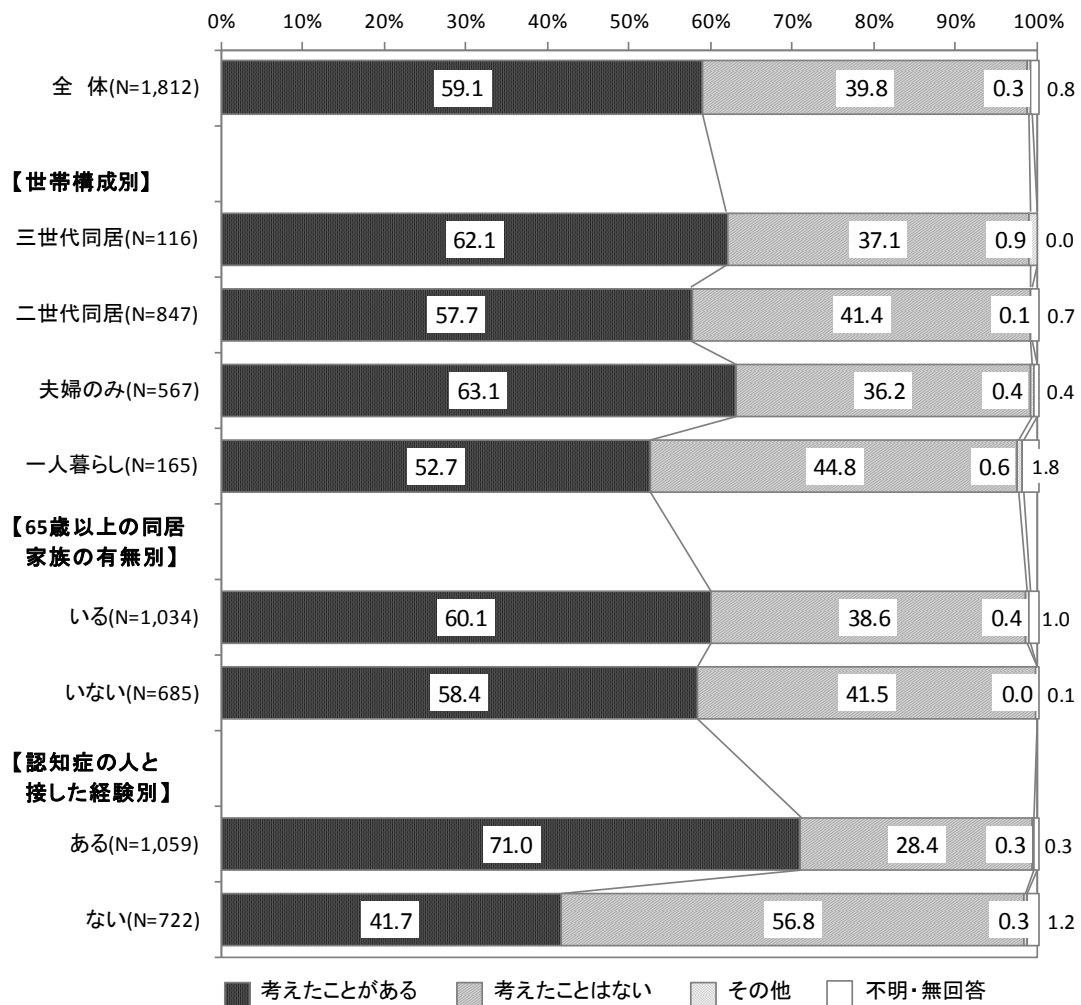


図 40 認知症になった場合を考えた経験  
《世帯構成別・65歳以上の同居家族の有無別・問1 認知症の人と接した経験別》

(2) 自身・家族が認知症になった場合に知られてもよいか

問13 あなたご自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。(○は1つ)

問14 あなたのご家族が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。(○は1つ)

- 自身が認知症になった場合に知られてもよいか (図 41) は、「知られてもよい」が47.7%、一方、「知られたくない」は22.1%となっている。
- 家族が認知症になった場合に知られてもよいかは、「知られてもよい」が56.3%、一方、「知られたくない」は17.1%となっている。
- 「知られてもよい」と回答した割合は、自身がなった場合と比べて、家族がなった場合の方が8.6ポイント高くなっている。

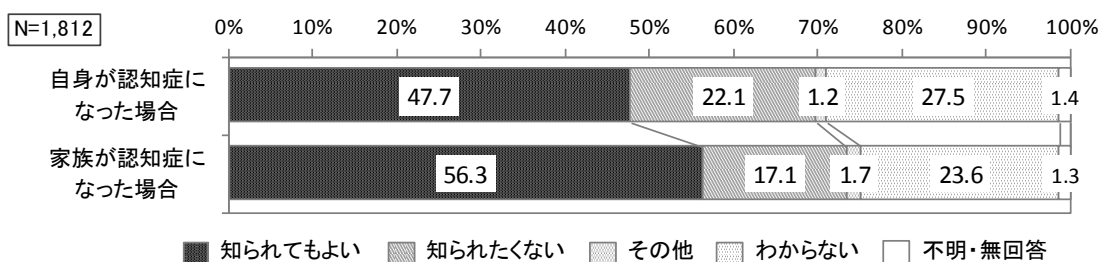


図 41 自身または家族が認知症になった場合に知られてもよいか

- 日常生活圏域別 (図 42・図 43) に認知症になった場合に「知られてもよい」と回答した割合をみると、自身については、圏域 7 (51.1%) と圏域 6 (50.0%) で 5 割以上となっている。一方、圏域 1 (42.0%)、圏域 4 (43.3%) では他の圏域と比べて低い。また、家族については、圏域 5 が 60.0% で最も高く、その他の圏域でも 5 割以上を占めており、すべての圏域で自身がなった場合と比べて、家族がなった場合の方が「知られてもよい」と思う割合が高くなっている。
- 年代別に認知症になった場合に「知られてもよい」と回答した割合をみると、自身については、60歳代(53.2%)で5割以上となっている。一方、40歳代(42.6%)、80歳代以上(42.9%)は他の年代と比べて低い。また、家族については、60歳代が61.2%で最も高く、20~50歳代、70歳代でも5割以上を占めており、すべての年代で自身がなった場合と比べて、家族がなった場合の方が「知られてもよい」と思う割合が高くなっている。

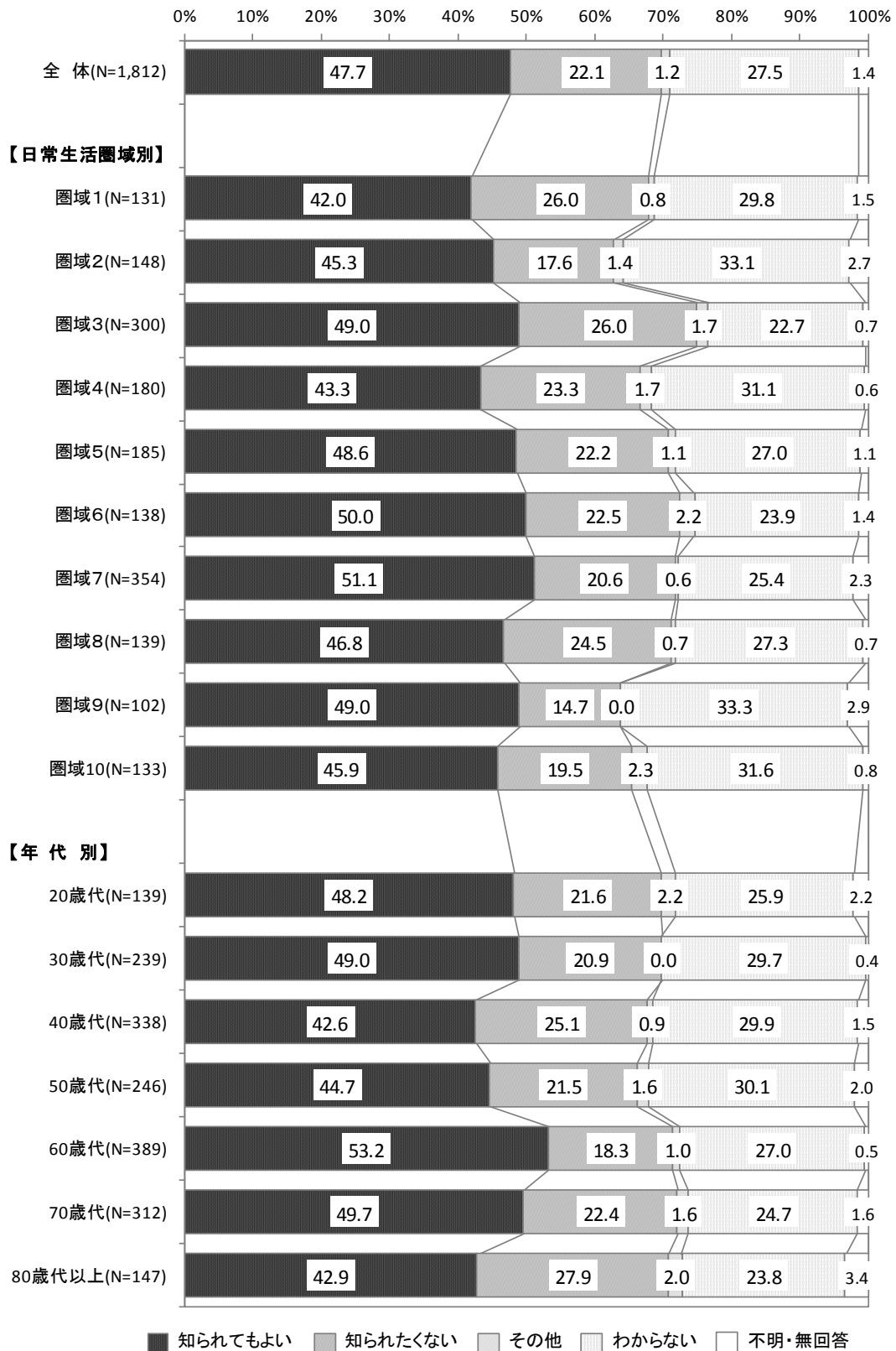


図 42 自身が認知症になった場合に知られてもよいか《日常生活圏域別・年代別》



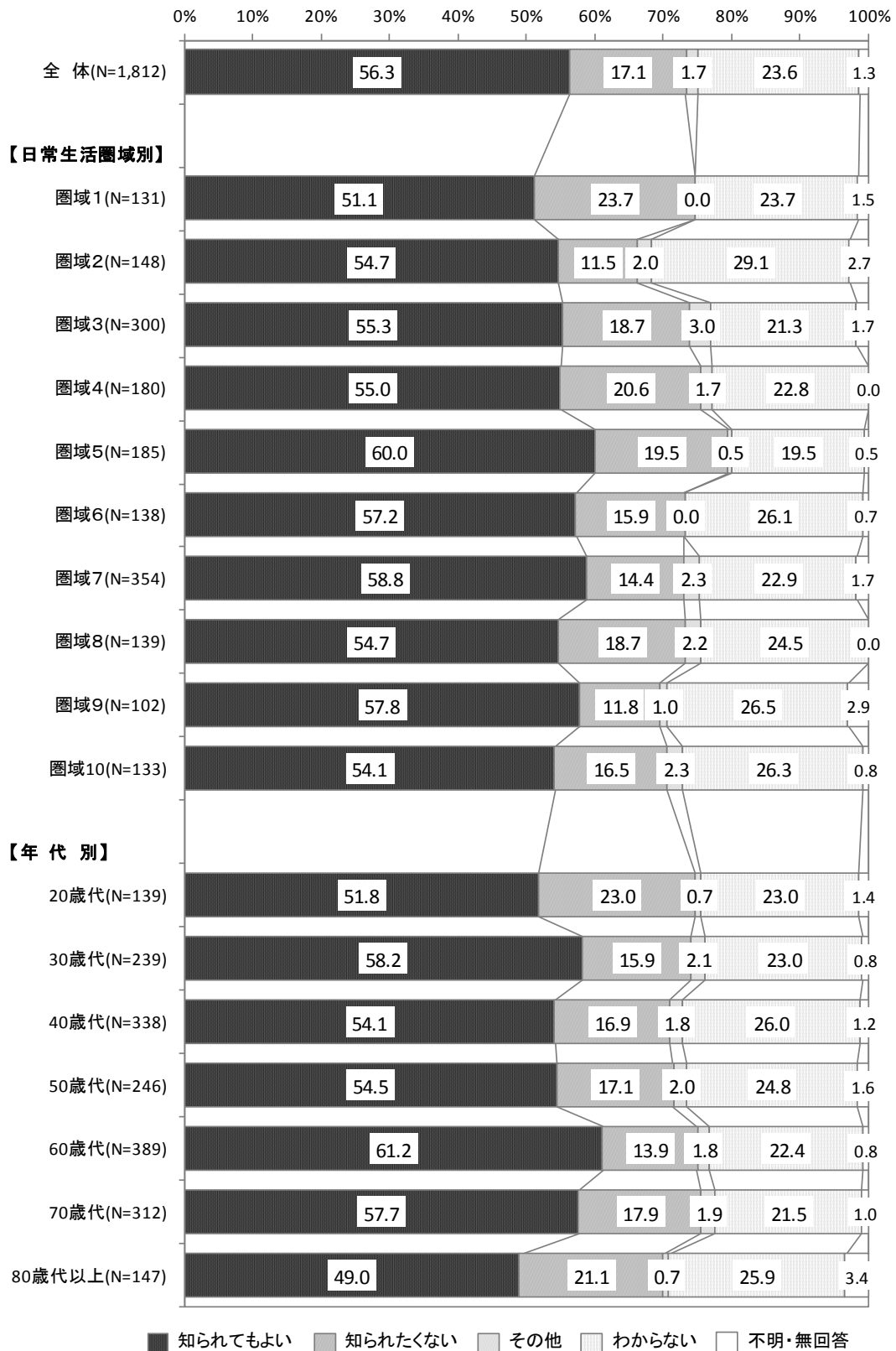


図 43 家族が認知症になった場合に知られてもよいか《日常生活圏域別・年代別》

### (3) 認知症の疑いがあるときにまず相談する先

問15 あなたご自身やご家族に認知症の疑いがあるとき、まずどこに相談すると思いますか。  
(〇は3つまで)

○認知症の疑いがあるときにまず相談する先(図44)は、「かかりつけの医師や看護師等」が55.7%で最も多く、以下、「専門の医療機関(精神科・心療内科等)」が52.9%、「同居の家族」が49.4%と続いている。

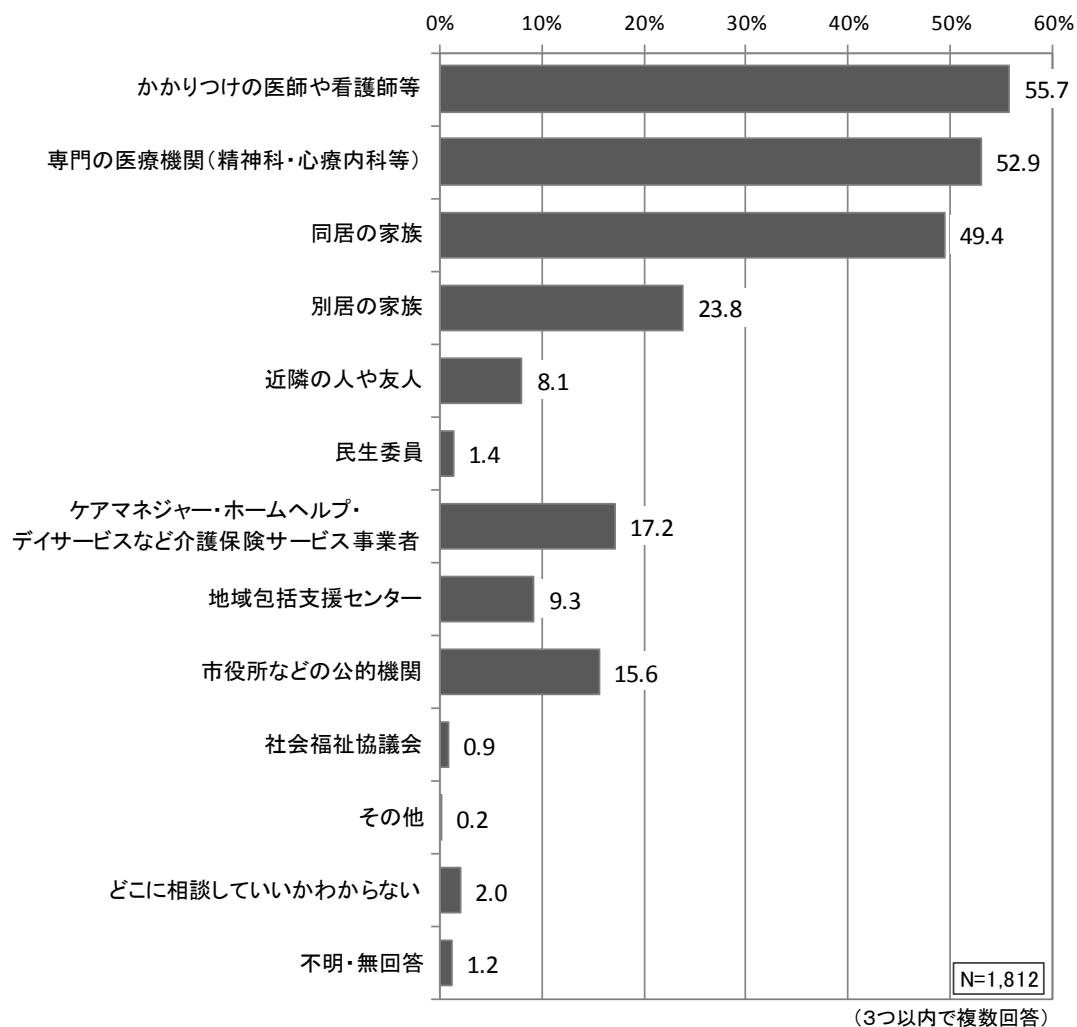


図 44 認知症の疑いがあるときにまず相談する先

- 日常生活圏域別（図 45）にみると、いずれの圏域とも「かかりつけの医師や看護師等」、「専門の医療機関（精神科・心療内科等）」、「同居の家族」が上位3つを占めており、特に圏域9と圏域2では「かかりつけの医師や看護師等」が6割以上と高くなっている。
- 年代別にみると、いずれの年代とも「かかりつけの医師や看護師等」、「専門の医療機関（精神科・心療内科等）」、「同居の家族」が上位3つを占めており、特に70歳代では「かかりつけの医師や看護師等」が6割以上と高くなっている。
- 世帯構成別（図 46）にみると、三世帯同居と二世帯同居では「同居の家族」、夫婦のみでは「専門の医療機関（精神科・心療内科等）」、一人暮らしでは「かかりつけの医師や看護師等」が最も多くなっている。
- 65歳以上の同居家族の有無別にみると、65歳以上の家族がいる人では「かかりつけの医師や看護師等」、いない人では「同居の家族」が最も多くなっている。
- 認知症の人と接した経験別（図 47）にみると、接した経験がある人では「かかりつけの医師や看護師等」、いない人では「専門の医療機関（精神科・心療内科等）」が最も多くなっている。また、「ケアマネージャー・ホームヘルプ・デイサービスなど介護保険サービス事業者」に相談すると回答した割合は、ない人（12.0%）よりもある人（20.8%）の方が8.7ポイント高くなっている。
- 自身が認知症になった場合に知られてもよいか別にみると、知られてもよい人、知られたくない人ともに「かかりつけ医師や看護師等」、「専門の医療機関（精神科・心療内科等）」の順で多くなっており、上位2つにあまり差はみられないが、「同居の家族」、「市役所などの公的機関」、「近隣の人や友人」などに相談すると回答した割合は、知られたくない人よりも知られてもよい人の方が高くなっている。
- 家族が認知症になった場合に知られてもよいか別にみると、知られてもよい人では「かかりつけの医師や看護師等」、知られたくない人では「専門の医療機関（精神科・心療内科等）」が最も多くなっている。また、「同居の家族」、「ケアマネージャー・ホームヘルプ・デイサービスなど介護保険サービス事業者」、「近隣の人や友人」などに相談すると回答した割合は、知られたくない人よりも知られてもよい人の方が高くなっている。

単位：%

※太字は上位3つ(「不明・無回答」を除く)

(3つ以内で複数回答)	かかりつけの 医師や看護師等	専門の医療機関 (精神科・ 心療内科等)	同居の家族	別居の家族	近隣の人や友人	民生委員	ケアマネ ジャー・ホーム ヘルプ・デ ィサービスなど 介護サービス 事業者	地域包括 支援センター	市役所などの 公的機関	社会福祉協議会	その他	どこに相談して いいかわからない	不明・無回答	
全体(N=1,812)	55.7	52.9	49.4	23.8	8.1	1.4	17.2	9.3	15.6	0.9	0.2	2.0	1.2	
日常生活圏域別	圏域1(N=131)	53.4	55.0	38.9	21.4	9.9	0.8	16.8	16.0	9.9	0.0	2.3	0.8	
	圏域2(N=148)	60.8	57.4	52.0	23.0	10.1	0.7	16.2	8.1	12.8	0.7	2.0	2.7	
	圏域3(N=300)	52.7	53.7	53.7	21.3	8.0	1.3	17.3	8.7	17.0	0.7	0.3	3.3	1.0
	圏域4(N=180)	55.0	49.4	55.0	27.8	5.0	0.0	16.1	11.7	17.8	0.6	0.0	1.7	0.6
	圏域5(N=185)	57.8	49.2	49.7	25.4	7.6	1.6	18.4	8.1	17.3	0.5	0.0	2.2	0.5
	圏域6(N=138)	52.9	55.8	47.8	31.9	8.7	3.6	16.7	8.7	18.1	1.4	0.7	1.4	1.4
	圏域7(N=354)	53.7	56.5	48.9	20.9	8.5	1.7	18.1	7.1	16.1	0.8	0.0	2.0	2.3
	圏域8(N=139)	54.7	51.8	44.6	26.6	9.4	1.4	16.5	13.7	16.5	2.9	0.0	1.4	0.0
	圏域9(N=102)	65.7	45.1	43.1	22.5	10.8	1.0	16.7	8.8	9.8	0.0	1.0	2.0	1.0
	圏域10(N=133)	59.4	49.6	52.6	23.3	4.5	1.5	16.5	6.0	15.8	1.5	0.0	0.8	0.8
年代別	20歳代(N=139)	56.8	56.1	50.4	19.4	10.1	0.7	20.1	6.5	7.2	0.0	0.0	3.6	2.2
	30歳代(N=239)	55.2	53.6	55.6	26.8	9.2	1.7	12.1	7.5	10.0	1.7	0.0	2.5	1.3
	40歳代(N=338)	55.0	51.2	56.8	22.2	9.2	1.2	14.2	6.8	15.1	0.0	0.3	2.7	1.2
	50歳代(N=246)	53.7	49.2	55.3	22.8	6.5	1.2	17.9	7.3	13.0	0.8	0.4	2.0	1.6
	60歳代(N=389)	50.6	59.9	46.5	25.2	7.7	0.3	22.4	12.1	18.3	0.8	0.0	1.3	0.5
	70歳代(N=312)	62.5	53.8	38.5	26.3	7.4	3.2	15.7	11.5	22.8	1.0	0.3	0.6	0.6
	80歳代以上(N=147)	59.9	39.5	42.9	20.4	7.5	1.4	17.0	11.6	16.3	2.7	0.0	3.4	2.7

図 45 認知症の疑いがあるときにまず相談する先《日常生活圏域別・年代別》

単位：%

※太字は上位3つ(「不明・無回答」を除く)

(3つ以内で複数回答)	かかりつけの 医師や看護師等	専門の医療機関 (精神科・ 心療内科等)	同居の家族	別居の家族	近隣の人や友人	民生委員	介護サービスなど ヘルプ・ホーム サービスなど 事業者	地域包括 支援センター	市役所などの 公的機関	社会福祉協議会	その他	どこに相談して いいかわからない	不明・無回答	
全体(N=1,812)	<b>55.7</b>	<b>52.9</b>	<b>49.4</b>	23.8	8.1	1.4	17.2	9.3	15.6	0.9	0.2	2.0	1.2	
世帯構成別	三世代同居(N=116)	<b>57.8</b>	<b>48.3</b>	<b>60.3</b>	14.7	5.2	2.6	20.7	12.1	19.0	0.9	0.9	0.0	0.9
	二世帯同居(N=847)	<b>53.8</b>	<b>51.0</b>	<b>60.7</b>	21.0	8.0	0.5	16.2	7.2	12.2	0.9	0.1	3.0	1.2
	夫婦のみ(N=567)	<b>57.1</b>	<b>60.5</b>	<b>40.9</b>	30.0	8.1	1.6	16.0	10.6	19.4	0.9	0.2	1.1	0.4
	一人暮らし(N=165)	<b>58.8</b>	<b>46.7</b>	20.6	<b>26.7</b>	11.5	3.6	22.4	11.5	12.1	1.2	0.0	2.4	3.0
※	いる(N=1,034)	<b>57.8</b>	<b>52.2</b>	<b>43.4</b>	24.3	7.4	1.7	18.3	11.2	18.4	1.2	0.2	1.6	1.5
	いない(N=685)	<b>52.6</b>	<b>53.9</b>	<b>59.0</b>	24.4	9.8	0.7	15.0	6.6	11.7	0.6	0.1	2.6	0.4

※ 65歳以上の同居家族の有無別

図 46 認知症の疑いがあるときにまず相談する先《世帯構成別・65歳以上の同居家族の有無別》

単位：%

※太字は上位3つ(「不明・無回答」を除く)

(3つ以内で複数回答)		かかりつけの 医師や看護師等	専門の医療機関 (精神科・ 心療内科等)	同居の家族	別居の家族	近隣の人や友人	民生委員	ケアマネ ジャー・ホーム ヘルプ・デイ サービスなど介 護保険サービス 事業者	地域包括 支援センター	市役所などの 公的機関	社会福祉協議会	その他	どこに相談して いいかわからない	不明・無回答
全体(N=1,812)		<b>55.7</b>	<b>52.9</b>	<b>49.4</b>	23.8	8.1	1.4	17.2	9.3	15.6	0.9	0.2	2.0	1.2
問1	ある(N=1,059)	<b>57.0</b>	<b>51.7</b>	<b>50.7</b>	24.4	8.7	1.5	20.8	10.7	16.1	0.8	0.1	1.1	1.2
	ない(N=722)	<b>53.7</b>	<b>55.5</b>	<b>47.9</b>	23.5	7.1	1.1	12.0	7.1	14.8	0.8	0.4	3.5	0.8
問13	知られてもよい (N=865)	<b>56.2</b>	<b>55.6</b>	<b>51.7</b>	24.0	10.2	1.4	19.9	11.1	17.8	1.0	0.2	0.9	1.0
	知られたくない (N=400)	<b>58.5</b>	<b>56.5</b>	<b>46.0</b>	22.0	5.5	1.0	16.3	9.0	12.3	0.5	0.3	2.3	0.5
	わからない (N=499)	<b>54.3</b>	<b>46.5</b>	<b>49.5</b>	25.1	6.4	1.6	14.0	6.8	14.2	0.8	0.2	3.8	0.6
問14	知られてもよい (N=1,020)	<b>56.2</b>	<b>53.3</b>	<b>52.5</b>	24.3	10.1	1.5	19.9	11.0	17.2	1.0	0.1	1.2	1.1
	知られたくない (N=310)	<b>58.4</b>	<b>60.3</b>	<b>42.9</b>	21.6	5.8	0.0	14.2	9.0	13.9	0.6	0.3	1.6	0.3
	わからない (N=428)	<b>55.4</b>	<b>47.0</b>	<b>48.4</b>	22.9	5.1	2.3	12.9	5.6	13.6	0.7	0.5	4.0	0.5

※ 問1 認知症の人と接した経験

問13 自身が認知症になった場合に知られてもよいか

問14 家族が認知症になった場合に知られてもよいか

図 47 認知症の疑いがあるときにまず相談する先《問1 認知症の人と接した経験別・問13、問14 自身あるいは家族が認知症になった場合に知られてもよいか別》

#### (4) 自身に対する介護意向

問16 あなたご自身が認知症になったら、どのように介護されたいと考えますか。(〇は1つ)

※『できる限り自宅で』:

「家族や親族だけで、できる限り自宅で介護してほしい」と

「家族・親族中心に近所の人との協力も得ながら、できる限り自宅で介護してほしい」と

「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい」と

の合計

○自身に対する介護意向(図48)は、「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい」が45.2%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」が30.0%となっている。自身が認知症になった場合、『できる限り自宅で』と考える割合は57.9%となっている。

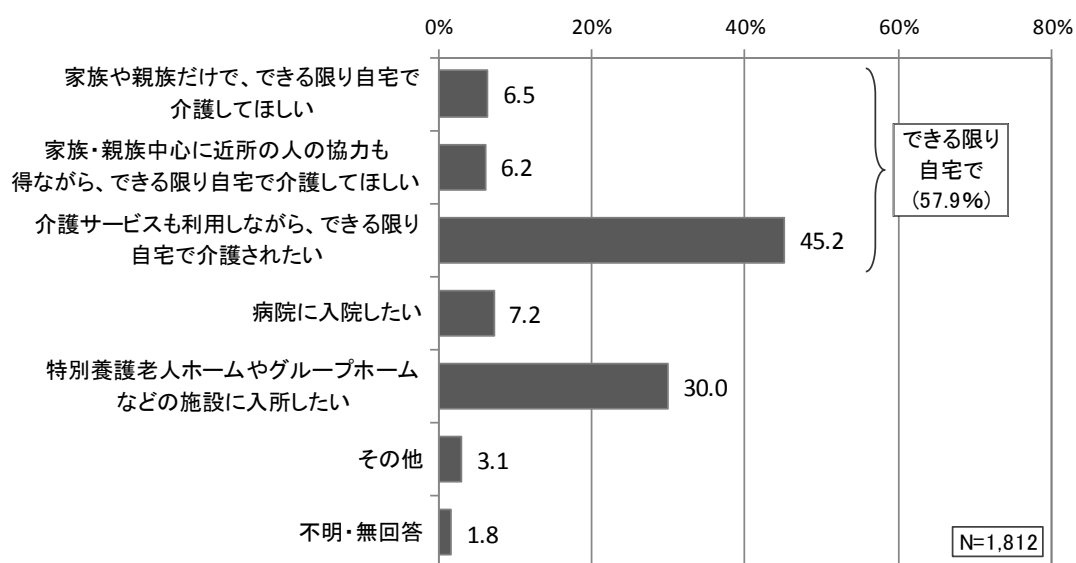


図 48 自身に対する介護意向

○日常生活圏域別(図49)にみると、すべての圏域で「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい」、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」の順で多くなっている。特に、圏域5では「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい」が5割以上と高くなっている。自身が認知症になった場合、『できる限り自宅で』と考える割合は、圏域9(63.7%)が最も高く、圏域8(54.0%)が最も低い。

○性別(図50)に『できる限り自宅で』と考える割合をみると、女性(55.7%)よりも男性(60.7%)の方が5.0ポイント高くなっている。

○年代別にみると、すべての年代で「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい」、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」の順で多くなっている。自身が認知症になった場合、『できる限り自宅で』と考える割合は、70歳代(65.4%)と20歳代(63.3%)で6割以上となっている。

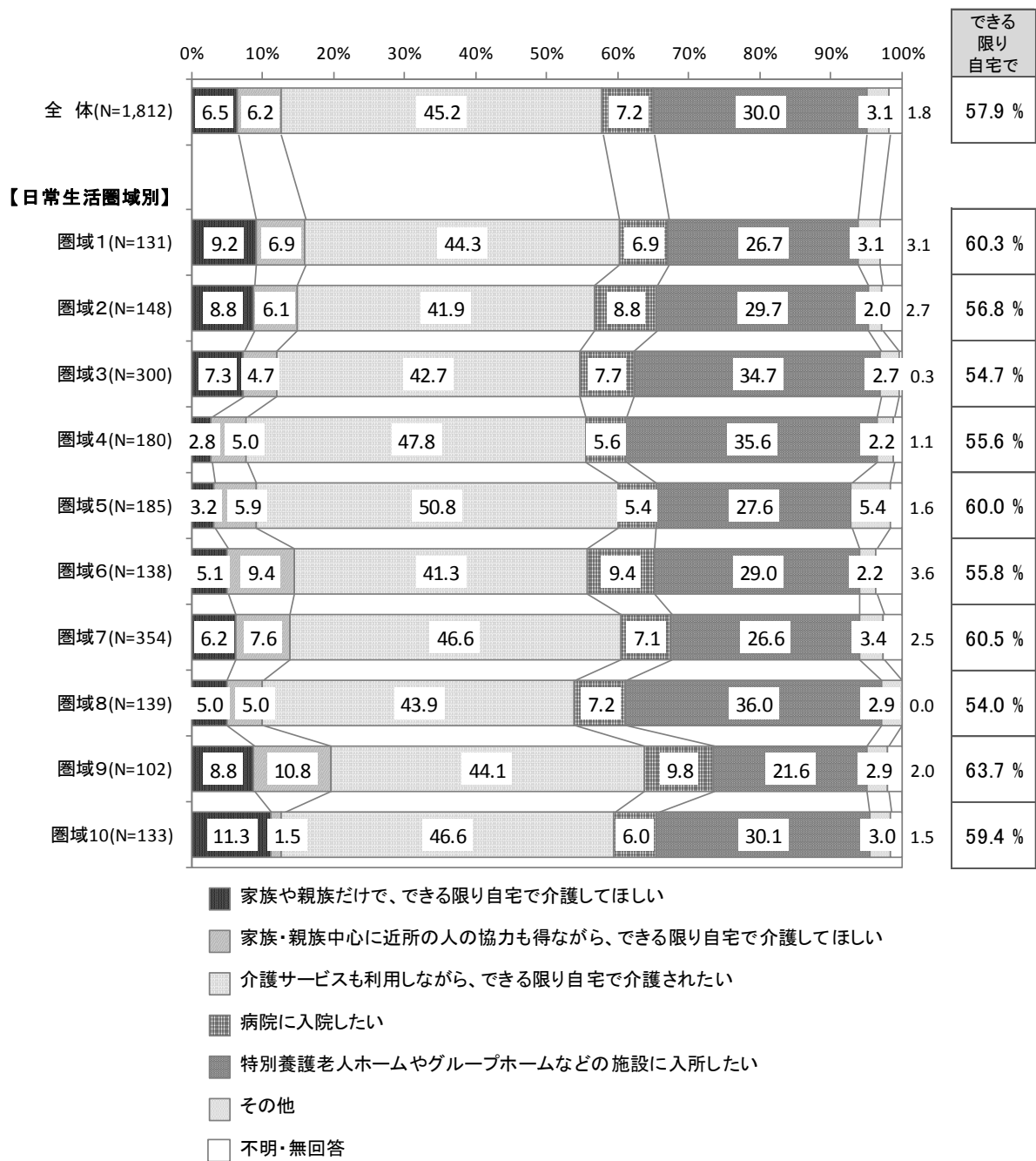


図 49 自身に対する介護意向《日常生活圏域別》



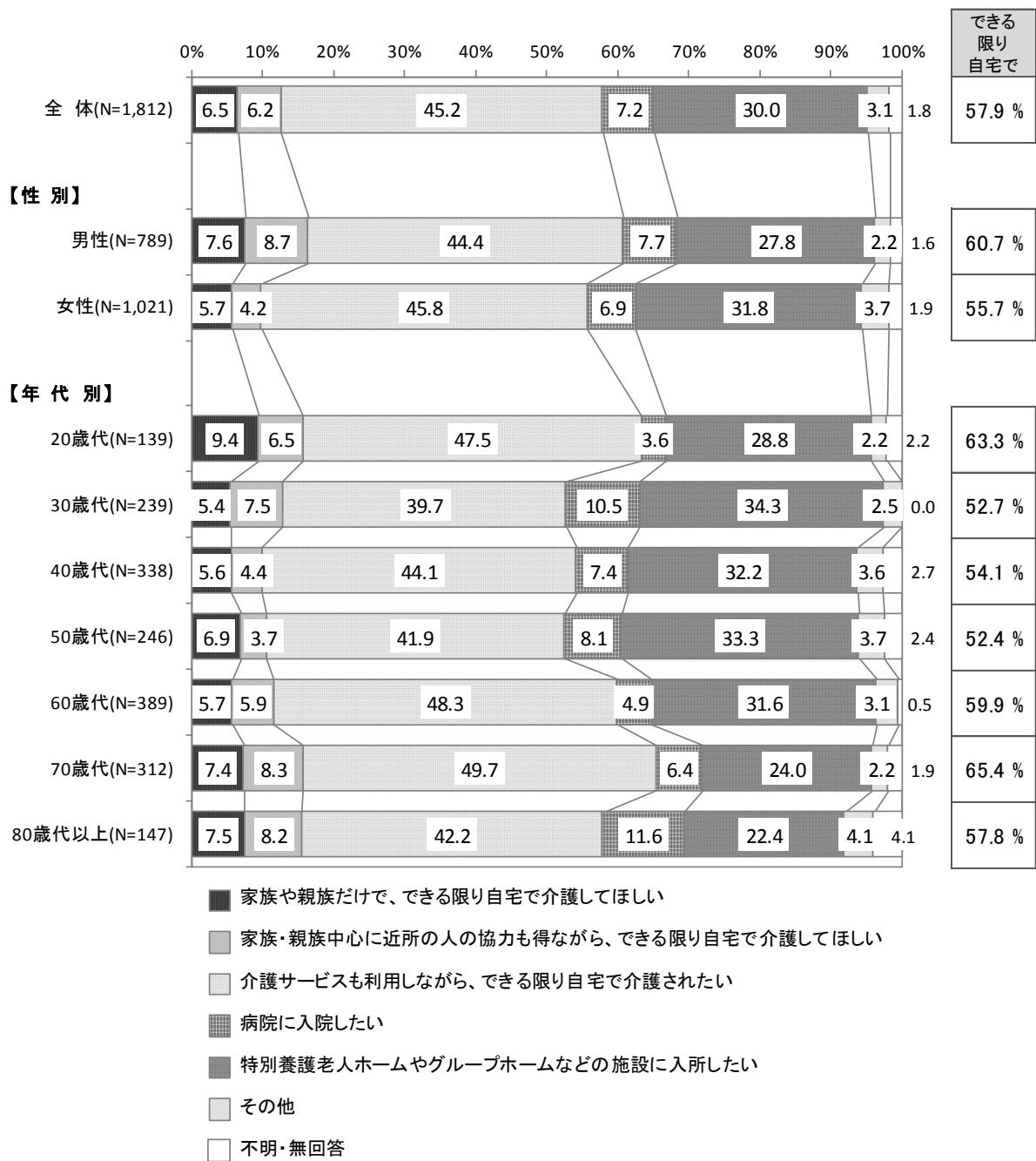


図 50 自身に対する介護意向《性別・年代別》

○認知症の人と接した経験別（図 51）に『できる限り自宅で』と考える割合をみると、経験がある人（56.5%）よりもない人（59.8%）の方が3.4ポイント高くなっている。

○自身が認知症になった場合に知られてもよいか別に『できる限り自宅で』と考える割合をみると、知られてもよい人（55.6%）よりも知られたくない人（63.0%）の方が7.4ポイント高くなっている。特に、知られたくない人は、「家族や親族だけで、できる限り自宅で介護してほしい」と回答した割合（12.3%）が、知られてもよい人（3.9%）よりも8.3ポイント高い。

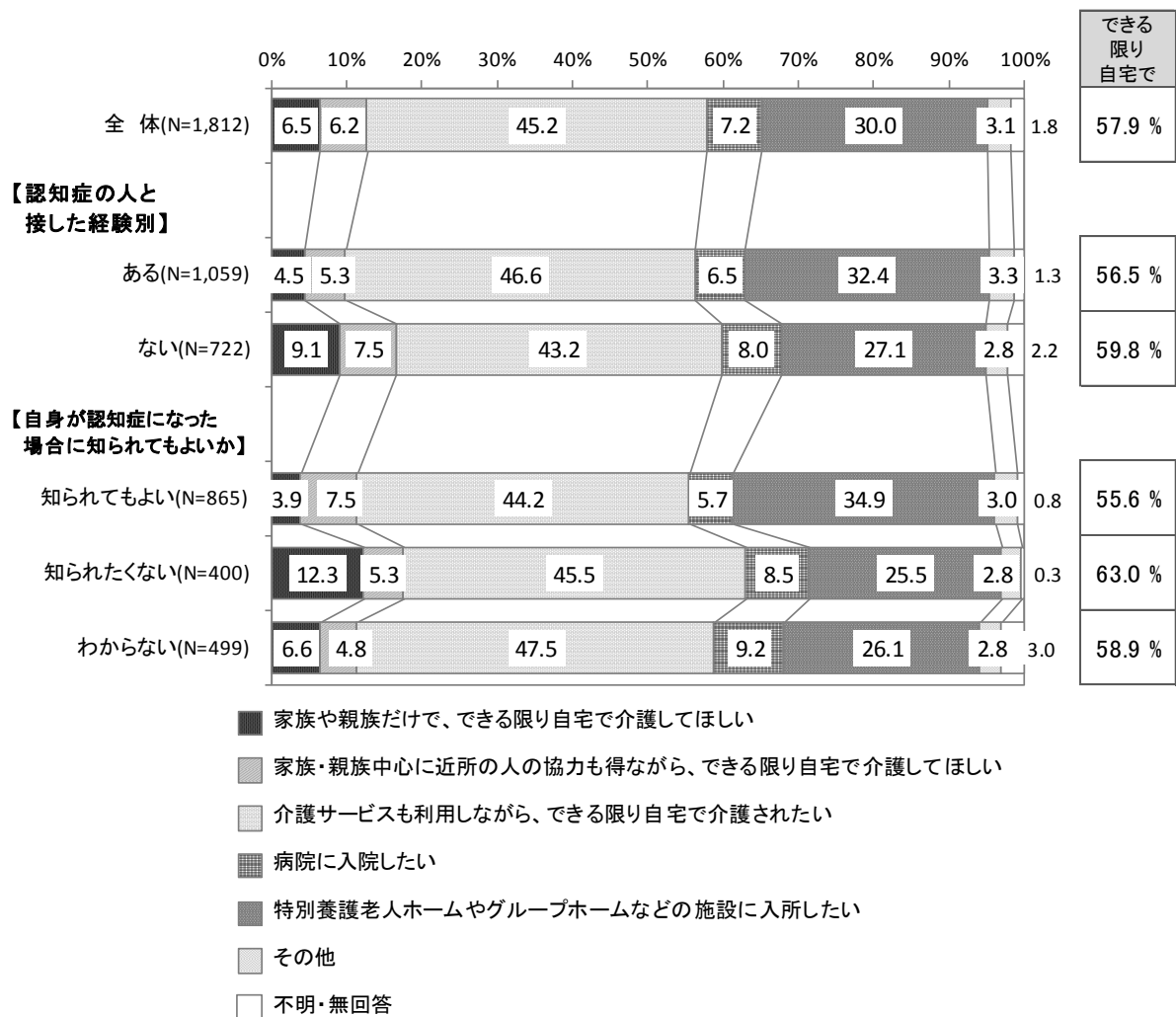


図 51 自身に対する介護意向  
 《問 1 認知症の人と接した経験別・問 13 自身が認知症になった場合に知られてもよいか別》

## (5) 家族に対する介護意向

問17 あなたのご家族が認知症になったら、どのように介護したいと考えますか。(〇は1つ)

※『できる限り自宅で』:

「家族や親族だけで、できる限り自宅で介護したい」と

「家族・親族中心に近所の人の協力も得ながら、できる限り自宅で介護したい」と

「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護したい」と

の合計

○家族に対する介護意向(図52)は、「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護したい」が57.6%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい」が20.6%となっている。家族が認知症になった場合、『できる限り自宅で』と考える割合は69.3%となっており、自身が認知症になった場合の希望(57.9%) (図48)と比べて11.4ポイント高い。

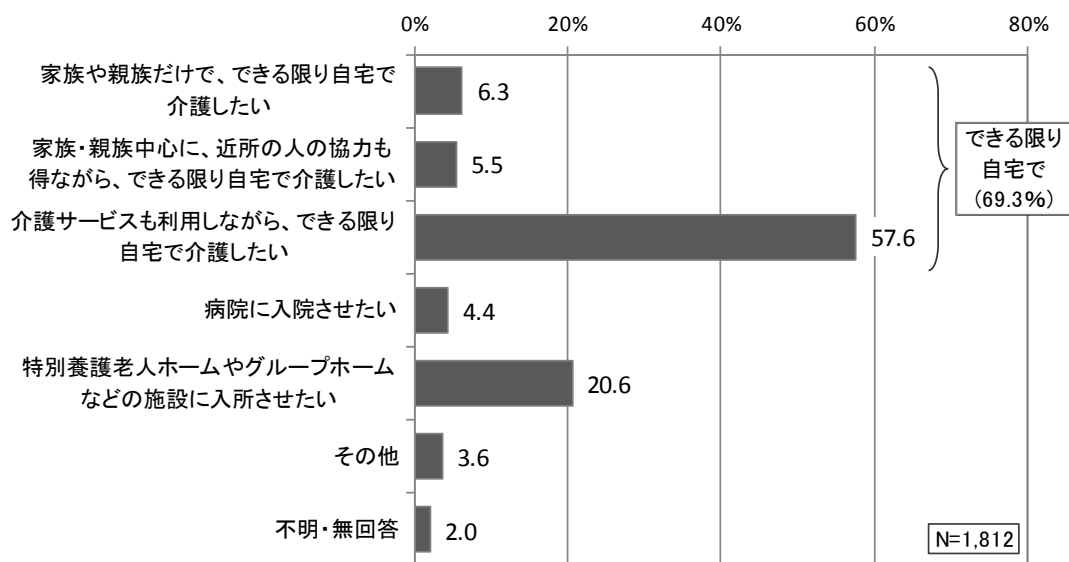


図 52 家族に対する介護意向

○日常生活圏域別(図53)にみると、すべての圏域で「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護したい」、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所させたい」の順で多くなっている。特に、圏域4、圏域5、圏域1では「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい」が6割以上と高くなっている。家族が認知症になった場合、『できる限り自宅で』と考える割合は、圏域1(75.6%)が最も高く、圏域8(66.2%)が最も低い。

○性別(図54)に『できる限り自宅で』と考える割合をみると、女性(68.2%)よりも男性(70.8%)の方が2.7ポイント高くなっている。

○年代別にみると、すべての年代で「介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい」、「特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい」の順で多くなっている。自身が認知症になった場合、『できる限り自宅で』と考える割合は、20歳代(76.3%)が最も高く、80歳代以上(64.6%)が最も低い。

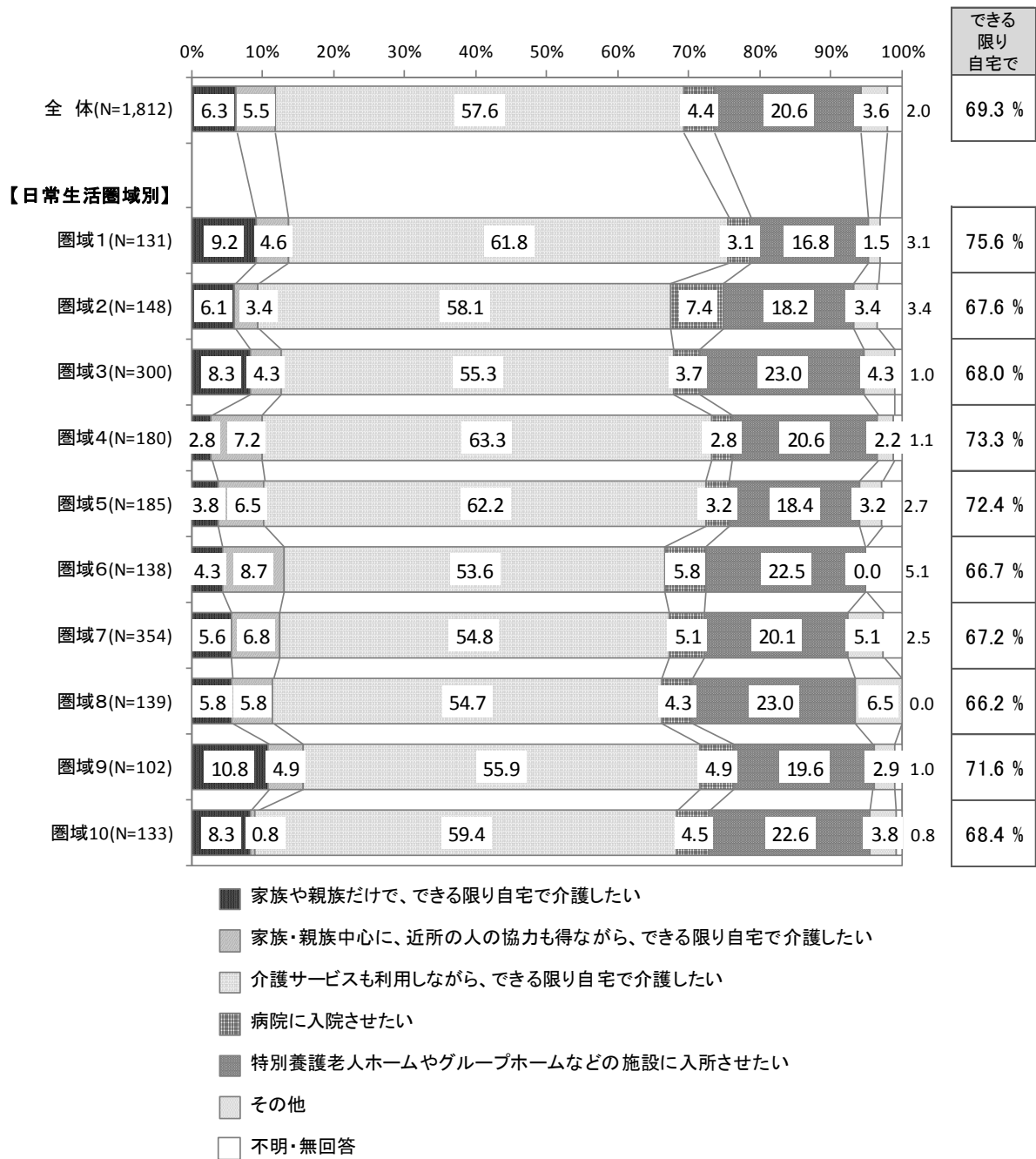


図 53 家族に対する介護意向《日常生活圏域別》

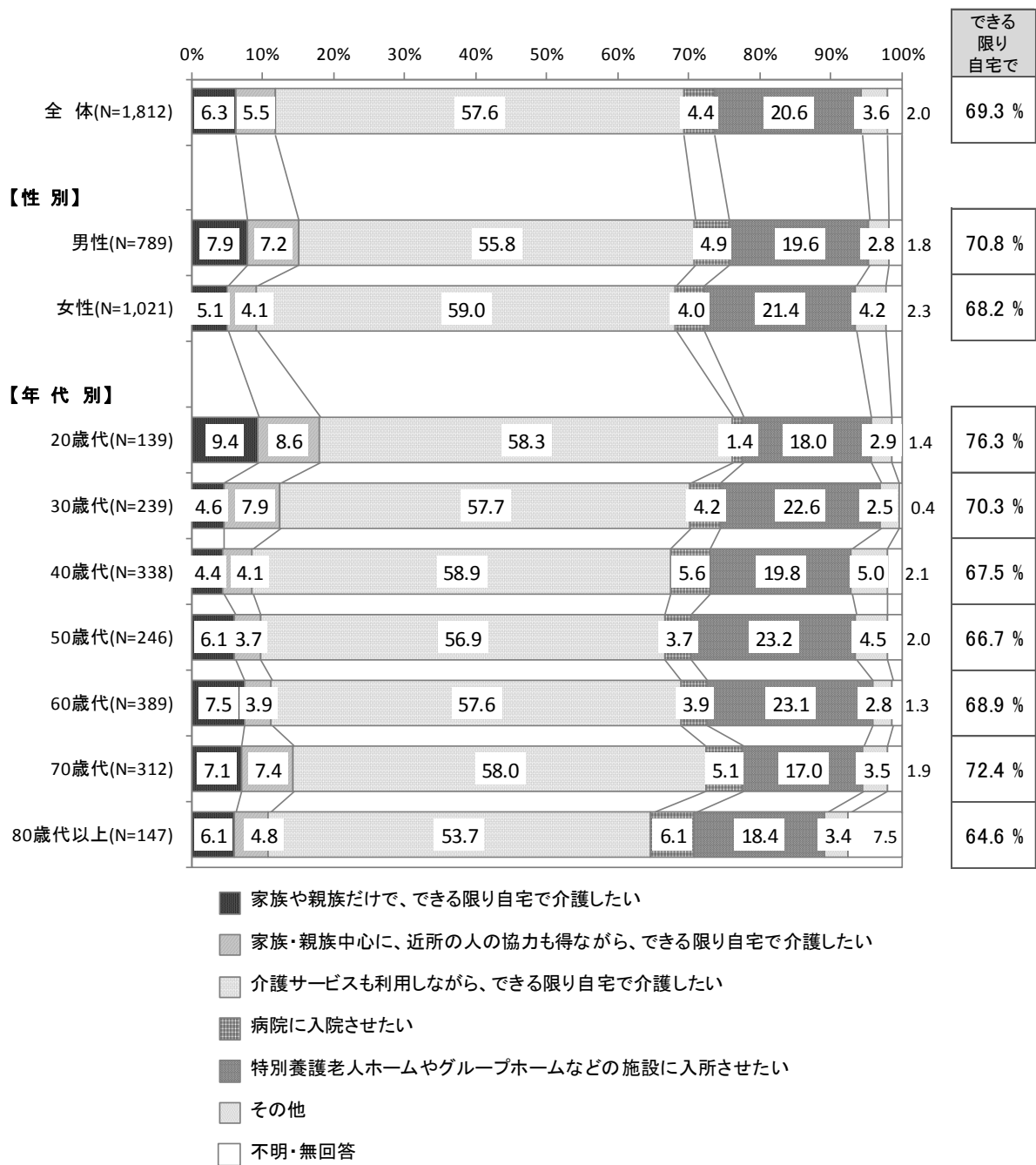


図 54 家族に対する介護意向《性別・年代別》

○認知症の人と接した経験別（図 55）に『できる限り自宅で』と考える割合をみると、経験がある人（69.6%）とない人（69.3%）の差はあまりみられない。

○家族が認知症になった場合に知られてもよいか別に『できる限り自宅で』と考える割合をみると、知られてもよい人（70.2%）と知られたくない人（71.3%）の差はあまりみられないが、知られたくない人は、「家族や親族だけで、できる限り自宅で介護したい」と回答した割合（11.3%）が、知られてもよい人（4.4%）よりも6.9ポイント高い。

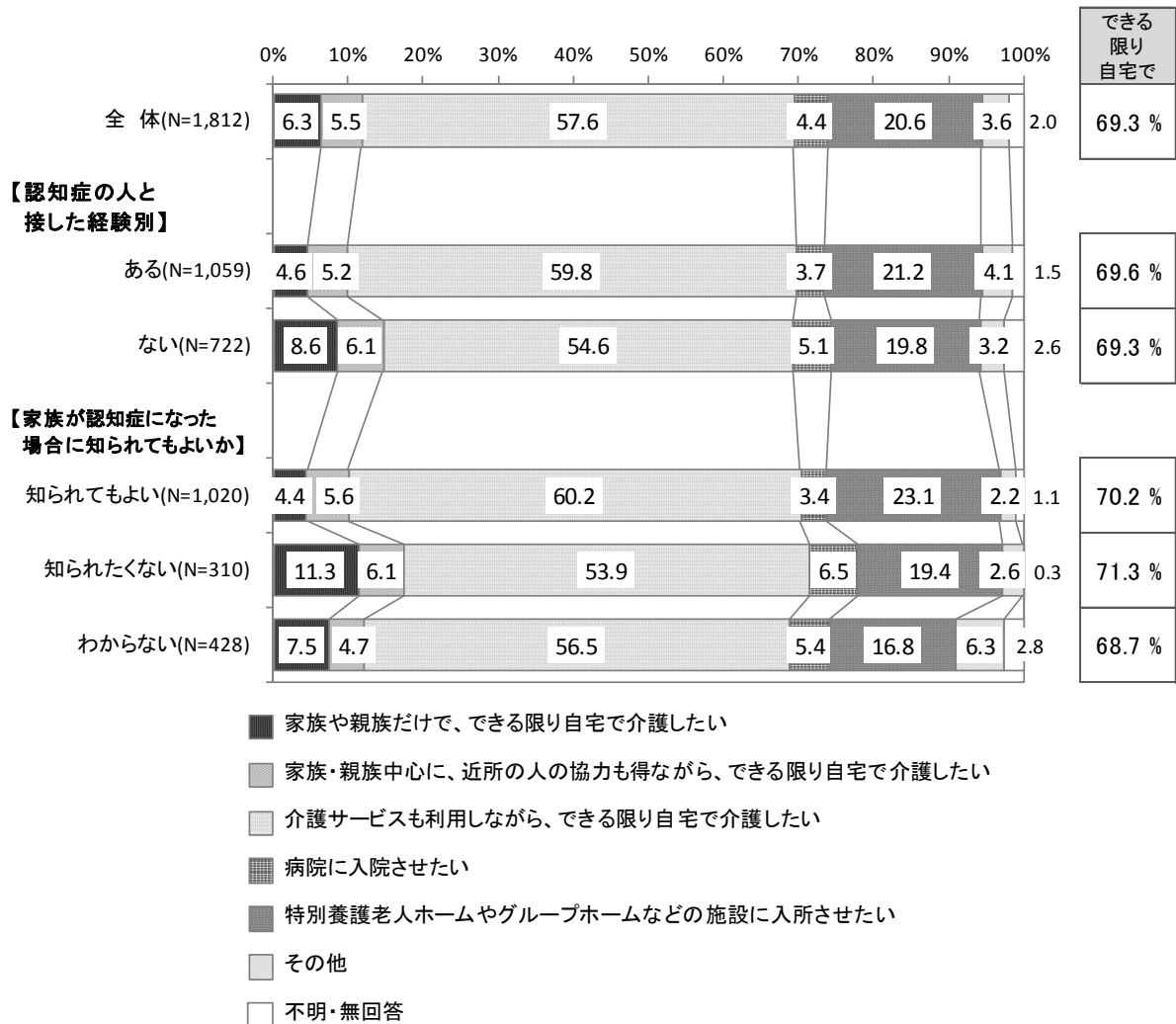


図 55 家族に対する介護意向  
 《問 1 認知症の人と接した経験別・問 14 家族が認知症になった場合に知られてもよいか別》

## (6) 介護を続けるために必要な支援

問18 認知症の人の介護を続けていくために特に必要だと思う支援は何ですか。

(○は3つまで)

- 介護を続けるために必要な支援(図56)は、「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」と「介護者が疲れた時などに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設」が同率(46.1%)で最も多く、次いで「認知症の人が喜んで通うことのできる居場所」が31.1%となっている。
  
- 日常生活圏域別(図57)にみると、いずれの圏域とも「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」、「介護者が疲れた時などに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設」、「認知症の人が喜んで通うことのできる居場所」が上位3つを占めており、特に、圏域4では「介護者が疲れた時などに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設」、圏域2では「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」と「介護者が疲れた時などに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設」が5割以上と高くなっている。
  
- 年代別にみると、いずれの年代とも「認知症の人が安心して入所できる施設や住まい」、「介護者が疲れた時などに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設」、「認知症の人が喜んで通うことのできる居場所」が上位3つを占めており、特に40歳代では「介護者が疲れた時などに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設」が5割以上と高くなっている。また、80歳代以上では「医師の往診による診断・治療」(21.1%)と回答した割合が他の年代と比べて高い。

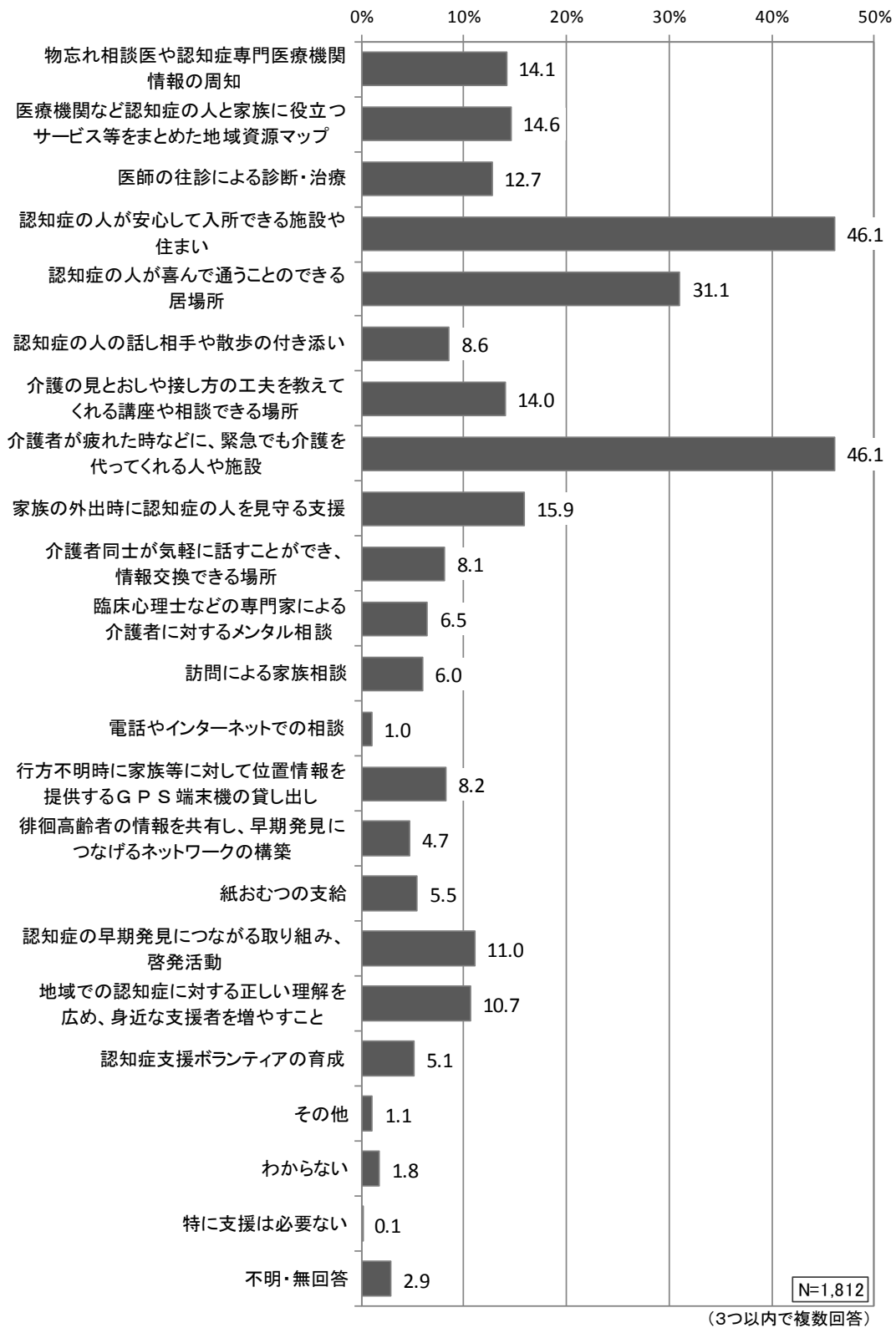


図 56 介護を続けるために必要な支援



単位:%

※太字は上位3つ(「不明・無回答」を除く)

	認知症の人が安心して入居できる施設や住まい	介護者が、疲れやストレスを軽減できるような施設やサービス	認知症の人が喜んで通うことができる居場所	家族の外出時に認知症の人を見守る支援	地域資源マップ	役割の専門家と連携する機会	認知症専門医や医療機関の周知	物忘れ相談医や認知症専門医の紹介	介護の見とのおしや接する工夫を教える場	医師の往診による診断・治療	認知症の早期発見につながる取り組み、啓発活動	地域での認知症に対する正しい理解を広め、身近な支援者を増やすこと
全体(N=1,812)	46.1	46.1	31.1	15.9	14.6	14.1	14.0	12.7	11.0	10.7		
日常生活圏域別	圏域1(N=131)	46.6	42.0	35.1	19.8	17.6	17.6	13.0	13.7	9.2	6.9	
	圏域2(N=148)	50.7	50.7	25.0	17.6	16.2	11.5	16.9	11.5	6.8	14.2	
	圏域3(N=300)	48.7	47.7	30.7	17.7	13.7	14.0	15.7	11.7	13.7	9.3	
	圏域4(N=180)	41.7	51.7	30.6	14.4	20.0	14.4	16.1	11.1	8.9	13.3	
	圏域5(N=185)	47.6	44.3	30.8	16.2	12.4	13.5	14.1	13.5	9.2	6.5	
	圏域6(N=138)	44.2	42.8	29.7	16.7	15.9	10.1	14.5	10.9	13.8	14.5	
	圏域7(N=354)	49.7	42.4	31.6	11.3	11.6	16.1	11.9	14.4	12.1	10.2	
	圏域8(N=139)	46.8	48.2	36.0	19.4	13.7	10.8	8.6	12.2	11.5	10.8	
	圏域9(N=102)	36.3	49.0	26.5	16.7	15.7	10.8	16.7	17.6	8.8	14.7	
	圏域10(N=133)	37.6	45.9	33.8	14.3	14.3	19.5	14.3	11.3	12.8	9.8	
年代別	20歳代(N=139)	37.4	37.4	30.9	15.1	8.6	14.4	15.8	14.4	12.2	12.2	
	30歳代(N=239)	45.6	49.4	31.0	18.4	14.2	10.0	14.2	15.5	10.0	10.0	
	40歳代(N=338)	46.2	50.0	32.5	19.5	12.7	14.2	18.3	8.6	9.8	10.1	
	50歳代(N=246)	48.0	49.2	35.4	13.0	15.9	13.8	11.4	10.6	8.5	9.8	
	60歳代(N=389)	48.1	44.2	30.3	17.0	18.3	16.5	14.7	12.3	12.6	13.1	
	70歳代(N=312)	46.8	45.2	28.8	15.1	16.0	15.7	13.1	12.8	13.1	10.6	
	80歳代以上(N=147)	44.9	42.2	27.2	7.5	10.2	11.6	6.8	21.1	10.2	6.8	

図 57 介護を続けるために必要な支援（全体が 10.0%以上の項目のみ）《日常生活圏域別・年代別》

### 3. 認知症の人やその家族を支える仕組みについて

#### (1) 地域住民の協力の必要性

問19 あなたは認知症の人が生活するためには、地域住民の協力は必要だと思いますか。  
(○は1つ)

※『必要あり』:「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」と  
「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」  
の合計  
※『必要なし』:「介護保険を利用すればよいので、必要だと思わない」と  
「家族が支えればよいので、必要だと思わない」の合計

○地域住民の協力の必要性 (図 58) は、「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」が46.7%で最も多く、「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」(39.2%)と合わせると、約86%が『必要あり』と回答している。

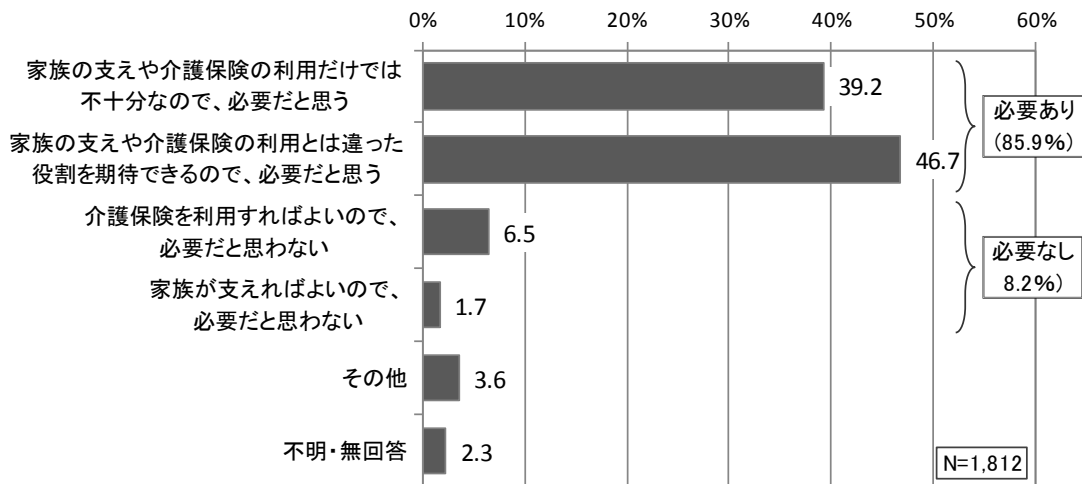
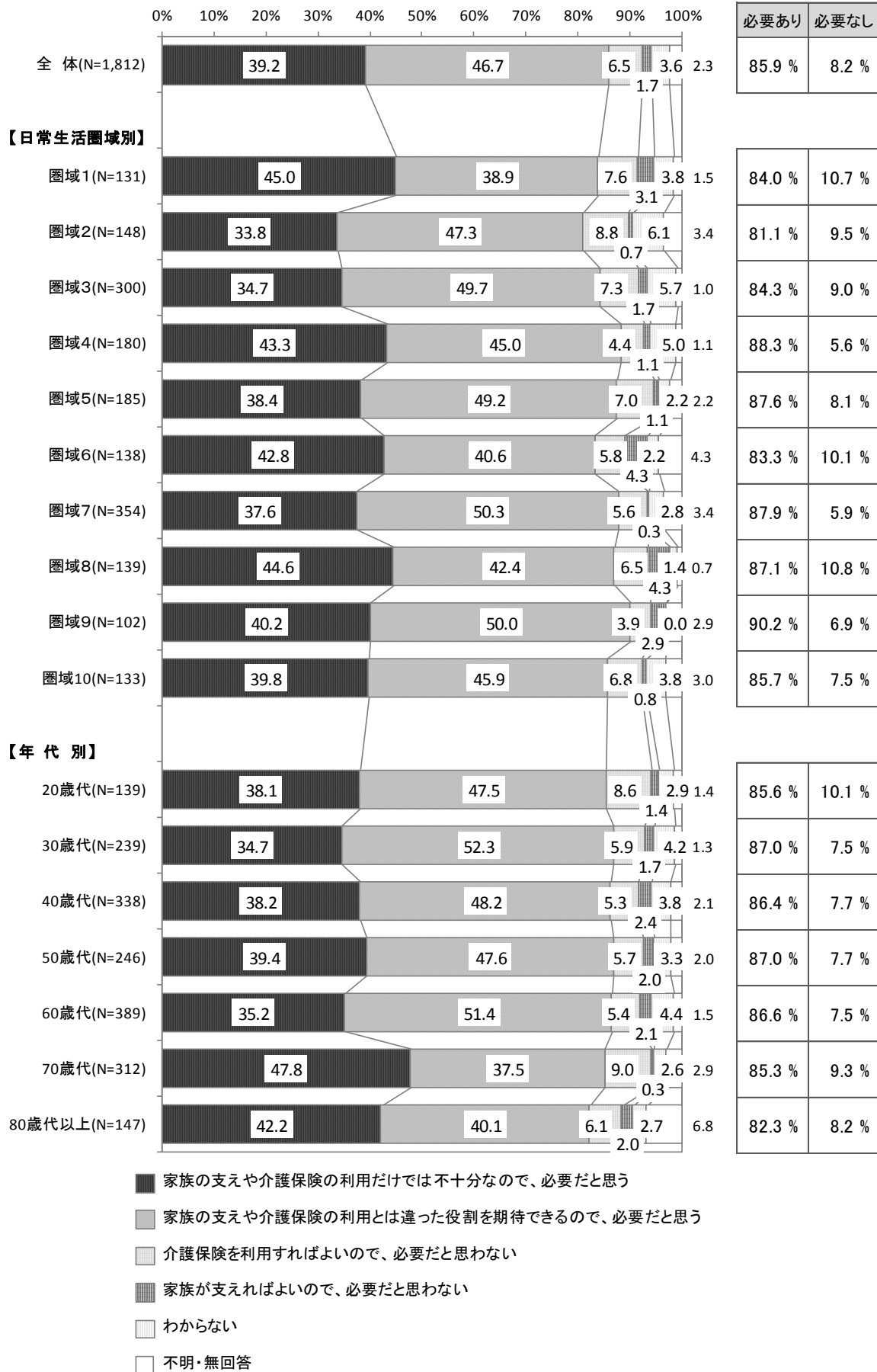


図 58 地域住民の協力の必要性

○日常生活圏域別 (図 59) にみると、圏域 1、圏域 6、圏域 8 では「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」、その他の圏域では「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」が最も多くなっている。『必要あり』の割合は、圏域 9 が90.2%で最も高く、以下、圏域 4 が88.3%、圏域 7 が87.9%と続いている。

○年代別にみると、20～60歳代では「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」、70歳代以上では「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」が最も多くなっている。『必要あり』の割合は、80歳代以上 (82.3%)を除く年代で85%以上と高くなっている。

○認知症の人と接した経験別 (図 60) に『必要あり』の割合をみると、経験がない人 (85.0%)よりある人 (86.6%) の差はあまりみられない。



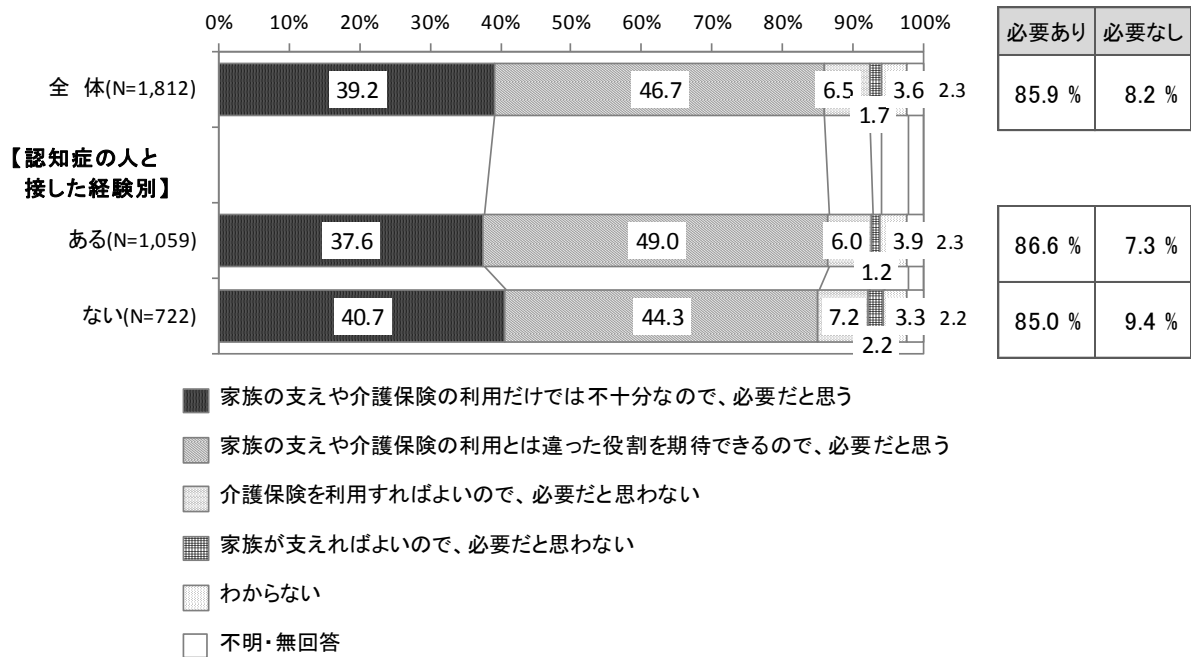


図 60 地域住民の協力の必要性《問 1 認知症の人と接した経験別》

## (2) 近所の認知症の人への対応

問20 認知症の人が近所にいた場合、あなたはどう感じ、どう行動したいですか。  
(もっともあてはまるもの1つに○)

問20副問 問20で「1. 地域として何か協力できることがあれば協力したい」または「2. 今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」と答えられた方のみにお聞きします。  
①認知症の人、②介護している家族に対して、あなたにはどんなことができると考えられますか。(あてはまるものすべてに○)

※『意向あり』:「地域として何か協力できることがあれば協力したい」と「今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」の合計

- 近所の認知症の人への対応(図 61)は、「何をどうしたらいいのかわからない」が32.0%で最も多くなっている。一方、『意向あり』(「地域として何か協力できることがあれば協力したい」と「今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」の合計)の割合は、46.3%となっている。
- 『意向あり』と回答した人が認知症の人に対してできること(図 62)は、「定期的に声をかける」が55.9%で最も多く、以下、「話し相手になる」が50.8%、「病気などの緊急時に看病をする、医者を呼ぶなどの手助けをする」が25.4%と続いている。
- 『意向あり』と回答した人が介護者に対してできることは、「介護負担やストレスを聴く」が56.5%で最も多く、以下、「定期的に声をかける」が53.3%、「病気などの緊急時に看病する、医者を呼ぶなどの手助けをする」が31.2%と続いている。

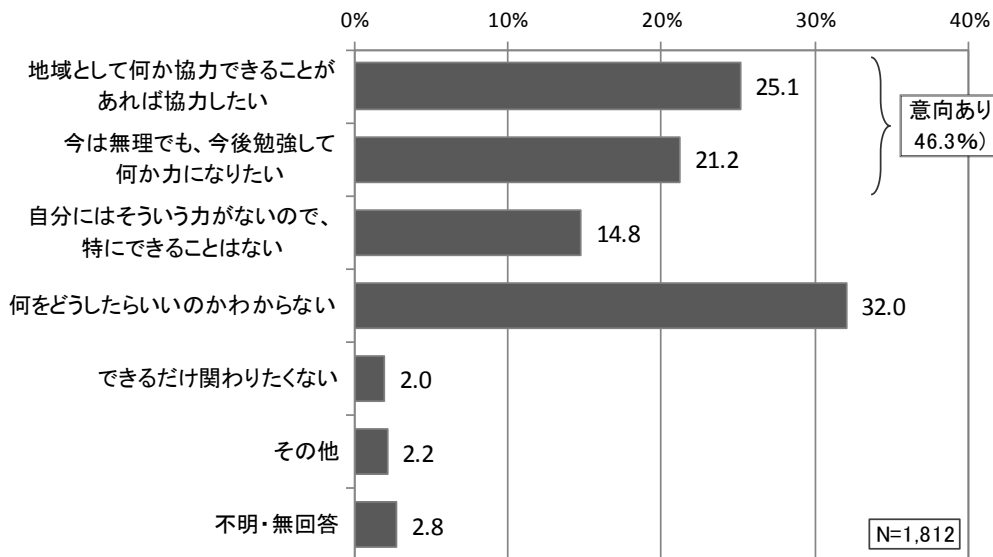


図 61 近所の認知症の人への対応

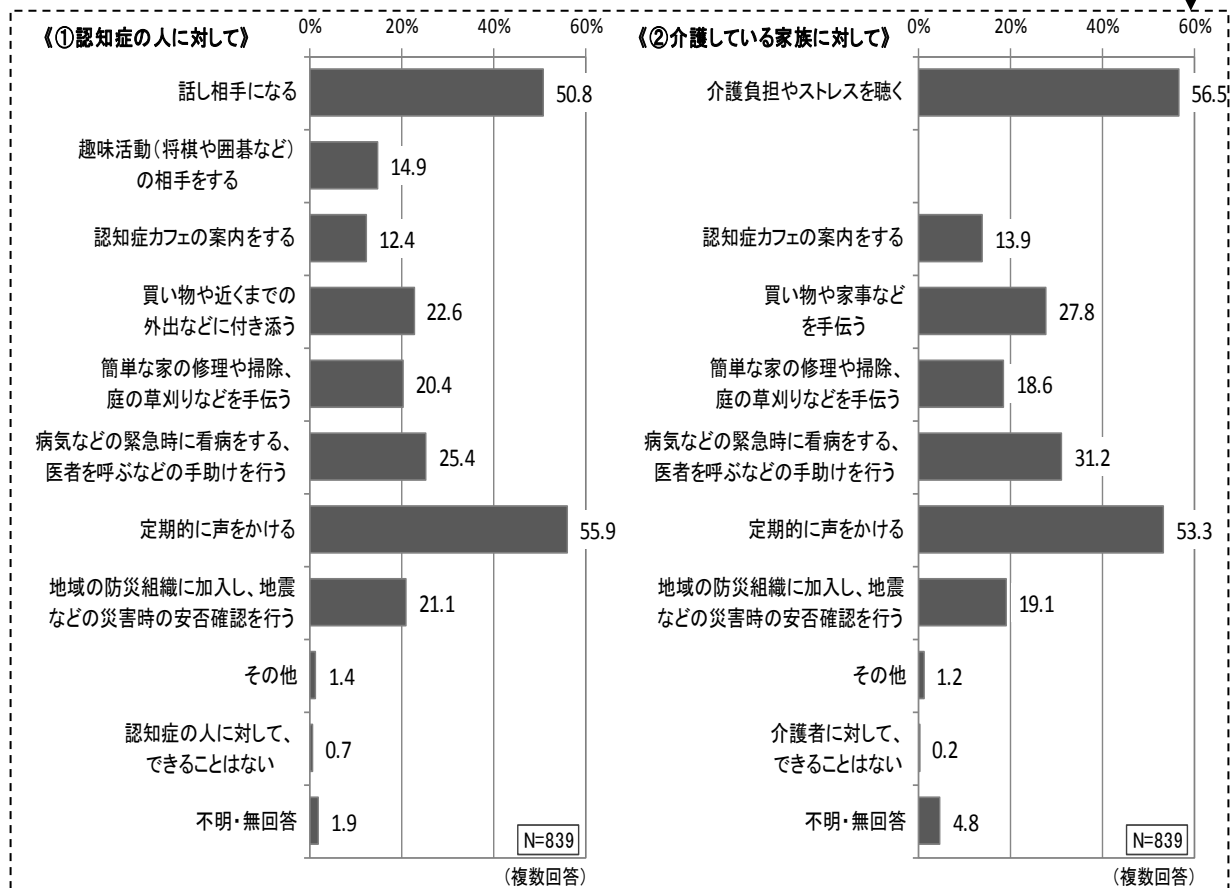


図 62 認知症の人および介護者に対してできること

- 日常生活圏域別（図 63・図 65・図 66）にみると、圏域4、圏域5では「地域として何か協力できることがあれば協力したい」、その他の圏域では「何をどうしたらいいのかわからない」が最も多くなっている。『意向あり』の割合は、圏域4が53.3%で最も高く、次いで、圏域5が51.9%となっている。一方、圏域6（41.3%）、圏域1（42.0%）は、他の圏域と比べてその割合が低い。認知症の人に対してできることは、すべての圏域で「定期的に声をかける」と「話し相手になる」が上位2つを占めている。圏域による差が特に大きいのは、「地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う」で、圏域10では30.6%であるのに対し、圏域6では8.8%にとどまっている。また、介護者に対してできることは、すべての圏域で「介護負担やストレスを聴く」と「定期的に声をかける」が上位2つを占めているが、「定期的に声をかける」では圏域による差が大きく、圏域3（65.2%）や圏域2（61.5%）では6割以上であるのに対し、圏域6（42.1%）や圏域5（43.8%）では4割強にとどまっている。「地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う」についても圏域10では25.8%であるのに対し、圏域6では5.3%と差が大きい。
- 性別（図 64・図 65・図 66）にみると、男女ともに「何をどうしたらいいのかわからない」が最も多くなっている。『意向あり』の割合は、男性（45.0%）より女性（47.3%）の方が2.3ポイント高い。認知症の人に対してできることは、男女ともに「定期的に声をかける」と「話し相手になる」が上位2つを占めているが、その割合は女性の方がやや高くなっている。一方、「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈りなどを手伝う」などは、女性より男性の方が高い。また、介護者に対してできることは、男女ともに「介護負担やストレスを聴く」と「定期的に声をかける」が上位2つを占めているが、その割合は女性の方がやや高くなっている。一方、「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈りなどを手伝う」などは、女性より男性の方が高い。
- 年代別にみると、70歳代では「地域として何か協力できることがあれば協力したい」、20～60歳代では「何をどうしたらいいのかわからない」が最も多く、80歳代以上では「自分にはそういう力がないので、特にできることはない」と「何をどうしたらいいのかわからない」が同率で多くなっている。『意向あり』の割合は、70歳代が51.3%で最も高く、次いで、30歳代が50.6%となっている。一方、80歳代以上（36.1%）は、他の年代と比べてその割合が低い。認知症の人に対してできることは、すべての年代で「定期的に声をかける」と「話し相手になる」が上位2つを占めている。年代による差が特に大きいのは、「簡単な家の修理や掃除、庭の草刈りなどを手伝う」で、20歳代では29.5%であるのに対し、30歳代では9.9%にとどまっている。また、介護者に対してできることは、すべての年代で「介護負担やストレスを聴く」と「定期的に声をかける」が上位2つを占めており、特に40歳代では「介護負担やストレスを聴く」、30歳代では「定期的に声をかける」が6割以上と高くなっている。

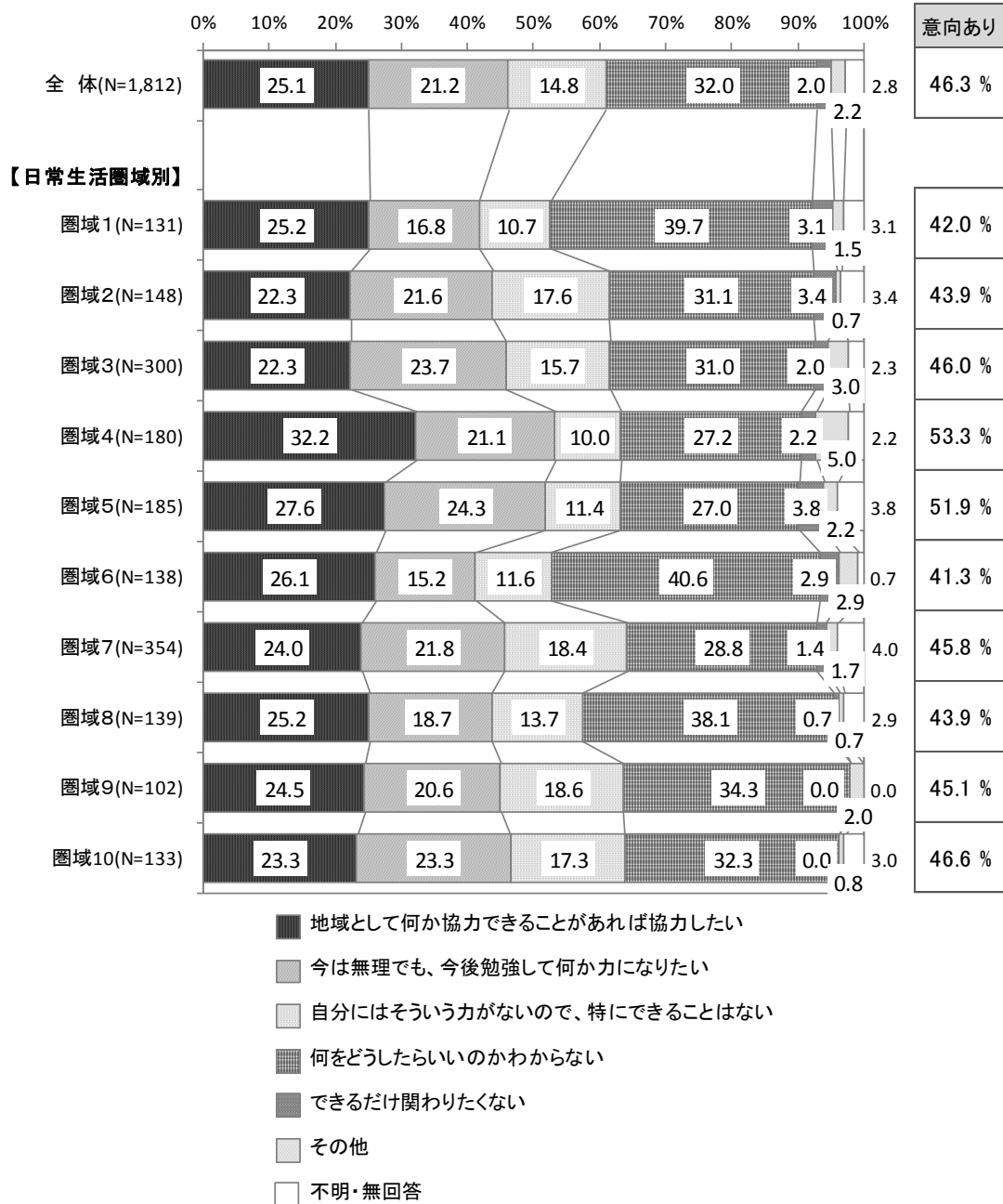


図 63 近所の認知症の人への対応《日常生活圏域別》



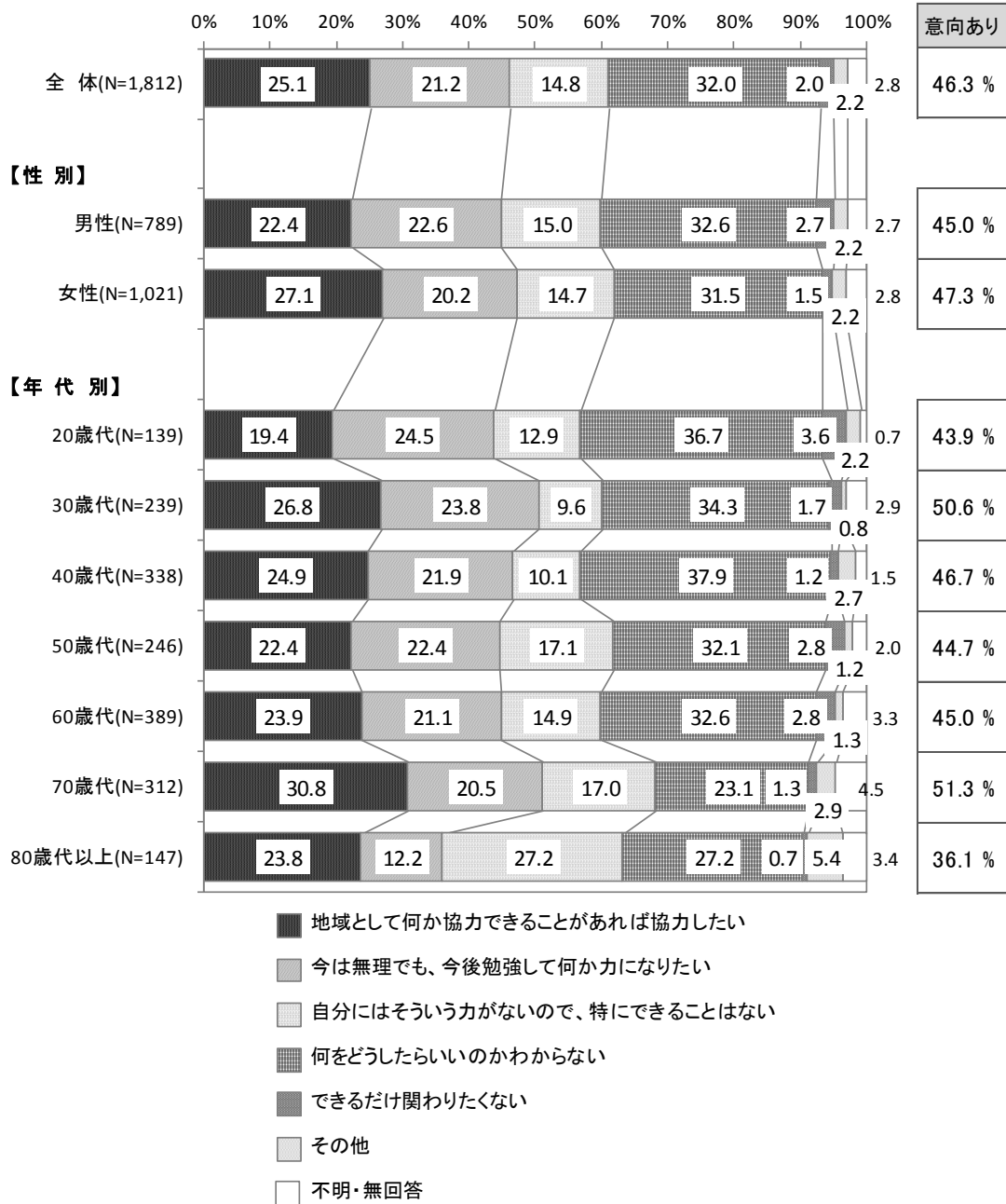


図 64 近所の認知症の人への対応《性別・年代別》

単位：%

※太字は上位3つ(「不明・無回答」を除く)

(複数回答)	話し相手になる	趣味活動(将棋や囲碁など)の相手をする	認知症カフェの案内をする	買い物や近くまでの外出などに付き添う	簡単な家の修理や掃除、庭の草刈りなどを手伝う	病気などの緊急時に看病をする、医師を呼ぶなどの手助けを行う	定期的な声をかける	地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う	その他	認知症の人に対して、できることはない	不明・無回答								
												全体(N=839)	圏域1(N=55)	圏域2(N=65)	圏域3(N=138)	圏域4(N=96)	圏域5(N=96)	圏域6(N=57)	圏域7(N=162)
全体(N=839)	50.8	14.9	12.4	22.6	20.4	25.4	55.9	21.1	1.4	0.7	1.9								
日常生活圏域別	圏域1(N=55)	45.5	14.5	14.5	20.0	21.8	30.9	47.3	0.0	1.8	1.8								
	圏域2(N=65)	50.8	13.8	13.8	26.2	16.9	33.8	60.0	4.6	0.0	0.0								
	圏域3(N=138)	47.1	18.1	14.5	20.3	20.3	23.9	59.4	0.7	0.7	4.3								
	圏域4(N=96)	56.3	17.7	10.4	24.0	24.0	26.0	56.3	0.0	2.1	1.0								
	圏域5(N=96)	46.9	13.5	14.6	17.7	19.8	22.9	56.3	2.1	1.0	0.0								
	圏域6(N=57)	50.9	19.3	12.3	22.8	15.8	24.6	47.4	0.0	1.8	3.5								
	圏域7(N=162)	52.5	11.7	13.0	25.9	25.9	24.1	59.3	1.9	0.0	2.5								
	圏域8(N=61)	55.7	11.5	13.1	23.0	13.1	18.0	52.5	1.6	0.0	0.0								
	圏域9(N=46)	54.3	17.4	6.5	30.4	15.2	23.9	54.3	0.0	0.0	2.2								
	圏域10(N=62)	50.0	12.9	6.5	17.7	19.4	30.6	54.8	1.6	0.0	1.6								
性別	男性(N=355)	45.4	12.7	9.0	20.8	25.1	29.6	52.4	1.1	1.1	1.7								
	女性(N=483)	54.9	16.6	14.9	24.0	17.0	22.4	58.6	1.4	0.4	2.1								
年代別	20歳代(N=61)	63.9	19.7	13.1	26.2	29.5	36.1	55.7	0.0	0.0	0.0								
	30歳代(N=121)	46.3	17.4	11.6	21.5	9.9	27.3	62.0	1.7	0.0	1.7								
	40歳代(N=158)	50.6	20.3	12.0	22.8	20.3	22.2	50.0	2.5	0.0	0.6								
	50歳代(N=110)	55.5	9.1	8.2	20.0	25.5	23.6	64.5	0.9	0.9	0.9								
	60歳代(N=175)	50.3	14.3	16.0	20.0	20.0	24.0	58.9	0.6	1.1	1.1								
	70歳代(N=160)	47.5	11.9	10.0	29.4	23.1	26.3	47.5	1.3	1.3	6.3								
	80歳代以上(N=53)	49.1	11.3	18.9	15.1	17.0	24.5	58.5	1.9	1.9	0.0								

図 65 認知症の人に対してできること《日常生活圏域別・性別・年代別》

単位：%

※太字は上位3つ(「不明・無回答」を除く)

(複数回答)	介護負担や ストレスを聴く	認知症カフェの 案内をする	買い物や家事 などを手伝う	簡単な家の修理 や掃除、庭の 草刈りなどを 手伝う	病気などの 緊急時に看病を する、医者を 呼ぶなどの 手助けを行う	定期的な声を かける	地域の防災組織 などに加入し、地震 などの災害時、地震 安否確認を行うの	その他	介護者に対して、 できることはない	不明・無回答
全体(N=839)	56.5	13.9	27.8	18.6	31.2	53.3	19.1	1.2	0.2	4.8
日常生活圏域別	圏域1(N=55)	43.6	14.5	25.5	18.2	40.0	58.2	12.7	0.0	3.6
	圏域2(N=65)	56.9	18.5	29.2	10.8	32.3	61.5	20.0	3.1	1.5
	圏域3(N=138)	51.4	18.8	33.3	15.2	33.3	65.2	18.1	0.7	3.6
	圏域4(N=96)	61.5	11.5	24.0	16.7	36.5	49.0	20.8	0.0	2.1
	圏域5(N=96)	59.4	15.6	17.7	19.8	30.2	43.8	22.9	0.0	7.3
	圏域6(N=57)	52.6	14.0	28.1	21.1	24.6	42.1	5.3	0.0	10.5
	圏域7(N=162)	61.7	13.0	35.8	25.9	29.0	53.7	23.5	1.9	3.7
	圏域8(N=61)	52.5	13.1	26.2	16.4	21.3	47.5	13.1	1.6	6.6
	圏域9(N=46)	60.9	6.5	26.1	15.2	28.3	52.2	17.4	0.0	4.3
	圏域10(N=62)	58.1	8.1	19.4	19.4	35.5	51.6	25.8	3.2	8.1
性別	男性(N=355)	49.9	11.5	24.5	23.9	35.5	49.3	20.6	0.8	3.9
	女性(N=483)	61.5	15.7	30.2	14.7	28.2	56.3	18.0	1.2	5.4
年代別	20歳代(N=61)	55.7	14.8	31.1	21.3	39.3	50.8	21.3	0.0	8.2
	30歳代(N=121)	59.5	14.9	28.1	12.4	31.4	60.3	27.3	1.7	1.7
	40歳代(N=158)	63.9	13.9	31.0	17.1	28.5	49.4	17.1	1.3	4.4
	50歳代(N=110)	55.5	8.2	30.9	21.8	36.4	55.5	20.0	0.9	0.9
	60歳代(N=175)	54.9	17.1	28.0	21.7	30.3	56.0	17.1	0.0	5.7
	70歳代(N=160)	50.6	11.9	21.3	20.0	27.5	48.8	16.3	1.9	8.8
	80歳代以上(N=53)	54.7	18.9	26.4	13.2	34.0	52.8	17.0	1.9	1.9

図 66 介護者に対してできること《日常生活圏域別・性別・年代別》

○認知症の人と接した経験別 (図 67) に『意向あり』の割合をみると、経験がない人 (34.3%) よりある人 (54.9%) の方が20.5ポイント高くなっている。経験がない人では、「何をどうしたらいいのかわからない」が4割以上を占めており、未経験ゆえに協力の仕方や内容がわからない人が多いことがうかがえる。

○地域住民の協力の必要性別に『意向あり』の割合をみると、『必要なし』と思う人 (18.2%) より『必要あり』と思う人 (50.5%) の方が32.2ポイント高くなっている。

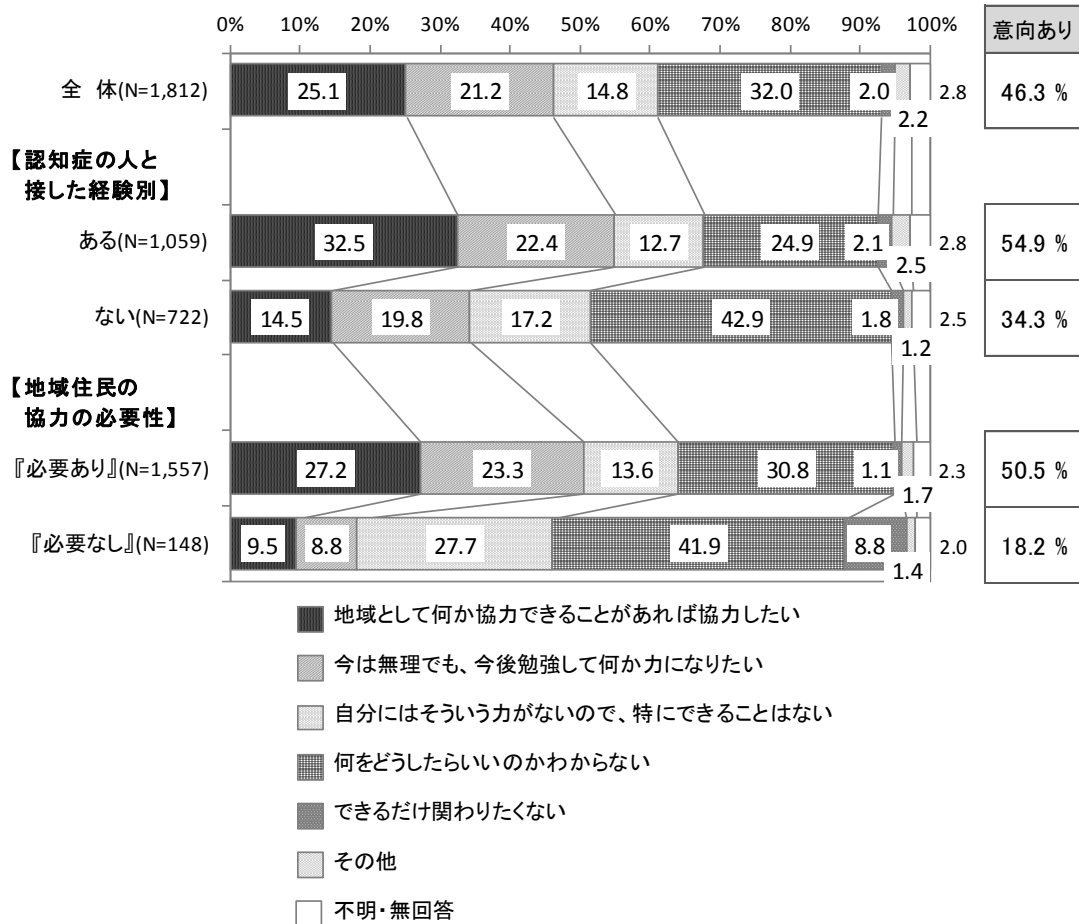


図 67 近所の認知症の人への対応《問1 認知症の人と接した経験別・問19 地域住民の協力の必要性別》

### (3) 認知症カフェの利用意向

問21 あなたは、『認知症カフェ』が近くがあれば、利用してみたいと思いますか。  
(○は1つ)

※『意向あり』:「すでに利用したことがある」と「利用したい」の合計

○認知症カフェの利用意向(図68)は、「わからない」が61.2%で最も多くなっている。一方、『意向あり』(「すでに利用したことがある」と「利用したい」の合計)と回答した割合は、約28%である。

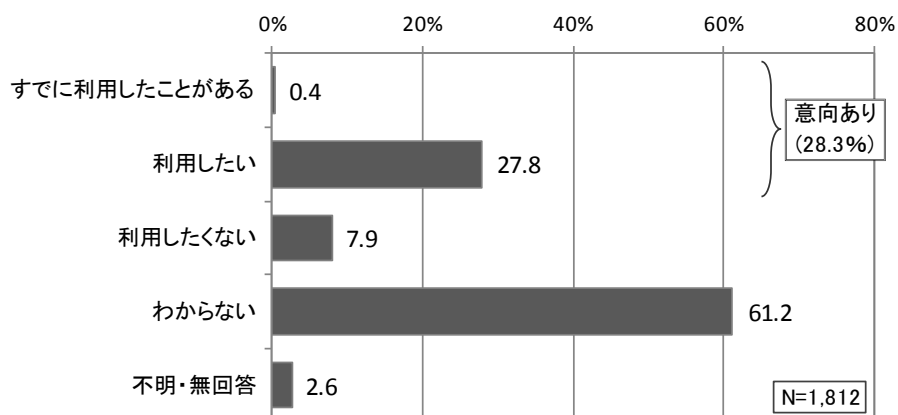


図 68 認知症カフェの利用意向

○日常生活圏域別(図69)に『意向あり』の割合をみると、圏域10が33.8%で最も高く、以下、圏域4が31.1%、圏域7が30.5%と続いている。

○年代別に『意向あり』の割合をみると、60歳代が33.9%で最も高く、以下、70歳代が31.4%、30歳代が26.8%と続いている。

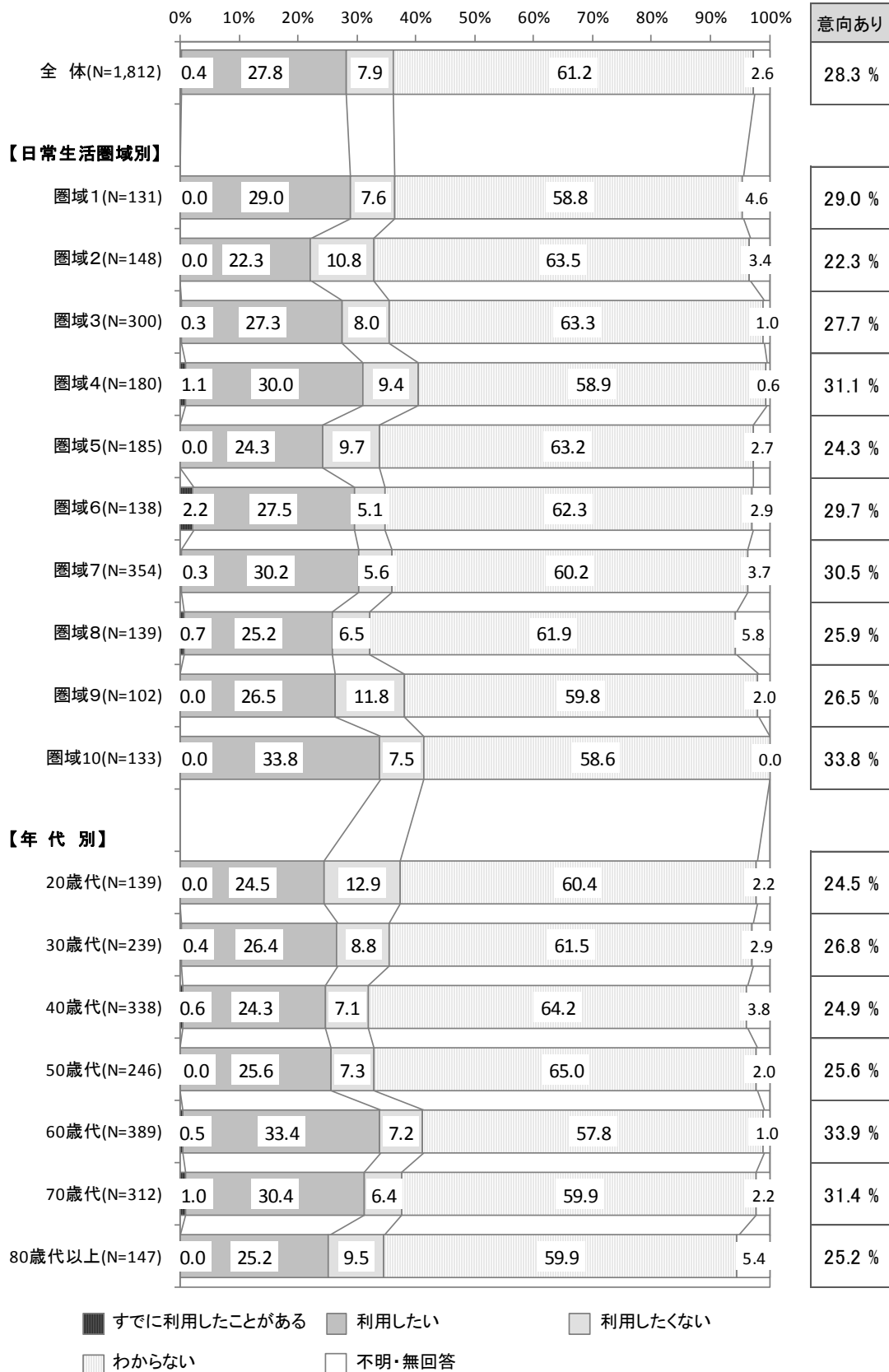


図 69 認知症カフェの利用意向《日常生活圏域別・年代別》

#### (4) 知っている相談機関や制度

問22 次の相談機関や制度のうち、知っているものはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

○知っている相談機関や制度（図 70）は、「消費生活センター」が65.2%で最も多く、次いで「成年後見制度」が44.7%となっている。

○一方、「どの機関や制度も知らない」は21.8%となっている。

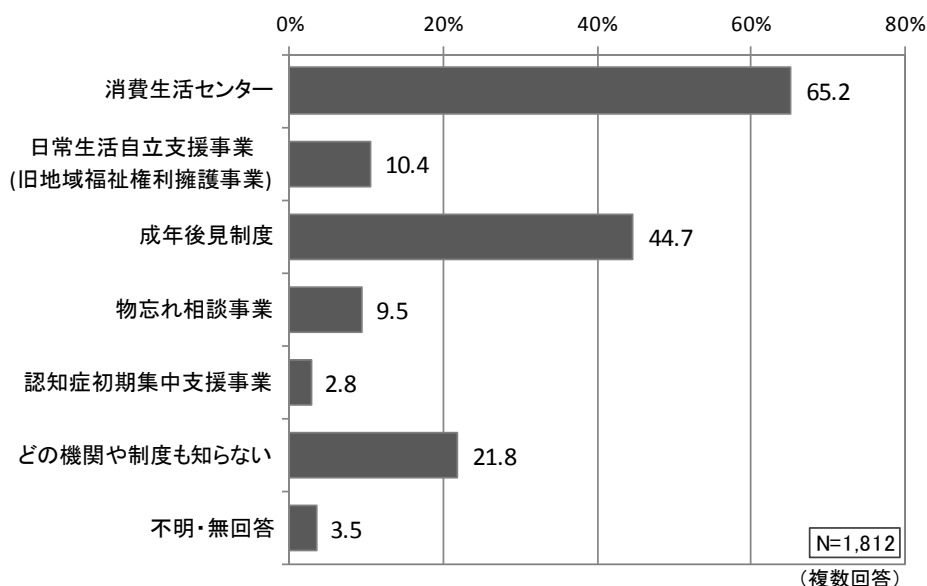


図 70 知っている相談機関や制度

○日常生活圏域別（図 71）にみると、すべての圏域で「消費生活センター」が最も多く、次いで「成年後見制度」となっている。

○年代別にみると、知っている相談機関や制度は、すべての年代で「消費生活センター」が最も多く、次いで「成年後見制度」となっている。一方、「どの機関や制度も知らない」の割合は、20歳代（35.3%）と80歳代以上（28.6%）で他の年代と比べて高く、特に、20歳代の認知度の低さが突出している。

○認知症の人と接した経験別にみると、経験がない人と比べてある人の方が、すべての相談機関や制度について知っている割合が高く、特に、「成年後見制度」は、経験がない人（34.1%）よりある人（52.8%）の方が18.7ポイント高くなっている。

単位：%

※太字は上位2つ(「不明・無回答」を除く)

(複数回答)	消費生活 センター	日常生活自立 支援事業 (旧地域福祉 権利擁護事業)	成年後見 制度	物忘れ 相談事業	認知症初期集中 支援事業	どの機関や 制度も 知らない	不明・無 回答	
全体(N=1,812)	65.2	10.4	44.7	9.5	2.8	21.8	3.5	
日常生活圏域別	圏域1(N=131)	61.1	9.2	48.9	6.9	4.6	22.1	5.3
	圏域2(N=148)	64.9	8.8	41.9	10.8	2.0	21.6	5.4
	圏域3(N=300)	65.3	8.7	48.0	9.3	4.0	23.3	2.3
	圏域4(N=180)	65.6	15.0	44.4	12.2	2.2	22.2	1.7
	圏域5(N=185)	64.3	11.9	37.8	10.8	2.2	20.0	3.8
	圏域6(N=138)	66.7	10.1	43.5	8.7	2.2	20.3	5.1
	圏域7(N=354)	68.9	10.2	46.6	9.6	2.3	22.3	2.3
	圏域8(N=139)	61.9	14.4	46.8	12.2	2.9	20.9	4.3
	圏域9(N=102)	61.8	10.8	44.1	7.8	2.9	21.6	2.9
	圏域10(N=133)	63.9	5.3	39.8	3.8	1.5	21.8	5.3
年代別	20歳代(N=139)	54.0	7.2	32.4	6.5	2.9	35.3	2.2
	30歳代(N=239)	65.7	11.3	45.6	11.3	1.3	20.5	2.1
	40歳代(N=338)	68.3	11.2	44.1	7.7	1.5	20.4	3.0
	50歳代(N=246)	65.9	9.3	45.5	8.1	2.4	20.7	3.3
	60歳代(N=389)	70.7	11.6	52.2	10.5	4.1	20.8	0.8
	70歳代(N=312)	65.1	10.6	46.2	11.9	3.2	17.3	6.4
	80歳代以上(N=147)	51.7	8.2	31.3	7.5	3.4	28.6	9.5
問1	ある(N=1,059)	68.2	14.2	52.8	12.6	3.6	17.8	3.0
	ない(N=722)	61.8	5.1	34.1	5.3	1.7	27.1	3.5

※ 問1 認知症の人と接した経験

図 71 知っている相談機関や制度《日常生活圏域別・年代別・問1 認知症の人と接した経験別》



(5) 認知症サポーターの認知状況および養成講座の受講意向

問23 認知症サポーター（認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（○は1つ）

問23副問 問23で「2. 名前は聞いたことがある」または「3. 知らない」と答えられた方のみにお聞きします。  
認知症サポーター養成講座を受講したいと思いますか。（○は1つ）

※『認知度』：「講座を利用したことがある」と「名前は聞いたことがある」の合計

- 認知症サポーターの認知状況（図 72）は、「知らない」が75.9%で最も多くなっている。『認知度』（「講座を利用したことがある」と「名前は聞いたことがある」の合計）は約22%にとどまっている。
- 講座を受講していない人の受講意向（図 73）は、「興味はあるが、受講できない（多忙・健康上の理由など）」が51.4%で最も多く、次いで「興味がない」が22.6%となっており、「受講したい」は14.0%にとどまっている。

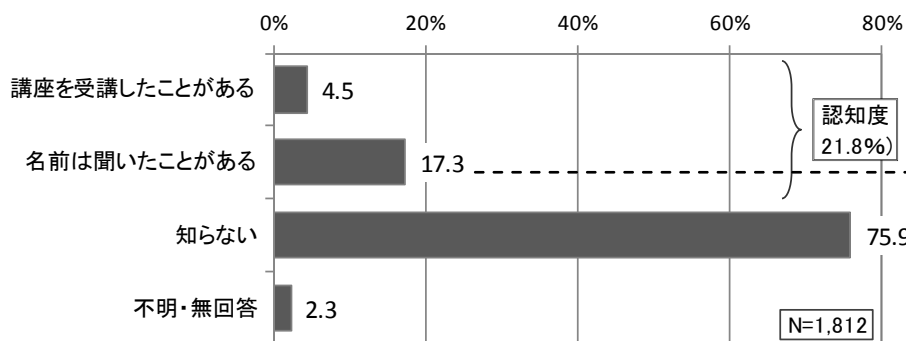


図 72 認知症サポーターの認知状況

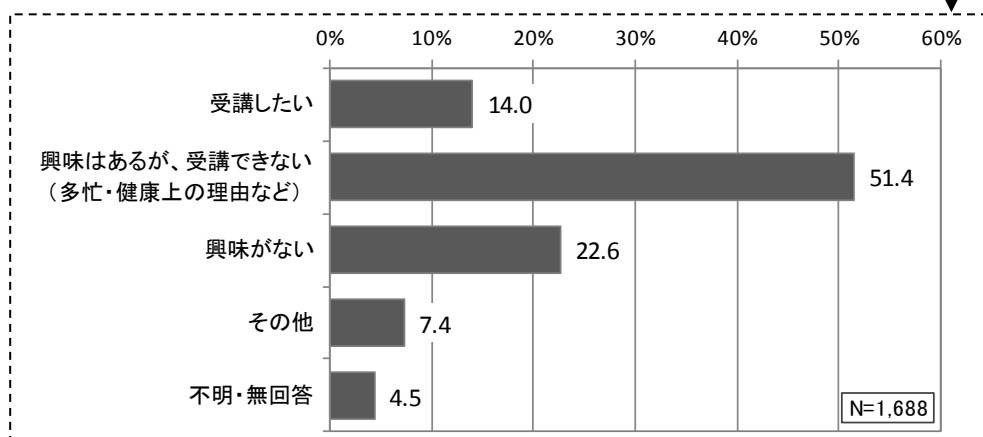


図 73 認知症サポーター養成講座の受講意向

- 日常生活圏域別（図 74）に「講座を受講したことがある」と回答した割合をみると、圏域 2 が 10.1% で最も高く、以下、圏域 6 が 6.5%、圏域 1 が 6.1% と続いている。『認知度』でも、圏域 2（35.8%）が、他の圏域と比べて高くなっている。一方、圏域 3（82.0%）と圏域 9（80.4%）では「知らない」が 8 割以上を占めている。講座を受講していない人のうち「受講したい」と回答した割合（図 75）は、圏域 4 が 20.2% で最も高く、以下、圏域 8 が 18.9%、圏域 2 が 17.1% と続いている。
- 年代別に「講座を受講したことがある」と回答した割合をみると、60 歳代が 5.9% で最も高いが、年代による差はあまりみられない。『認知度』では、70 歳代が 26.0% で最も高く、以下、30 歳代が 22.6%、60 歳代が 22.1% と続いている。講座を受講していない人のうち「受講したい」と回答した割合は、70 歳代が 19.5% で最も高く、以下、30 歳代が 15.4%、60 歳代が 15.2% と続いている。一方、20 歳代（37.4%）と 30 歳代（30.0%）では、「興味がない」と回答した割合が 3 割以上となっており、他の年代と比べて高い。

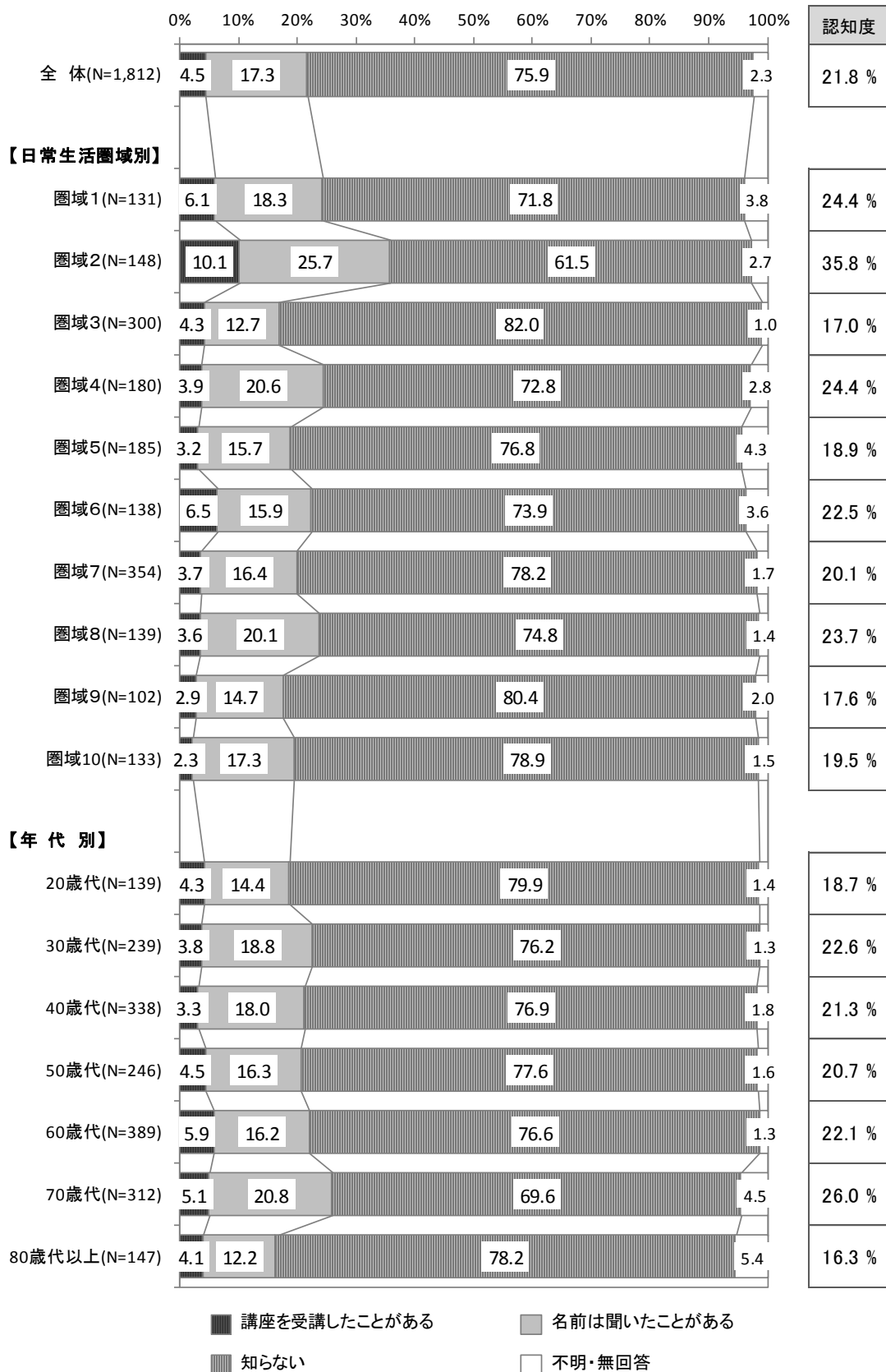


図 74 認知症サポーターの認知状況《日常生活圏域別・年代別》

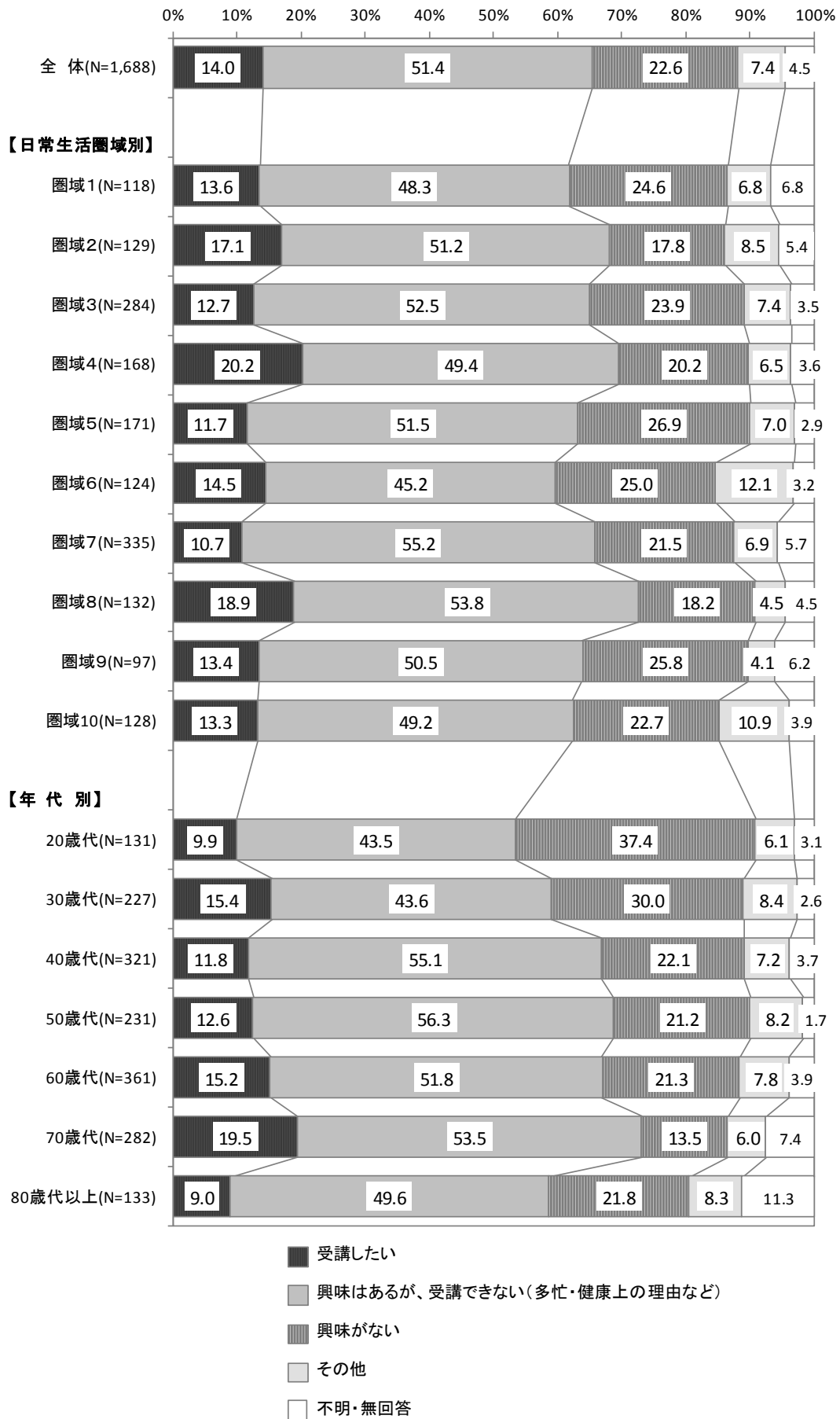


図 75 認知症サポーター養成講座の受講意向《日常生活圏域別・年代別》

(6) 「認知症初期集中支援チーム」の利用意向

問24 生駒市では、今年度から「認知症初期集中支援チーム」の運用を開始しています。これは、認知症の疑いがあるのに受診を拒否したり中断したりしている人や、必要があるにもかかわらず介護保険サービスを利用していない人などを対象として、保健師や精神保健福祉士などの専門職がチームを組み、認知症の専門医の協力を得ながら、認知症の人（その疑いのある人）とそのご家族の支援を行うものです。あなたご自身やあなたのご家族が、そのような状態になったとき、「認知症初期集中支援チーム」を利用したいと思いますか。したくない場合には理由もご記入ください。(○は1つ)

○「認知症初期集中支援チーム」の利用意向（図 76）は、「利用したい」が72.1%と多くなっている。

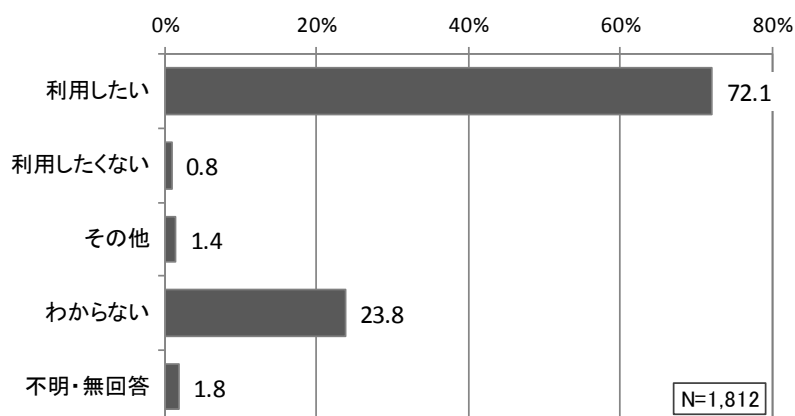


図 76 「認知症初期集中支援チーム」の利用意向

○日常生活圏域別（図 77）に「利用したい」と回答した割合をみると、圏域5が78.4%で最も高く、以下、圏域10が78.2%、圏域2が75.0%と続いている。

○年代別に「利用したい」と回答した割合をみると、30歳代が76.6%で最も高く、以下、60歳代が74.8%、40歳代が73.7%と続いている。一方、80歳代以上では、他の年代と比べて「わからない」（33.3%）と回答した割合が高く、「利用したい」は58.5%にとどまっている。

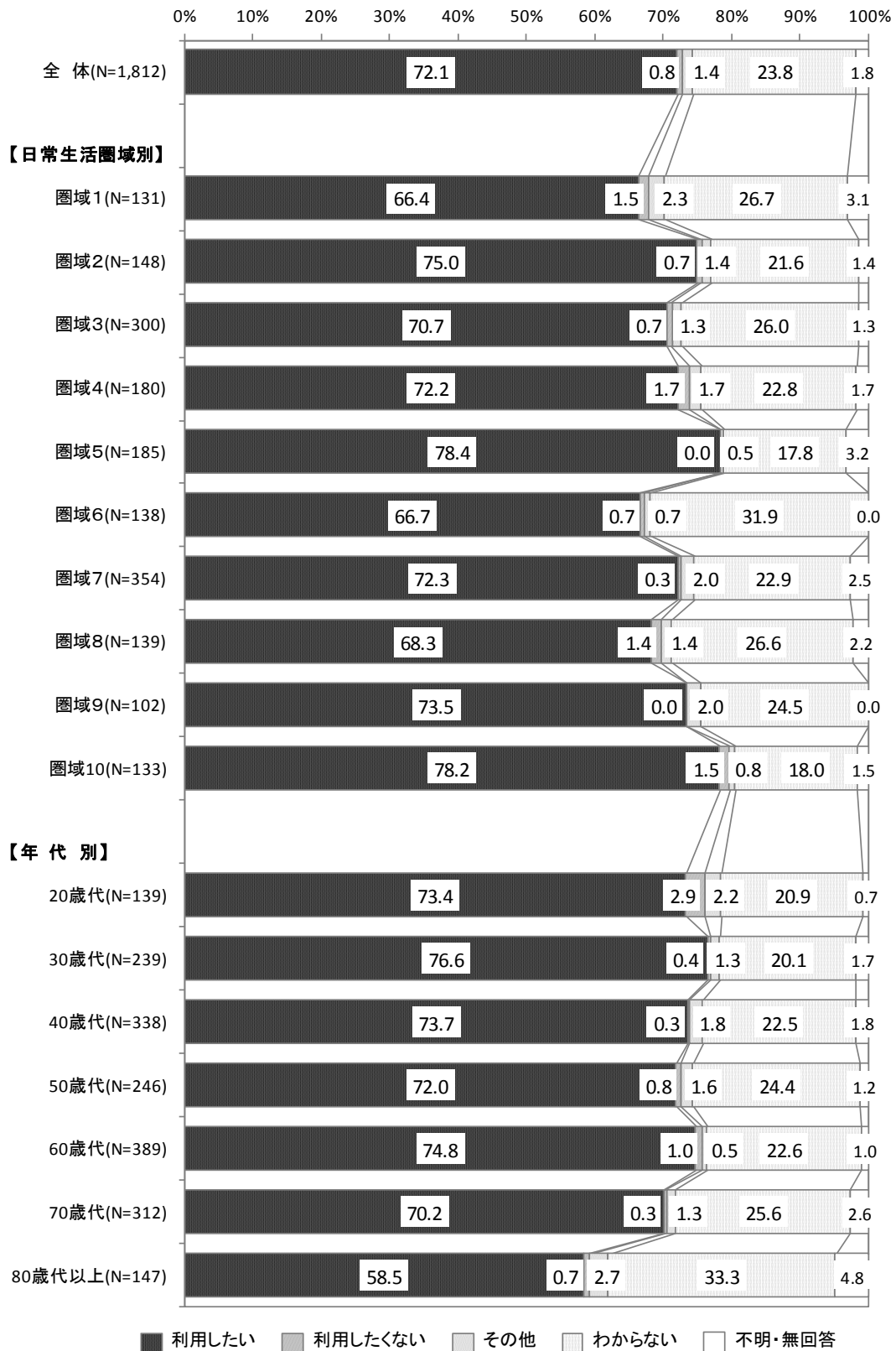


図 77 「認知症初期集中支援チーム」の利用意向《日常生活圏域別・年代別》

(7) 認知症の人の見守り活動への協力意向

問25 高齢化の進展に伴い、認知症を有する人も増えています。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりのために、あなたの趣味や得意なこと（囲碁や将棋、手芸や園芸など）を活かして、認知症を有する人を見守る活動を検討していますが、どう感じますか。  
(○は1つ)

※『意向あり』:「趣味や得意なことがあるので、協力したい」と  
「趣味や得意なことはないが、できることがあれば協力したい」の合計

○認知症の人の見守り活動への協力意向（図 78）は、『意向あり』（「趣味や得意なことがあるので、協力したい」と「趣味や得意なことはないが、できることがあれば協力したい」の合計）の割合が48.3%と約半数を占めている。

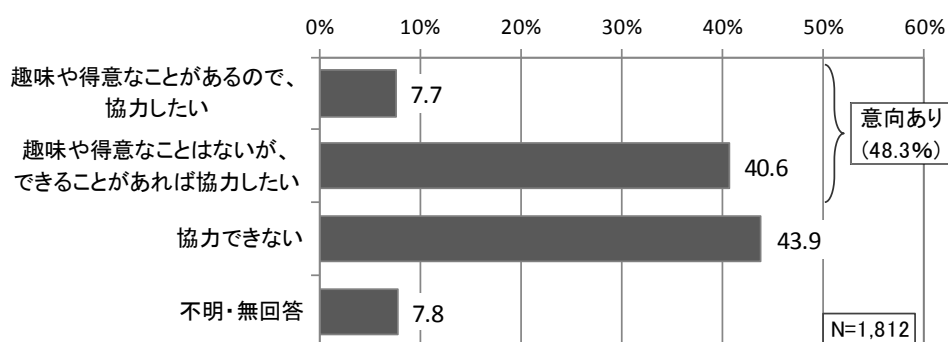


図 78 認知症の人の見守り活動への協力意向

- 日常生活圏域別(図 79)に『意向あり』の割合をみると、圏域2 (56.1%)と圏域4 (55.6%)で55%以上となっている。
- 性別(図 80)に『意向あり』の割合をみると、男性(47.3%)より女性(49.2%)の方がやや高い。
- 年代別に『意向あり』の割合をみると、30歳代(52.3%)と60歳代(51.7%)、20歳代(51.1%)で5割以上となっている。一方、50歳代(50.0%)では「協力できない」と回答した割合が他の年代と比べて高い。

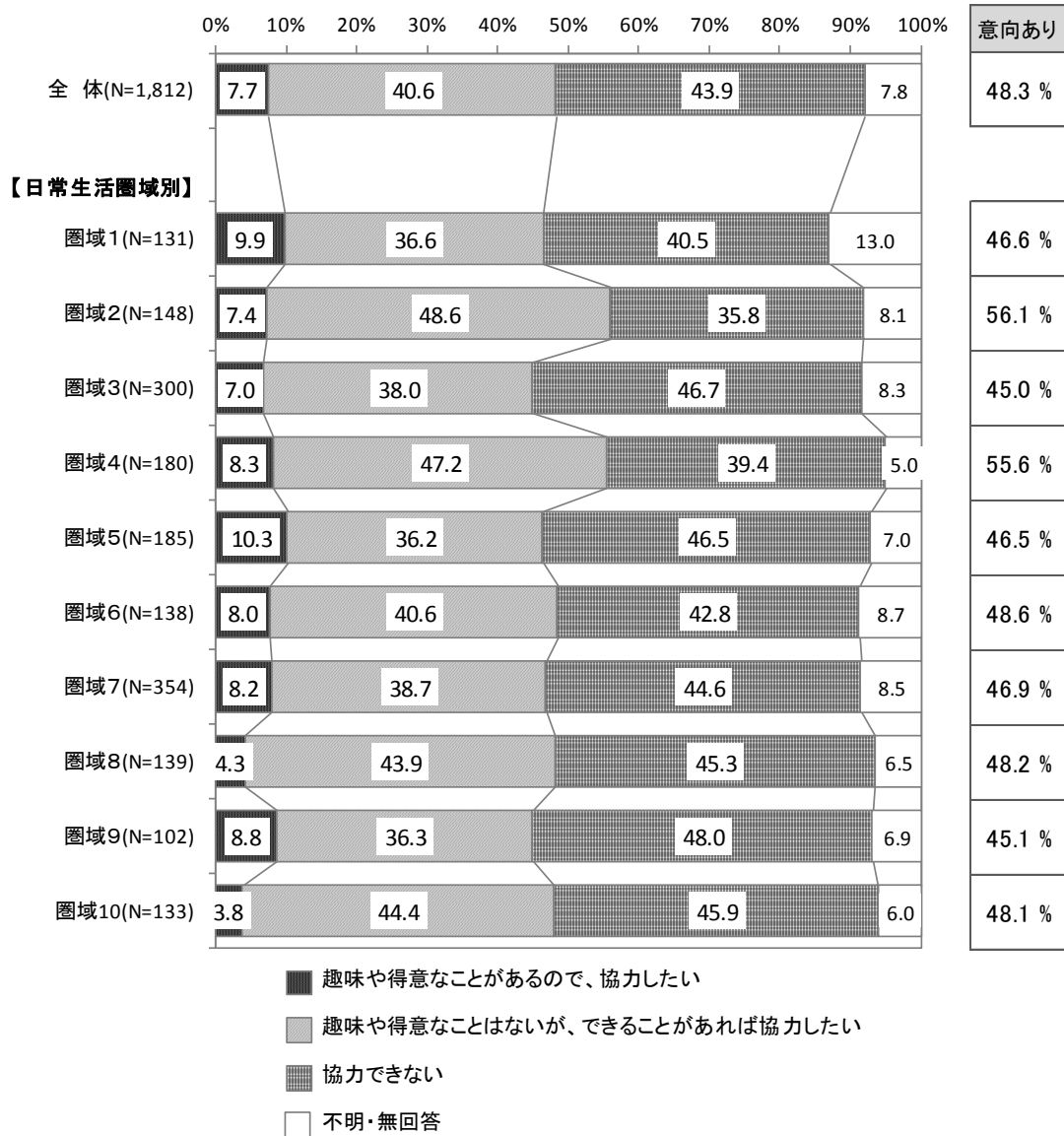


図 79 認知症の人の見守り活動への協力意向《日常生活圏域別》



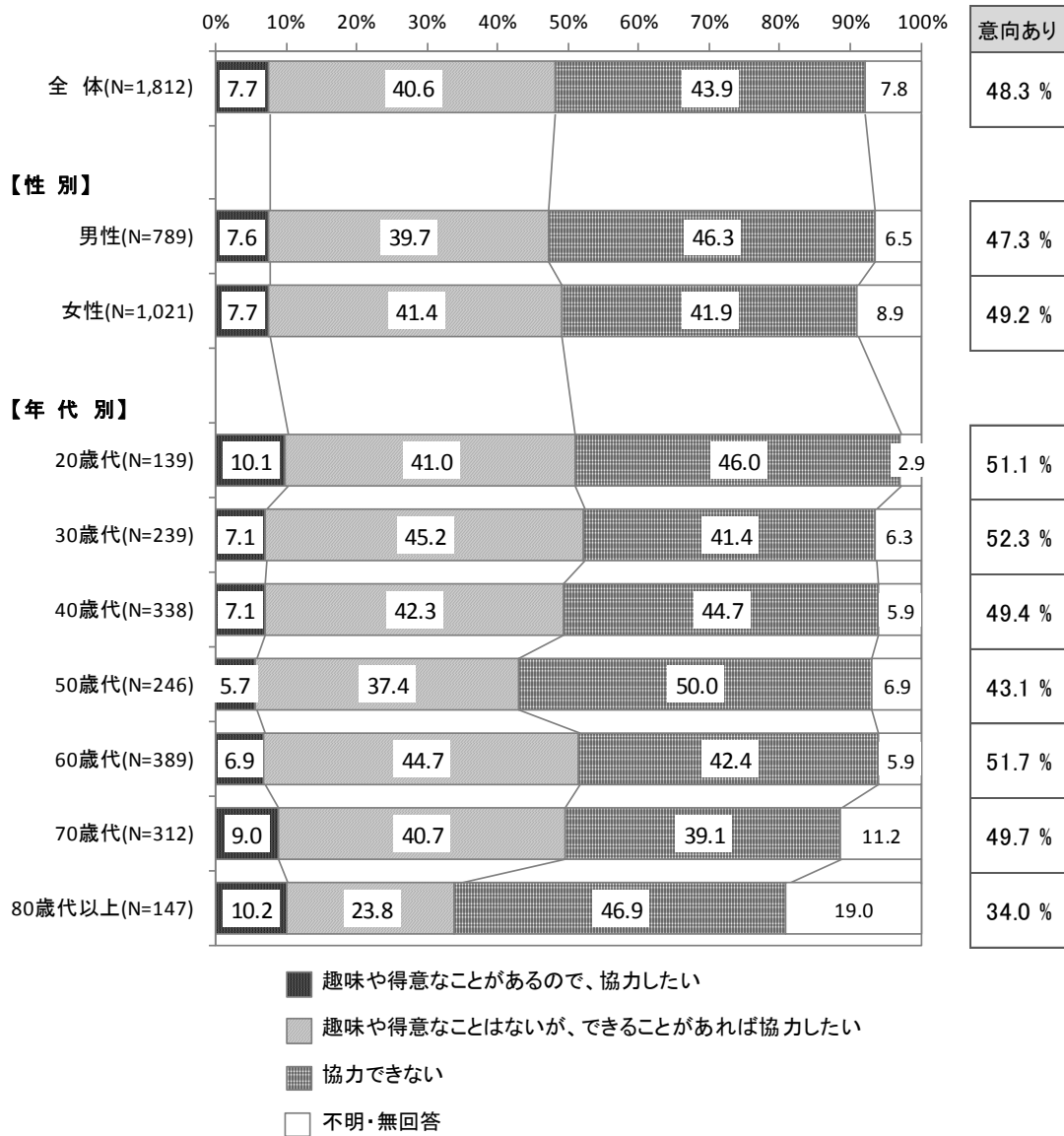


図 80 認知症の人の見守り活動への協力意向《性別・年代別》

(8) 認知症の人にとって暮らしやすい地域とは

問26 認知症の人にとって、暮らしやすい地域とはどんな地域だと思いますか。ご自由にお書きください。

- 認知症の人にとって暮らしやすい地域(表3)としては、786人からのべ1,301件の意見(暮らしやすい地域に関するのではない意見および「わからない」という回答は除く)があげられた。
- 多くあげられた内容は、地域住民同士で見守ったり、助け合ったり、温かく理解したりするなど隣近所の良い交流があるや、正しい知識が啓蒙されている、経済的な負担軽減が充実している、介護施設・サービスが充実している、偏見・差別がないなどとなっている。

表3 認知症の人にとって暮らしやすい地域とは(自由記述)

意見内容	のべ件数
声かけ・見守りができている地域	143
住民同士の助け合いがある地域	130
近所の人々の温かい理解がある地域	125
日頃から良好な近所付き合いがある地域	113
認知症の正しい知識が啓蒙されている地域	78
経済的支援や負担軽減が充実している地域	57
介護施設が充実している地域	56
介護サービスが充実している地域	51
偏見・差別のない地域	50
気軽に利用できる場所や集まりがある地域	47
認知症であることを隠さずオープンにできる地域	46
安心・安全な地域	41
公的な支援・サービス、行政施策が充実している地域	38
気軽に相談できる場や仕組みがある地域	33
認知症になっても普通に平穩に生活できる地域	32
閉じこもらず外出しやすい地域	25
認知症の人や介護者が孤立しない地域	22
経済的支援や介護の金銭負担が少ない地域	22
認知症の早期発見や予防方法の周知が充実している地域	18
専門の医療機関や専門家が充実している地域	18
自治会活動・地域活動が世代を超えて活発な地域	16
徘徊者を早く発見できる仕組みがある地域(GPS, 監視カメラ等)	16
認知症になっても楽しく生活できる地域	14
認知症に関する情報提供・共有が充実している地域	14
良好な家族関係	11
すべての人が余裕を持って過ごせる社会	10
自然・みどりが豊かなまち	9
認知症になっても可能な限り自力で生活できる地域	7
認知症の人が活躍・就労できる場のある地域	7
リハビリや運動ができる場がある地域	7
介護と医療の連携ができている地域	7
公園・ベンチなど休憩場所がある地域	6
日常生活施設(買い物・通院等)が便利な地域	5
公共交通の便が良い地域	5
その他(住民と行政の協働、尊厳を守る、多世代がともに暮らす など)	21

■調査票

整理番号

※ 整理番号は個人を特定するものではありません。  
※ 汚したり、はがしたりしないでください。

認知症に関する市民意識調査

ご協力をお願い

皆様には、日頃から生駒市の市政全般にわたりご理解・ご協力をいただきお礼申し上げます。さて、生駒市では、「認知症になっても安心して暮らせるまち いこま」の実現をめざして、認知症の正しい理解の啓発や、早期発見・早期対応、地域での見守り、認知症の人やその家族への支援体制の充実、権利擁護など様々な視点から支援を行う体制づくりに取り組んでいます。このアンケートは、地域で認知症の高齢者やその家族を支える上での課題を明らかにし、今後の地域づくりに役立てる目的で、平成28年11月1日現在で20歳以上の方3,000人を無作為抽出し、アンケートを実施するものです。恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。なお、収集した情報は皆様にとって大切な情報であるという認識にたち、生駒市個人情報保護条例に基づき適正な取り扱いを行います。

平成28年12月

生駒市高齢施策課地域包括ケア推進室

ご記入に際してのお願い

1. ご回答にあたっては、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご本人のお考えについてお答えいただけますが、ご家族の方がご本人の代わりに記入されたり、ご一緒に回答されたりしてはかまいません。
2. この調査の回答は無記名でお願いしております。回答された内容は統計的に処理しますので、内容が外部にもれるなどとしてご迷惑をおかけすることは決してございません。安心してご回答ください。
3. それぞれの間について、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。「その他」に○印をつけられた場合は、( ) 内に内容をご記入ください。
4. 調査票記入後は、3つ折りで同封の返信用封筒に入れ、12月27日(火)までに近隣の郵便ポストに投函してください。(切手は不要です)
5. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

問い合わせ先 生駒市 高齢施策課 地域包括ケア推進室  
電話 74-1111 (内線765・769)

認知症に対するイメージについて、おたずねします。

☆認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために今までできていたことができなくなり、一定期間継続して生活上の支障が出ている状態を指します。現在、65歳以上の高齢者のうち、約4人に1人が認知症の人またはその予備群といわれています。

問1 あなたは今までに認知症の人と接したことがありますか。(○は1つ)

1. ある ⇒ 問1副問へ 2. ない

問1副問 問1で「ある」と答えられた方の方のみにお聞きします。  
経験したことがあるのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. ご家族の中に認知症の人がいる
2. ご家族の中に認知症の人がいた
3. ご親戚の中に認知症の人がいる
4. ご親戚の中に認知症の人がいた
5. 友人や友人のご家族の中に認知症の人がいる
6. 友人や友人のご家族の中に認知症の人がいた
7. 近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある
8. 今までに仕事を通じて、認知症の人と接したことがある
9. 街中などで、たまたま認知症の人と接したことがある
10. 自分自身が認知症の診断や治療を受けている
11. その他( )

問2 あなたが認知症の初期症状だと思うのは、次のうちどれですか。(○は3つまで)

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| 1. 今日の曜日や日付がわからなくなる        | 14. 「頭が変になっただ」と本人が訴える                  |
| 2. 同じことを何度も言う・聞く・する        | 15. 財布・通帳・衣服などを盗まれたと、人を疑う              |
| 3. しまい忘れ、置忘れが増え、探し物が多くなる   | 16. 好きだったことや趣味に興味・関心を示さなくなる            |
| 4. 約束の日時や場所を間違えるようになる      | 17. ふさぎ込んで何をしてもおっくうがり、嫌がる              |
| 5. 新しいことが覚えられない            | 18. ささいなことでも怒りっぽくなる                    |
| 6. よく知っているはずの人の顔や名前を忘れる    | 19. 暴力を振るったり、暴言を吐いたりする                 |
| 7. 慣れた道でも迷うことがある           | 20. 一人になると怖かったり、寂しがったりする               |
| 8. 本やテレビ番組の内容が理解できなくなる     | 21. 見えないものや聞こえないものが、「見える」「聞こえる」と言ったりする |
| 9. 話のつじつまが合わない             | 22. 排泄の失敗が増える(尿漏れ、尿失禁等)                |
| 10. 身だしなみや服装を気にしなくなる       | 23. 汚れ物を隠す                             |
| 11. 料理・片づけ・運転などのミスが多くなる    | 24. 歯磨きや入浴など、清潔を保つ行為をしなくなる             |
| 12. 買い物のお金がおかしくたりと周囲から言われる | 25. その他( )                             |

問3 認知症は病気だと思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問4 認知症の治療に関して、あなたのイメージに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

1. 治療すれば、治すことができる
2. 治療すれば、進行を遅らせることができる
3. 治療したり、医師に診てもらっても進行を遅らせたり、治すことができない
4. わからない

問5 認知症の人が偏見を持ってみられる傾向にあると思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問6 周囲の人の対応によっては、その症状や進行が変わると思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問7 「予防できる認知症」があることをご存知ですか。(○は1つ)

1. よく知っている
2. 少し知っている
3. 聞いたことはあるがあまり知らない
4. まったく知らない

問8 「治る可能性のある認知症」があることをご存知ですか。(○は1つ)

1. よく知っている
2. 少し知っている
3. 聞いたことはあるがあまり知らない
4. まったく知らない

問9 65歳未満で発症する「若年性認知症」のことをご存知ですか。(○は1つ)

1. よく知っている
2. 少し知っている
3. 聞いたことはあるがあまり知らない
4. まったく知らない

問10 認知症の情報を何かから得られていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 認知症の講演会や催し物
2. パンフレットなどの認知症啓発物
3. テレビ、ラジオ等のマスコミ
4. インターネット
5. 新聞や雑誌等の書物
6. 家族や親戚からの話
7. 近隣の人や友人・知人からの話
8. 地域包括支援センター
9. 市役所などの公的機関
10. 病院、診療所などの医療機関
11. ケアマネジャー・ホームヘルプ・デイサービスなど介護保険サービス事業者
12. 社会福祉協議会
13. その他 ( )
14. 特に何も情報を得ていない

問11 これまでに認知症に関する講演会や催し物に参加したことがありますか。(○は1つ)

1. 1～2回参加した
2. 3回以上参加した
3. 参加したことがない

●ご自身やご家族が認知症になったときの生活について、おたずねします。

問12 今までにあなたご自身やご家族が認知症になったときにどうしたらいいか、考えたことがありますか。(○は1つ)

1. 考えたことがある
2. 考えたことはない
3. その他 ( )

問12 副問 問12で「1. 考えたことがある」と答えた方の方のみにお聞きします。どのようなことを考えましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 介護のこと
2. 経済的なこと
3. 認知症の進行のこと
4. 地域との関係
5. その他 ( )

問13 あなたご自身が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。(○は1つ)

1. 知られてもよい
2. 知られたくない
3. その他 ( )
4. わからない

問14 あなたのご家族が認知症になったら、周囲に知られてもよいと思いますか。(○は1つ)

1. 知られてもよい
2. 知られたくない
3. その他 ( )
4. わからない

問15 あなたご自身やご家族に認知症の疑いがあるとき、まずどこに相談すると思いますか。(○は3つまで)

1. かかりつけの医師や看護師等
2. 専門の医療機関 (精神科・心療内科等)
3. 同居の家族
4. 別居の家族
5. 近隣の人や友人
6. 民生委員
7. ケアマネジャー・ホームヘルプ・デイサービスなど介護保険サービス事業者
8. 地域包括支援センター
9. 市役所などの公的機関
10. 社会福祉協議会
11. その他 ( )
12. どこに相談していいかわからない

問16 あなたご自身が認知症になったら、どのように介護されたいと考えますか。(○は1つ)

1. 家族や親戚だけで、できる限り自宅で介護してほしい
2. 家族・親戚中心に近所の人の協力も得ながら、できる限り自宅で介護してほしい
3. 介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護されたい
4. 病院に入院したい
5. 特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入所したい
6. その他 ( )

問 17 あなたのご家族が認知症になったら、どのように介護したいと考えますか。(○は1つ)

1. 家族や親戚だけで、できる限り自宅で介護したい
2. 家族・親戚中心に、近所の人の協力も得ながら、できる限り自宅で介護したい
3. 介護サービスも利用しながら、できる限り自宅で介護したい
4. 病院に入院させたい
5. 特別養護老人ホームやグループホームなどの施設に入居させたい
6. その他 ( )

問 18 認知症の人の介護を続けていくために特に必要だと思う支援は何ですか。(○は3つまで)

1. 物忘れ相談医や認知症専門医療機関情報の周知
2. 医療機関など認知症の人と家族に役立つサービス等をまとめた地域資源マップ
3. 医師の診察による診断・治療
4. 認知症の人が安心して入所できる施設や住まい
5. 認知症の人が喜んで通うことのできる居場所
6. 認知症の人の話し相手や散歩の付き添い
7. 介護の見とおしや後し方の工夫を教えてくれる講座や相談できる場所
8. 介護者が疲れた時などに、緊急でも介護を代わってくれる人や施設
9. 家族の外出時に認知症の人を見守る支援
10. 介護者同士が気軽に話すことができ、情報交換できる場所
11. 臨床心理士などの専門家による介護者に対するメンタル相談
12. 訪問による家族相談
13. 電話やインターネットでの相談
14. 行方不明時に家族等に対して位置情報を提供するGPS端末機の貸し出し
15. 徘徊高齢者の情報を共有し、早期発見につなげるネットワークの構築
16. 紙おむつの支給
17. 認知症の早期発見につながる取り組み、啓発活動
18. 地域での認知症に対する正しい理解を広め、身近な支援者を増やすこと
19. 認知症支援ボランティアの育成
20. その他 ( )
21. わからない
22. 特に支援は必要ない

●認知症の人やその家族を支える仕組みについて、おたずねします。

問 19 あなたは認知症の人が生活するために、地域住民の協力は必要だと思いますか。(○は1つ)

1. 家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う
2. 家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う
3. 介護保険を利用すればよいので、必要だと思うわない
4. 家族が支えればよいので、必要だと思うわない
5. その他 ( )

問 20 認知症の人が近所にいた場合、あなたはどうか感じ、どう行動したいですか。(もっともあてはまるもの1つに○)

1. 地域として何か協力できることがあれば協力したい ⇒ 問 20 副問へ
2. 今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい ⇒ 問 20 副問へ
3. 自分にはそういう力がないので、特にはできないことはない
4. 何をどうしようもないのかかわからない
5. できるだけ関わりたい
6. その他 ( )

問 20 副問 問 20 で「1. 地域として何か協力できることがあれば協力したい」または「2. 今は無理でも、今後勉強して何か力になりたい」と答えられた方のみにお聞きします。

①認知症の人、②介護している家族に対して、あなたにはどんなことができるかと考えられますか。(あてはまるものすべてに○)

①認知症の人に対して	②介護している家族に対して
1. 話し相手になる	1. 介護負担やストレスを聴く
2. 趣味活動(料理や読書など)の相手をする	2. 認知症カフェ <sup>※</sup> の案内をする
3. 認知症カフェ <sup>※</sup> の案内をする	3. 買い物や家事などを手伝う
4. 買い物や近くまでの外出などに付き添う	4. 簡単な家の修理や掃除、庭の草刈りなどを手伝う
5. 簡単な家の修理や掃除、庭の草刈りなどを手伝う	5. 病気などの緊急時に看病をする、医者を呼ぶなどの手助けを行う
6. 病気などの緊急時に看病をする、医者を呼ぶなどの手助けを行う	6. 定期的に声をかける
7. 定期的に声をかける	7. 地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う
8. 地域の防災組織に加入し、地震などの災害時の安否確認を行う	8. その他 ( )
9. その他 ( )	9. 介護者に対して、できることはない
10. 認知症の人に対して、できることはない	

※認知症カフェ  
認知症の人やその家族、地域住民、介護や福祉などの専門家などが気軽に集い、情報交換や相談、認知症の予防や症状の改善を目的とした活動などのできる場所。

問 21 あなたは、『認知症カフェ』が近くにあれば、利用してみたいと思いますか。(○は1つ)

1. すでに利用したことがある
2. 利用したい
3. 利用したくない
4. わからない

問 22 次の相談機関や制度のうち、知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| 1. 消費生活センター    | 2. 日常生活自立支援事業(旧地域福祉権利擁護事業) |
| 3. 成年後見制度      | 4. 物忘れ相談事業                 |
| 5. 認知症初期集中支援事業 | 6. どの機関や制度も知らない            |
- ※1 消費生活センター  
消費生活に関する困りごとや、契約・解約に関することなど消費者生活全般の相談窓口。
- ※2 日常生活自立支援事業(旧地域福祉権利擁護事業)  
利用者ができる限り地域で自立した生活を継続していくために、福祉サービスの利用補助やそれに対応した日常的な金銭管理等を行う事業。
- ※3 成年後見制度  
財産管理や身上監護に関する契約等の法執行為全般を行う制度。
- ※4 物忘れ相談事業  
物忘れに関する悩みをもち高齢者やその家族を対象に、月に1回、精神科医師が相談(予約制)に対応する事業。
- ※5 認知症初期集中支援事業  
認知症状態を有しながら、受診を拒否し、治療につながらない方を専門家が訪問し、適切な医療や介護サービスの提供につないでいく事業。

問 23 認知症サポーター(認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存知ですか。(○は1つ)

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 1. 講座を受講したことがある | ⇒ 問 23 副問へ |
| 2. 名前は聞いたことがある  | ⇒ 問 23 副問へ |
| 3. 知らない         |            |

※認知症サポーター養成講座  
認知症に関する知識・理解を深めるための講座。

問 23 副問 問 23 で「2. 名前は聞いたことがある」または「3. 知らない」と答えられた方のみにお願いします。

認知症サポーター養成講座を受講したいと思いませんか。(○は1つ)

- |                               |  |
|-------------------------------|--|
| 1. 受講したい                      |  |
| 2. 興味はあるが、受講できない(多忙・健康上の理由など) |  |
| 3. 興味がない                      |  |
| 4. その他( )                     |  |

問 24 生駒市では、今年度から「認知症初期集中支援チーム」の運用を開始しています。これは、認知症の疑いがあるのに受診を拒否したり中断したりしている人や、必要があるにもかかわらず介護保険サービスを利用していない人などを対象として、保健師や精神保健福祉士などの専門職がチームを組み、認知症の専門医の協力を得ながら、認知症の人(その疑いのある人)と、そのご家族の支援を行うものです。

あなたご自身やあなたのご家族が、そのような状態になったとき、「認知症初期集中支援チーム」を利用したいと思いませんか。したくない場合には理由もご記入ください。(○は1つ)

- |                  |  |
|------------------|--|
| 1. 利用したい         |  |
| 2. 利用したくない(理由: ) |  |
| 3. その他( )        |  |
| 4. わからない         |  |

問 25 高齢化の進展に伴い、認知症を有する人も増えていきます。認知症になっても安心して暮らせるまちづくりのために、あなたの趣味や得意なこと(囲碁や将棋、手芸や園芸など)を活かして、認知症を有する人を見守る活動を検討していますが、どう感じますか。(○は1つ)

- |                                |            |
|--------------------------------|------------|
| 1. 趣味や得意なことがあるので、協力したい         | ⇒ 問 25 副問へ |
| 2. 趣味や得意なことはないが、できることがあれば協力したい | ⇒ 問 25 副問へ |
| 3. 協力できない                      |            |

問 25 副問 問 25 で「1. 趣味や得意なことがあるので、協力したい」または「2. 趣味や得意なことはないが、できることがあれば協力したい」と答えられた方のお聞きします。生駒市では認知症の方を支える「盟友(にんととも)養成事業」を開催する予定があります。その時には講座の案内をさせていただいても良いと思われる方は、下記に連絡先等をお知らせください。

住所: 〒	生駒市
氏名:	電話番号:
趣味や特技:	

※この説明でご記入いただくお名前などは、上記の講座参加のみに使用させていただきます。また、他の説明のご回答内容と併せて処理することは決まっておりますので、安心してご記入ください。

問 26 認知症の人にとって、暮らしやすい地域とはどんな地域だと思いますか。ご自由にお書きください。


■最後にあなたご自身について、おたずねします。

問 27 あなたご自身(封筒のあて名の方)についてご回答ください。おたずねした結果を統計的に分析するために大切な項目ですので、ぜひお答えくださいをお願いします。

①家族構成 ※別居されているご家族は含みません	●あなたの世帯状況を教えてください。(○は1つだけ) 1. 三世同居 2. 二世同居 3. 夫婦のみ 4. 一人暮らし 5. その他( )
②職業 (主なもの1つだけ)	●同居のご家族に65歳以上の高齢者がいますか。(あなたご自身も含めて) 1. いる 2. いない 1. 勤め人(会社員・公務員など) 2. 自営業 3. 学生 4. パート・アルバイト 5. 無職(専業主婦・主夫を含む) 6. その他( )

ご協力ありがとうございました。質問はこれで終わります。記入した調査票は3つ折りにして同封されている返信用封筒に入れ、12月27日までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)